

# 第2次 健康日本21こうなん計画

平成25年度～平成34年度



平成25年3月

江南市



江南市マスコットキャラクター  
ふじか  
藤花ちゃん



## はじめに



心身ともに健康で充実した生活を送ることは、すべての人に共通の願いです。江南市では、平成16年3月に「健康日本21 こうなん計画」を策定し、「健康で思いやりと幸せあふれるまち」をめざした施策を進めてきました。このプランでは、ライフステージに合わせた健康づくり、みんなで支える健康づくり、健康を支える環境づくりの3つを基本的な考え方とし、主に個人の生活習慣の改善による健康づくりを進めてきました。

平成24年度に国が策定した健康日本21（第2次）では、個人の健康づくりと社会環境の整備を両輪とする施策が位置づけられました。これは、個人の健康が、個人の努力だけで実現できるものではないことに着目したものとと言えます。また、こころの健康、子どもの健康、高齢者の健康に重点を置く施策が位置づけられました。

江南市においても、こうした国の施策の新しい方向性を踏まえつつ、これまで以上に人と人とのつながりを大切にした健康づくり施策を進めて行く視点から、「すべての市民が協力し、健康で思いやりと幸せあふれるまち」をめざした新しい計画を策定しました。この計画が、市民の皆様にも親しまれ、健康づくりの輪が地域に広がっていくことを願い、市も一緒になって進めていきたいと考えております。

最後になりましたが、この計画の策定のために熱心にご審議いただきました「健康日本21 こうなん計画懇談会」の委員の皆様、健康づくりのための取り組みのアイデアをたくさん出してくださいました「健康を考える市民ワークショップ」参加者の皆様、そして「健康に関する市民アンケート調査」や計画のパブリック・コメント（意見募集）においてご意見をお寄せいただきました市民の皆様にも厚くお礼申し上げます。

平成25年3月

江南市長 堀 元

# 目次

## 第Ⅰ章 健康づくりへの取り組み

1 国の施策の動向	1
2 県の施策の動向	2
3 江南市の施策の動向	2
4 計画の性格と期間	3
(1) 計画の性格	3
(2) 計画の期間	3

## 第Ⅱ章 市の現状

1 江南市の人口	5
(1) 人口の推移	5
(2) 死亡の状況	7
2 健（検）診の受診状況	10
(1) 特定健康診査の受診状況	10
(2) 後期高齢者健康診査の受診状況	11
(3) がん検診の受診状況	11
3 歯の健康	13
(1) むし歯のある子の状況	13
(2) 妊婦歯科健診の受診状況	15
(3) 節目年齢歯科健診の受診状況	16
4 母子保健の状況	17
(1) 妊娠届出時期の状況	17
(2) 妊娠中の喫煙・飲酒の状況	17
(3) 妊婦健康診査の受診状況	18
(4) フレッシュ・パパママ教室への参加状況	18
(5) 乳幼児健康診査の受診状況	19
(6) 赤ちゃん訪問の利用状況	20
5 医療費・要介護認定者の状況	21
(1) 医療費の状況	21
(2) 要介護認定者の状況	22
6 第1次計画の評価	23
(1) 栄養・食生活	23
(2) 身体活動・運動	26
(3) 休養・こころの健康づくり	27
(4) たばこ	28
(5) アルコール	30
(6) 歯の健康	32
(7) 生活習慣病（糖尿病、循環器病、がん）	34
(8) 母子保健	34

7	市の現状のポイント	35
<b>第Ⅲ章 計画の基本的な考え方</b>		
1	市のめざすべき姿	37
2	健康日本21（第2次）の5つの方向性	38
3	計画の全体イメージと体系	40
	（1）国の方向性を踏まえた本計画の全体イメージ	40
	（2）計画の体系	42
<b>第Ⅳ章 健康づくり施策の方向性</b>		
1	健康な生活習慣を実践しよう！	43
	（1）栄養・食生活	43
	（2）身体活動・運動	47
	（3）休養	50
	（4）喫煙	52
	（5）飲酒	56
	（6）歯と口腔の健康	60
2	健康な社会環境を実現しよう！	63
	（1）地域活動の活発化と参加の促進	63
	（2）健康意識を高めるネットワークの強化	65
3	社会生活を送るために必要な健康づくり！	66
	（1）こころの健康づくり	66
	（2）子どもの健康づくり	69
	（3）高齢者の健康づくり	71
4	生活習慣病を予防しよう！	73
	（1）生活習慣病予防対策の推進	73
	（2）健康に関する正しい理解の促進	76
<b>資料編</b>		
1	市民の声の概要	77
	（1）「健康に関する市民アンケート調査」の概要	77
	（2）「健康を考える市民ワークショップ」の概要	77
2	計画の全体像	80
3	計画策定経過	82
4	第2期健康日本21 こうなん計画懇談会設置要綱	83
5	健康日本21 こうなん計画策定委員会設置要綱	85



# 第 I 章

## 健康づくりへの取り組み



江南市マスコットキャラクター  
ふじか  
藤花ちゃん





健康で暮らすことは、みんなの願いです。我が国の平均寿命は、昭和 59 年以降世界最高の水準を維持していますが、健康寿命の延伸と生活の質の向上をめざした施策が重要視されています。

国は、昭和 53 年から、10 年を 1 期とする「国民健康づくり対策」を進めてきました。第 3 次国民健康づくり対策となる『21 世紀における国民健康づくり運動（健康日本 21）』（平成 12 年 3 月策定）では、壮年期死亡の減少、健康寿命の延伸及び生活の質の向上の実現をめざした取り組みを進めてきました。

また、平成 12 年 11 月には『健やか親子 21』を策定し、母子の健康づくりへの取り組みも進めてきました。

健康日本 21 は、13 年間（平成 12 年度～平成 24 年度）にわたり進められてきましたが、この間にも人口の少子高齢化が進み、社会経済環境の変化や疾病構造の変化など、これまで以上に広い視点での健康づくり対策が必要となっています。今まで、主に一人ひとりの生活習慣の改善等による「1 次予防」の推進を基本的な考え方としてきましたが、個人の努力だけでは解決できない社会環境との関係にも着目した健康づくりが必要とされています。こうした背景から、健康日本 21（第 2 次）では、個人の健康づくりと社会環境の整備を両輪とし、全ての国民が共に支え合い、健康で幸せに暮らせる社会の実現をめざしています。

## 2

## 県の施策の動向

国の健康日本21を受け、県は平成13年3月に『健康日本21 あいち計画』を策定しています。この計画では、健康寿命の延伸や親と子が健やかに暮らすことができる社会づくりのため、県民や健康づくりを推進する関係者が取り組むべき具体的な目標を設定しています。

平成19年度には、医療費適正化計画との整合性を図るため、メタボリック・シンドロームの概念を導入した生活習慣病対策が追加されています。

## 3

## 江南市の施策の動向

市は、国の健康日本21及び県の『健康日本21 あいち計画』を受け、平成16年3月に『健康日本21 こうなん計画（第1次）』（以降、第1次計画と表す）を策定しました。計画では、「健康で思いやりと幸せあふれるまち」を実現するため、一次予防を重視した施策をライフステージごとに体系化しています。また、行政、地域、団体、職場、学校、医療機関などが連携して施策を進める体制の構築をめざしてきました。



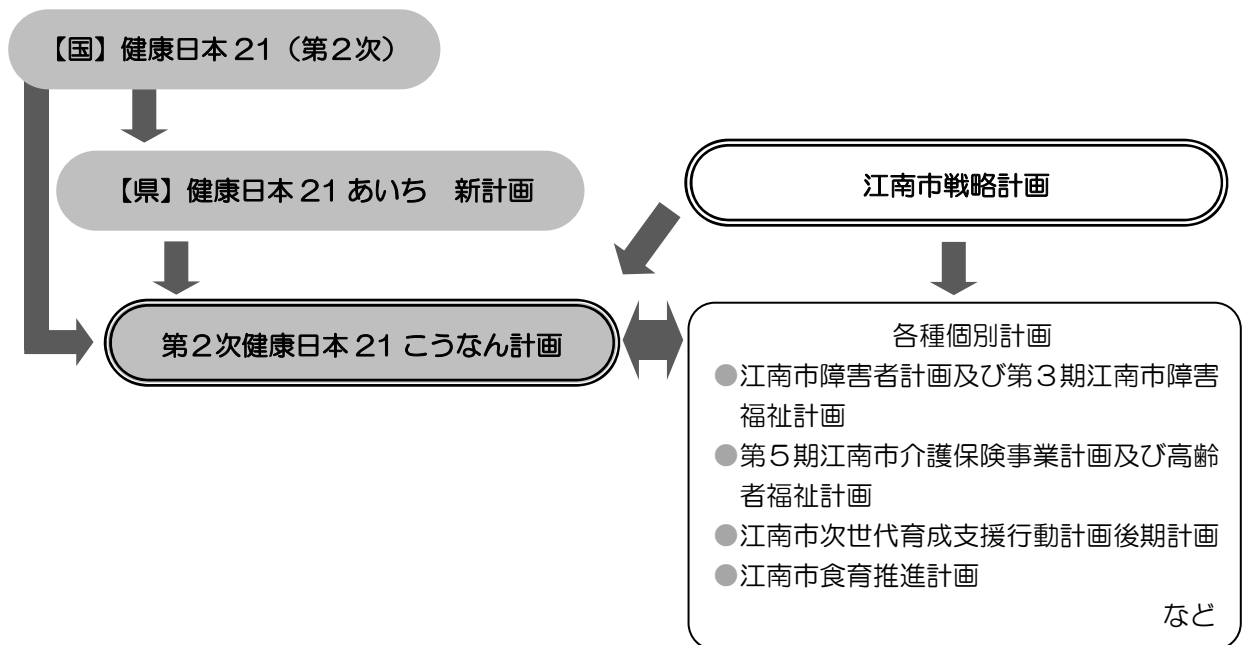
## 4 計画の性格と期間

### (1) 計画の性格

この計画は、国の「健康日本 21（第2次）」、県の「健康日本 21 あいち 新計画」を踏まえて策定したものです。

この計画は、健康増進法に規定されている市町村の健康増進計画としての位置づけをもつものです。

この計画は、第1次計画の成果を検証し、さらに効果的な施策を進めるために策定したものです。



### (2) 計画の期間

この計画の期間は、平成 25 年度から平成 34 年度までの 10 か年とします。

計画の中間年度となる平成 29 年度には、目標の達成状況等の中間評価を行います。

平成 16 年度	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	平成 34 年度
第1次計画											
	第2次計画										
						中間評価					



## 第Ⅱ章

### 市の現状



江南市マスコットキャラクター  
ふじか  
藤花ちゃん



# 1 江南市の人口

## (1) 人口の推移

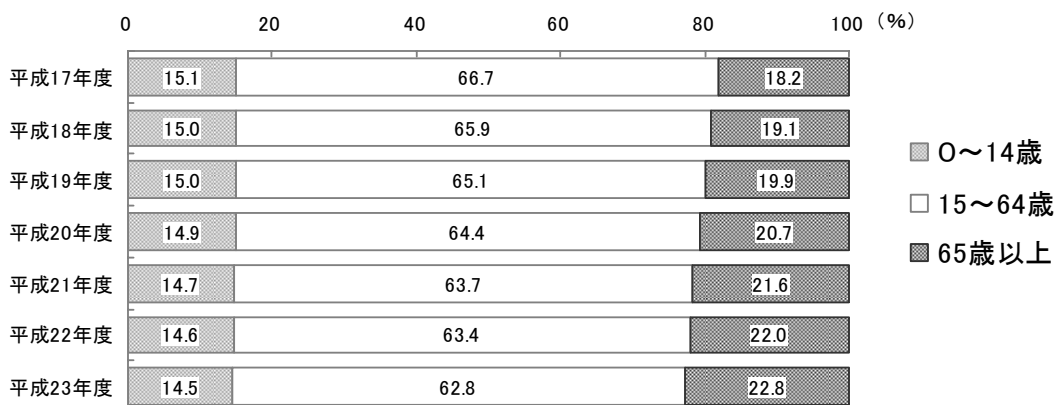
江南市の総人口は、平成20年度まで増加し続け10万2千人を超えましたが、その後減少し、平成23年度は101,591人となっています。出生数（0歳）は平成18～20年度では900人前後となっていますが、平成21年度以降は約800人と減少しています。また、15～64歳の人口は減少し続けており、特に平成21年度は前年比マイナス949人と減少幅が大きくなっています。一方、65歳以上の人口は増加し続けており、特に平成21年度までは毎年900人前後と大幅に増えています。

年齢3区分別人口割合をみると、15～64歳の割合は年々低下しています。65歳以上の割合（高齢化率）は平成17年度の18.2%から平成23年度の22.8%へと増加しています。

表 人口の推移

		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
総人口	人	100,956	101,368	101,774	102,128	101,857	101,714	101,591
0～14歳	人	15,259	15,228	15,253	15,214	15,016	14,850	14,684
	0歳	849	915	897	892	821	802	817
15～64歳	人	67,353	66,817	66,303	65,804	64,855	64,447	63,792
65歳以上	人	18,344	19,323	20,218	21,110	21,986	22,417	23,115
	65～74歳	人	11,103	11,749	12,241	12,756	12,917	13,156
		%	11.0	11.6	12.0	12.5	12.7	12.9
	75歳以上	人	7,241	7,574	7,977	8,354	9,500	9,959
	%	7.2	7.5	7.8	8.2	8.8	9.3	9.8

図 年齢3区分別人口割合の推移

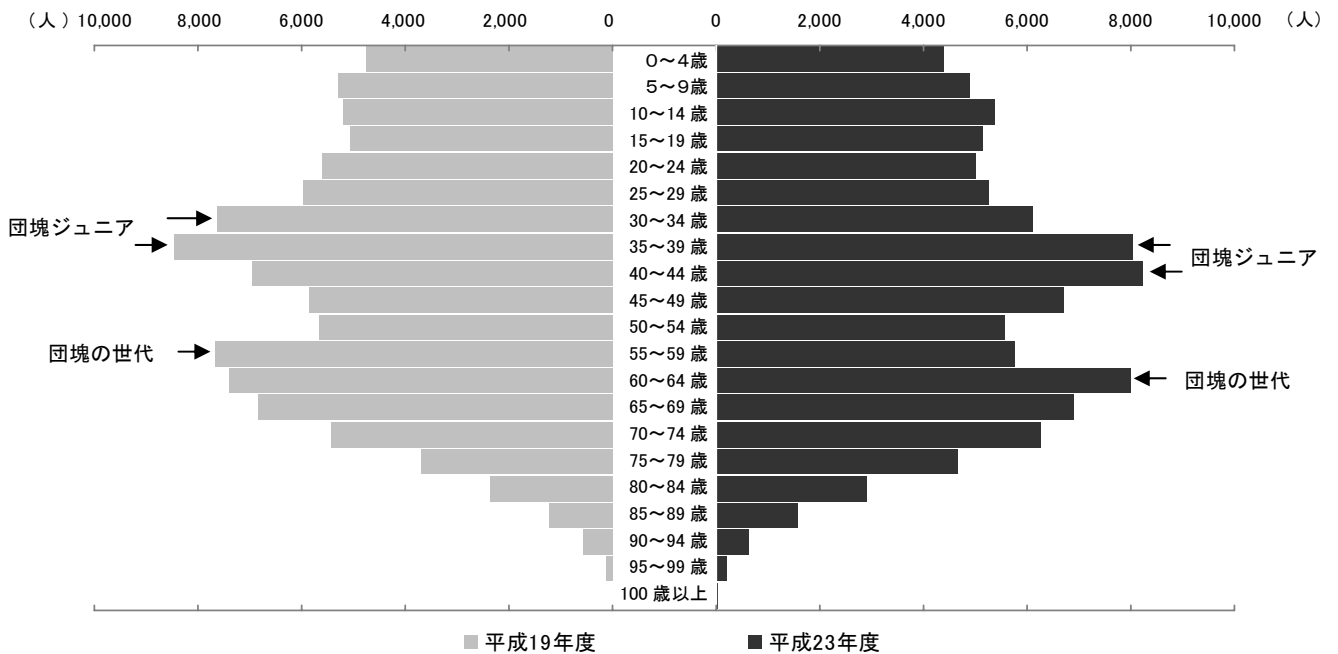


資料：住民基本台帳（各年度3月31日現在）

※割合（%）は該当年齢人口÷総人口のため、「65～74歳」と「75歳以上」の割合の計が「65歳以上」の割合と一致しない場合があります。

第1次計画の中間評価を行った平成19年度と平成23年度の5歳階級別人口をみると、団塊ジュニアの世代と団塊の世代の2つの山があり、平成24年度から団塊の世代が高年期を迎えることがわかります。

図 5歳階級別人口の推移

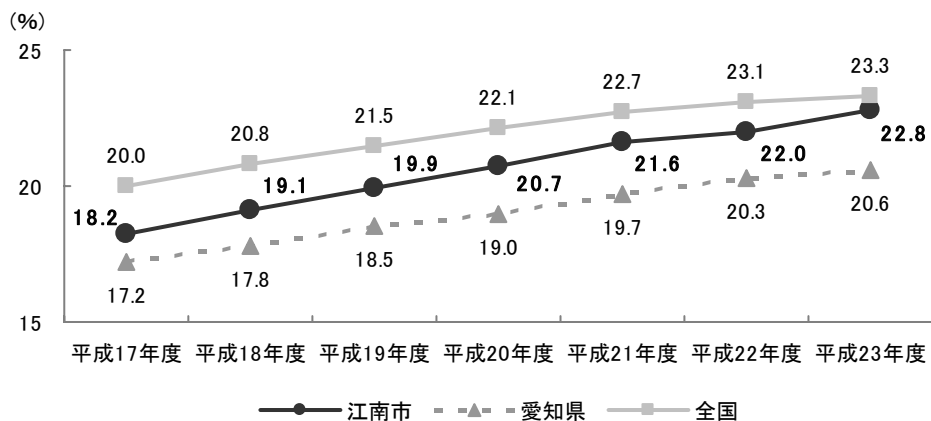


資料：住民基本台帳（各年度3月31日現在）

※昭和22（1947）年から昭和24（1949）年に生まれた世代を「団塊の世代」、昭和46（1971）年から昭和49（1974）年に生まれた世代を「団塊ジュニア」と呼びます。平成23（2011）年時点で団塊の世代は62～64歳、団塊ジュニアは37～40歳の人が該当します。

高齢化率は、愛知県より高く、全国より低い値で推移しています。

図 高齢化率の推移（愛知県、全国との比較）



資料：江南市は「住民基本台帳」（各年度3月31日現在）、愛知県は愛知県県民生活部統計課「あいちの人口」（各年度10月1日現在）、全国は総務省統計局「人口推計」（各年度10月1日現在）

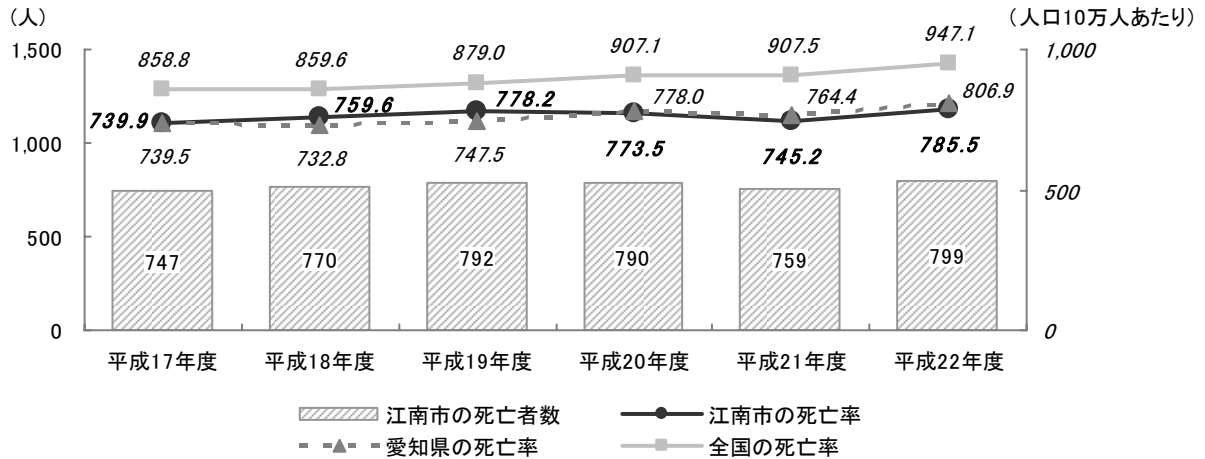


## (2) 死亡の状況

死亡者数は、およそ740～800人で推移しています。

死亡率（人口10万人あたり）は、全国よりも低く、愛知県とほぼ同じ値で推移しています。

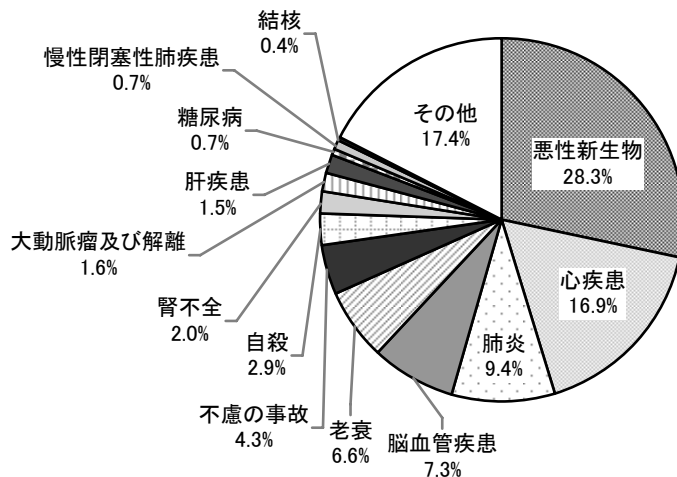
図 死亡者数と死亡率（人口10万人あたり）の推移（愛知県、全国との比較）



資料：江南市の死亡者数は、愛知県健康福祉部医療福祉計画課「愛知県衛生年報」、死亡率の分母となる人口は「住民基本台帳」。愛知県は愛知県健康福祉部医療福祉計画課「愛知県衛生年報」。全国は厚生労働省「人口動態統計」。

平成22年度の死因別割合をみると、「悪性新生物」が死因の約3割を占めています。次いで、「心疾患」が16.9%、「肺炎」が9.4%、「脳血管疾患」が7.3%となっています。

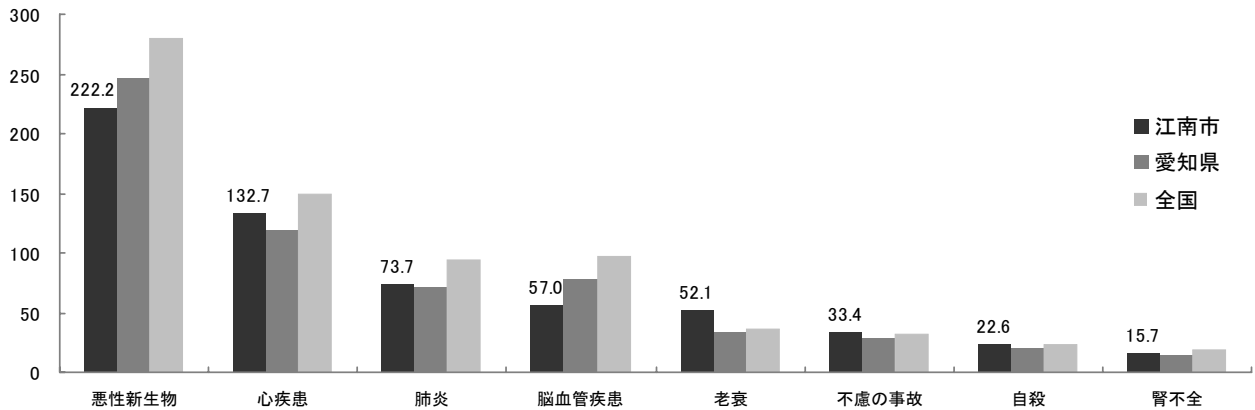
図 平成22年度の死因別割合



資料：愛知県健康福祉部医療福祉計画課「愛知県衛生年報」

死因別死亡率（人口 10 万人あたり）をみると、死因別割合が高い「悪性新生物」「心疾患」「肺炎」「脳血管疾患」は全国よりも低く、「脳血管疾患」については愛知県と比較しても低くなっています。一方、「老衰」は全国、愛知県よりも高くなっています。

図 平成 22 年度の死因別死亡率（人口 10 万人あたり）（愛知県、全国との比較）



資料：江南市の死亡者数は、愛知県健康福祉部医療福祉計画課「愛知県衛生年報」、死亡率の分母となる人口は「住民基本台帳」。愛知県は、愛知県健康福祉部医療福祉計画課「愛知県衛生年報」。全国は、厚生労働省「人口動態統計」。

表 主要死因別死亡者数の推移（愛知県、全国との比較）

【江南市】

(人)

	総数		悪性新生物		心疾患		肺炎		脳血管疾患		老衰	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
平成 17 年度	747	739.9	222	219.9	115	113.9	76	75.3	73	72.3	46	45.6
平成 18 年度	770	759.6	219	216.0	126	124.3	72	71.0	81	79.9	40	39.5
平成 19 年度	792	778.2	235	230.9	130	127.7	85	83.5	80	78.6	37	36.4
平成 20 年度	790	773.5	242	237.0	131	128.3	94	92.0	69	67.6	23	22.5
平成 21 年度	759	745.2	247	242.5	109	107.0	77	75.6	60	58.9	44	43.2
平成 22 年度	799	785.5	226	222.2	135	132.7	75	73.7	58	57.0	53	52.1

	不慮の事故		自殺		腎不全		大動脈瘤及び解離		肝疾患		糖尿病	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
平成 17 年度	39	38.6	22	21.8	17	16.8	6	5.9	6	5.9	9	8.9
平成 18 年度	24	23.7	25	24.7	11	10.9	12	11.8	7	6.9	11	10.9
平成 19 年度	22	21.6	20	19.7	16	15.7	11	10.8	12	11.8	9	8.8
平成 20 年度	28	27.4	17	16.6	14	13.7	10	9.8	3	2.9	13	12.7
平成 21 年度	17	16.7	28	27.5	10	9.8	15	14.7	5	4.9	5	4.9
平成 22 年度	34	33.4	23	22.6	16	15.7	13	12.8	12	11.8	6	5.9

	慢性閉塞性肺疾患		結核		高血圧性疾患		喘息	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
平成 17 年度	7	6.9	2	2.0	1	1.0	2	2.0
平成 18 年度	12	11.8	2	2.0	1	1.0	0	0.0
平成 19 年度	11	10.8	2	2.0	3	2.9	1	1.0
平成 20 年度	5	4.9	5	4.9	1	1.0	1	1.0
平成 21 年度	9	8.8	1	1.0	1	1.0	3	2.9
平成 22 年度	6	5.9	3	2.9	0	0.0	0	0.0

資料：死亡数は愛知県健康福祉部医療福祉計画課「愛知県衛生年報」、分母となる人口は「住民基本台帳」

※率は人口 10 万人あたり

【愛知県】

(人)

	総数		悪性新生物		心疾患		肺炎		脳血管疾患		老衰	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
平成 17 年度	52,536	739.5	15,876	223.5	8,767	123.4	4,862	68.4	6,196	87.2	1,431	20.1
平成 18 年度	52,294	732.8	15,929	223.2	8,294	116.2	4,989	69.9	6,097	85.4	1,334	18.7
平成 19 年度	53,618	747.5	16,570	231.0	8,099	112.9	5,225	72.8	5,859	81.7	1,626	22.7
平成 20 年度	56,036	778.0	17,049	236.7	8,419	116.9	5,315	73.8	6,011	83.5	1,804	25.0
平成 21 年度	55,189	764.4	16,888	233.9	8,047	111.5	5,040	69.8	5,548	76.8	2,063	28.6
平成 22 年度	58,477	806.9	17,814	245.8	8,642	119.2	5,190	71.6	5,677	78.3	2,383	32.9

	不慮の事故		自殺		腎不全		大動脈瘤及び脳解離		肝疾患		糖尿病	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
平成 17 年度	2,064	29.1	1,466	20.6	926	13.0	618	8.7	732	10.3	586	8.2
平成 18 年度	2,027	28.4	1,455	20.4	1,037	14.5	601	8.4	704	9.9	538	7.5
平成 19 年度	1,991	27.8	1,415	19.7	952	13.3	624	8.7	737	10.3	589	8.2
平成 20 年度	1,987	27.6	1,441	20.0	1,005	14.0	752	10.4	768	10.7	623	8.6
平成 21 年度	1,913	26.5	1,512	20.9	989	13.7	744	10.3	720	10.0	648	9.0
平成 22 年度	2,094	28.9	1,434	19.8	1,070	14.8	789	10.9	736	10.2	623	8.6

	慢性閉塞性肺疾患		結核		高血圧性疾患		喘息	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
平成 17 年度	586	8.2	129	1.8	203	2.9	148	2.1
平成 18 年度	559	7.8	116	1.6	214	3.0	101	1.4
平成 19 年度	589	8.2	123	1.7	238	3.3	93	1.3
平成 20 年度	594	8.2	139	1.9	219	3.0	86	1.2
平成 21 年度	628	8.7	124	1.7	220	3.0	80	1.1
平成 22 年度	689	9.5	153	2.1	235	3.2	57	0.8

資料：愛知県健康福祉部医療福祉計画課「愛知県衛生年報」

※率は人口 10 万人あたり

【全国】

(人)

	総数		悪性新生物		心疾患		肺炎		脳血管疾患		老衰	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
平成 17 年度	1,083,796	858.8	325,941	258.3	173,125	137.2	107,241	85.0	132,847	105.3	26,360	20.9
平成 18 年度	1,084,450	859.6	329,314	261.0	173,024	137.2	107,242	85.0	128,268	101.7	27,764	22.0
平成 19 年度	1,108,334	879.0	336,468	266.9	175,539	139.2	110,159	87.4	127,041	100.8	30,734	24.4
平成 20 年度	1,142,407	907.1	342,963	272.3	181,928	144.4	115,317	91.6	127,023	100.9	35,975	28.6
平成 21 年度	1,141,865	907.5	344,105	273.5	180,745	143.7	112,004	89.0	122,350	97.2	38,670	30.7
平成 22 年度	1,197,012	947.1	353,499	279.7	189,360	149.8	118,888	94.1	123,461	97.7	45,342	35.9

	不慮の事故		自殺		腎不全		大動脈瘤及び脳解離		肝疾患		糖尿病	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
平成 17 年度	39,863	31.6	30,553	24.2	20,528	16.3	11,392	9.0	16,430	13.0	13,621	10.8
平成 18 年度	38,270	30.3	29,921	23.7	21,158	16.8	11,665	9.2	16,267	12.9	13,650	10.8
平成 19 年度	37,966	30.1	30,827	24.4	21,632	17.2	12,396	9.8	16,195	12.8	13,999	11.1
平成 20 年度	38,153	30.3	30,229	24.0	22,517	17.9	13,440	10.7	16,268	12.9	14,462	11.5
平成 21 年度	37,756	30.0	30,707	24.4	22,743	18.1	13,904	11.1	15,969	12.7	13,987	11.1
平成 22 年度	40,732	32.2	29,554	23.4	23,725	18.8	15,209	12.0	16,216	12.8	14,422	11.4

	慢性閉塞性肺疾患		結核		高血圧性疾患		喘息	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
平成 17 年度	14,416	11.4	2,296	1.8	5,835	4.6	3,198	2.5
平成 18 年度	14,357	11.4	2,269	1.8	5,810	4.6	2,778	2.2
平成 19 年度	14,907	11.8	2,194	1.7	6,144	4.9	2,540	2.0
平成 20 年度	15,520	12.3	2,220	1.8	6,264	5.0	2,348	1.9
平成 21 年度	15,359	12.2	2,159	1.7	6,223	4.9	2,139	1.7
平成 22 年度	16,293	12.9	2,129	1.7	6,760	5.3	2,065	1.6

資料：厚生労働省「人口動態統計」

※率は人口 10 万人あたり

## 2

# 健（検）診の受診状況

## (1) 特定健康診査の受診状況

国民健康保険に加入している40～74歳の人々の特定健康診査の受診率は、44～46%台で推移しており、愛知県、全国よりも高い値となっています。しかし、健診の結果、メタボリック・シンドローム（内臓脂肪症候群）に該当、もしくは、その予備群と判定された人に対して行う特定保健指導の利用率は、愛知県、全国よりも低くなっています。また、特定保健指導の対象率は愛知県、全国とほぼ同じ値となっています。

表 特定健康診査の受診者数の推移

			平成20年度	平成21年度	平成22年度
江南市	対象者	人	17,503	17,709	17,777
	受診者	人	7,847	8,213	8,114

図 特定健康診査の受診率の推移（愛知県、全国との比較）

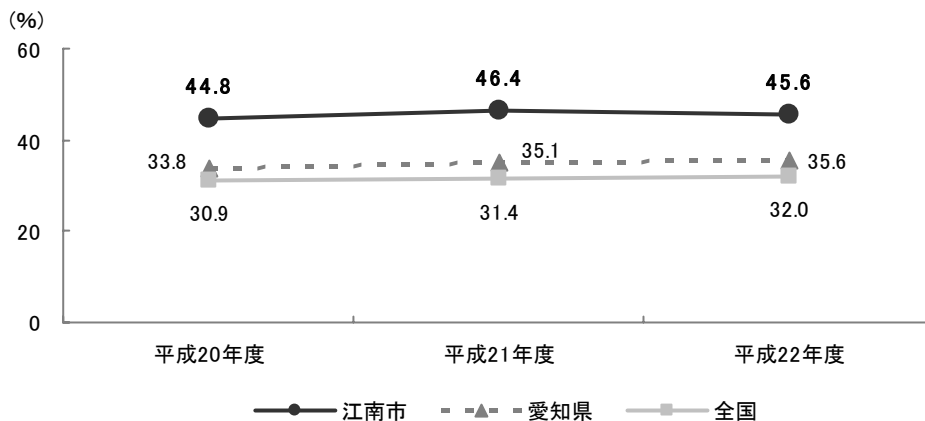


図 特定保健指導の利用率の推移

（愛知県、全国との比較）

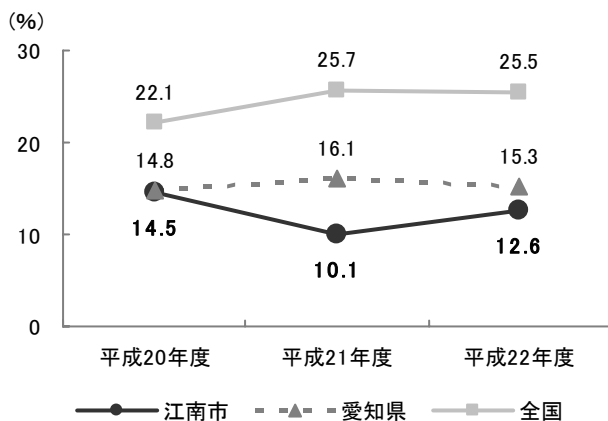
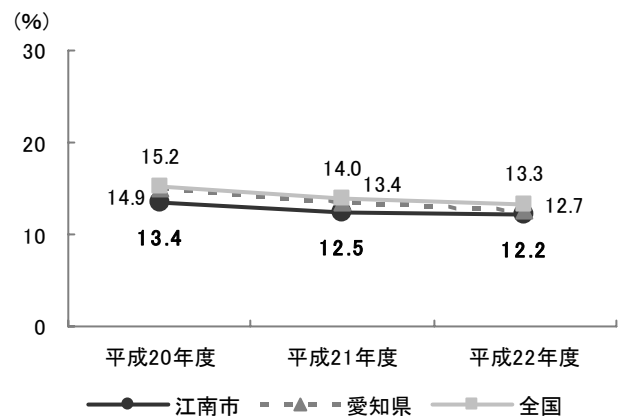


図 特定保健指導の対象率の推移

（愛知県、全国との比較）



資料：厚生労働省「特定健康診査・特定保健指導の実施状況」

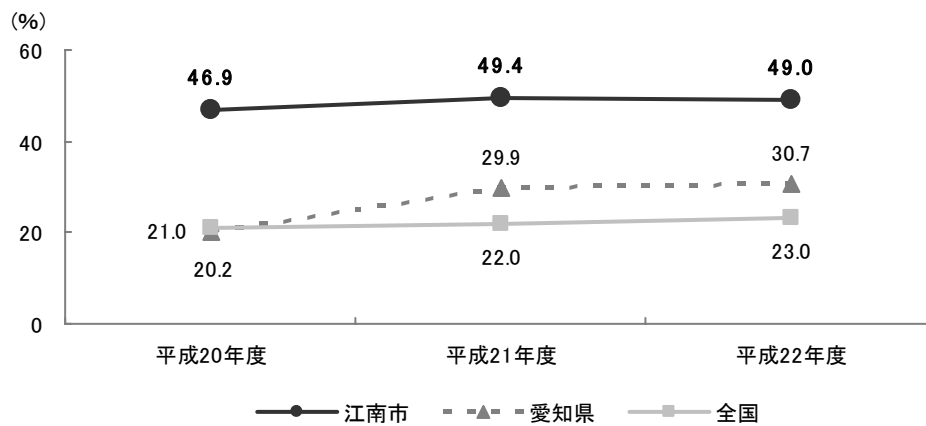
## (2) 後期高齢者健康診査の受診状況

後期高齢者健康診査の受診率は、46～49%台で推移しており、特定健康診査同様、愛知県、全国よりも高い値となっています。

表 後期高齢者健康診査の受診者数の推移

			平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
江南市	対象者	人	8,501	8,924	9,482
	受診者	人	3,990	4,411	4,650

図 後期高齢者健康診査の受診率の推移（愛知県、全国との比較）



資料：愛知県高齢者医療広域連合

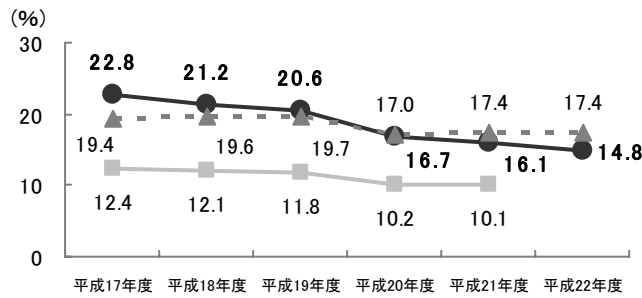
## (3) がん検診の受診状況

各がん検診の受診率をみると、「胃がん検診」「大腸がん検診」「肺がん検診」は平成 17 年度に比べ 8%以上低下しています。「子宮がん検診」は平成 17 年度の 15.1%から平成 20 年度の 7.4%へと低下しましたが、平成 21 年度、22 年度は 12%台に回復しています。「乳がん検診」は増加傾向になっています。「前立腺がん検診」は平成 22 年度が最も高く、1.4%となっています。

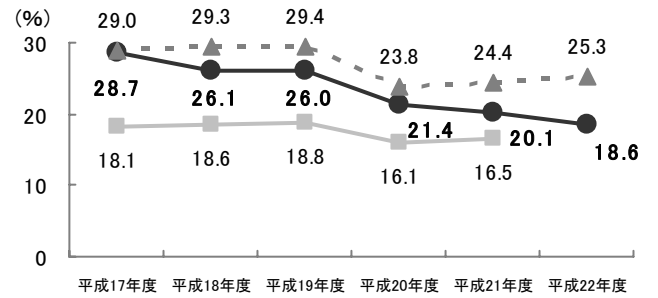
愛知県、全国との比較をみると、「胃がん検診」「大腸がん検診」「肺がん検診」は全国より高い値で推移していますが、「子宮がん検診」は低くなっています。また、「大腸がん検診」「肺がん検診」は愛知県よりも低くなっています。「乳がん検診（X線）」は愛知県、全国よりも低くなっています。

図 各がん検診の受診率の推移（愛知県、全国との比較）

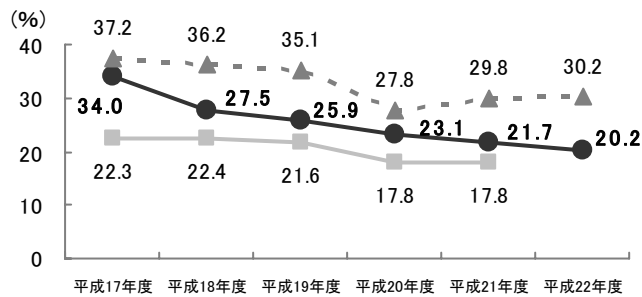
【胃がん】



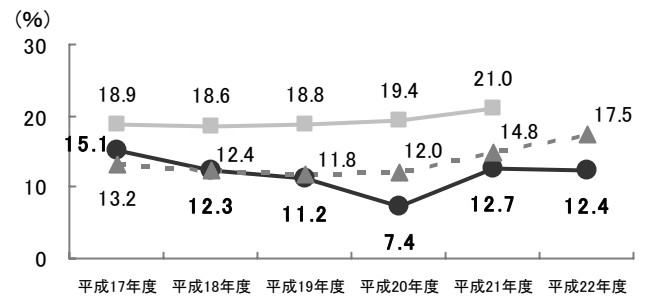
【大腸がん】



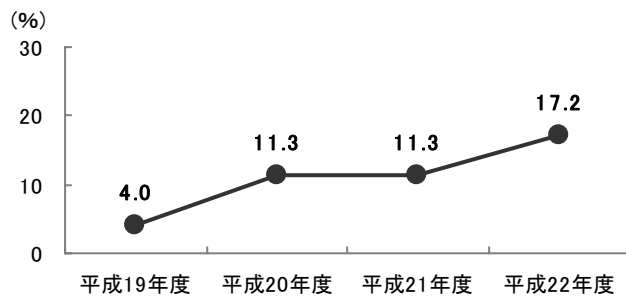
【肺がん】



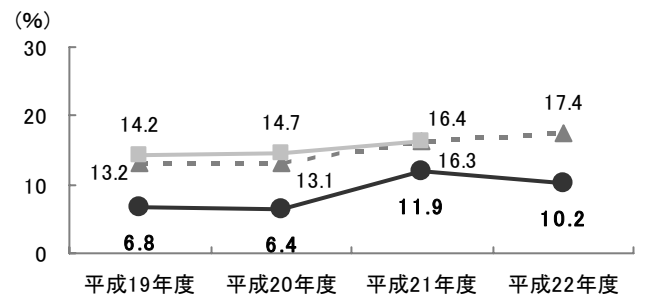
【子宮がん】



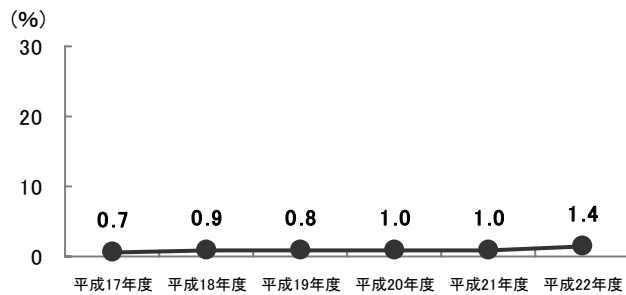
【乳がん（超音波）】



【乳がん（X線）】



【前立腺がん】



● 江南市    ▲ 愛知県    ■ 全国

資料：江南市は江南市健康づくり課、愛知県及び全国は「平成22年度各がん検診の結果報告」

### 3 歯の健康

#### (1) むし歯のある子の状況

むし歯のある1歳6か月児の割合は、1～2%台で、ほぼ横ばいで推移しています。むし歯のある3歳児の割合は減少傾向にあります。いずれも愛知県とほぼ同様の推移をしています。

表 むし歯のある幼児の推移

			平成 17年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 20年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 23年度
1歳6か月児	対象者	人	991	940	914	962	932	866	828
	むし歯のある子	人	13	16	20	22	15	21	9
3歳児	対象者	人	964	970	1,005	919	965	941	927
	むし歯のある子	人	172	166	189	138	145	141	123

図 むし歯のある1歳6か月児の割合の推移

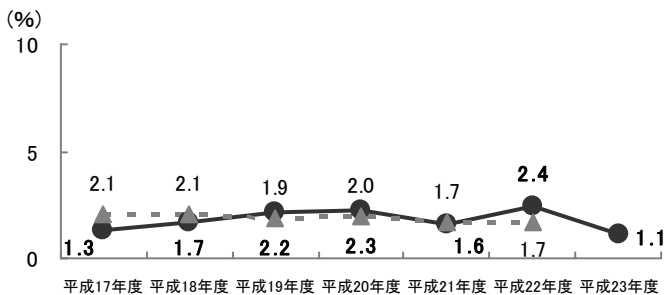
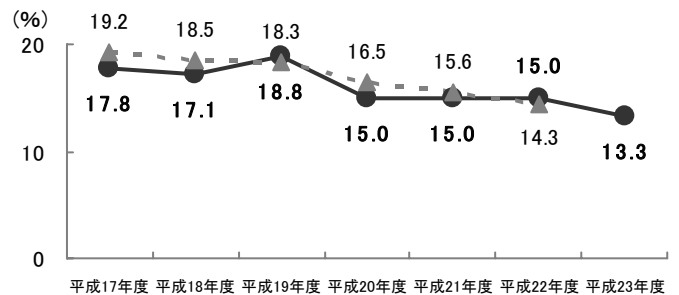


図 むし歯のある3歳児の割合の推移



● 江南市      ▲ 愛知県

資料：江南市は江南市健康づくり課、愛知県は江南保健所

むし歯のある小学生の割合は、学年が上がるほど高くなっており、平成 23 年度の小学 6 年生は小学 1 年生のおよそ 7 倍の割合となっています。しかし、推移をみると、平成 22 年度以降小学 4～6 年生の割合は低下しており、改善傾向がみられます。

愛知県と比較すると、平成 21 年度の小学 5～6 年生は愛知県より 5%ほど高くなっていますが、平成 23 年度では、小学 6 年生はほぼ同じ値、小学 5 年生は 3%ほど低くなっています。小学 1～4 年生は愛知県とほぼ同じ推移となっています。

表 むし歯のある小学生の推移

				平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
小学 1 年生	江南市	受診者	人	1,061	1,007	971	992
		むし歯のある子	人	75	50	27	35
		むし歯のある子の割合	%	7.1	5.0	2.8	3.5
	愛知県	むし歯のある子の割合	%	3.4	3.5	3.2	2.5
小学 2 年生	江南市	受診者	人	1,119	1,060	998	966
		むし歯のある子	人	88	96	84	56
		むし歯のある子の割合	%	7.9	9.1	8.4	5.8
	愛知県	むし歯のある子の割合	%	9.7	7.7	7.0	6.9
小学 3 年生	江南市	受診者	人	1,038	1,130	1,074	994
		むし歯のある子	人	148	155	118	122
		むし歯のある子の割合	%	14.3	13.7	11.0	12.3
	愛知県	むし歯のある子の割合	%	15.3	13.5	11.4	11.0
小学 4 年生	江南市	受診者	人	1,048	1,032	1,131	1,075
		むし歯のある子	人	237	197	180	168
		むし歯のある子の割合	%	22.6	19.1	15.9	15.6
	愛知県	むし歯のある子の割合	%	21.1	18.7	17.2	15.1
小学 5 年生	江南市	受診者	人	1,027	1,057	1,032	1,139
		むし歯のある子	人	268	303	220	197
		むし歯のある子の割合	%	26.1	28.7	21.3	17.3
	愛知県	むし歯のある子の割合	%	27.7	23.3	21.7	20.6
小学 6 年生	江南市	受診者	人	1,025	1,025	1,056	1,030
		むし歯のある子	人	335	347	297	259
		むし歯のある子の割合	%	32.7	33.9	28.1	25.1
	愛知県	むし歯のある子の割合	%	32.8	28.7	26.2	24.6

資料：江南保健所



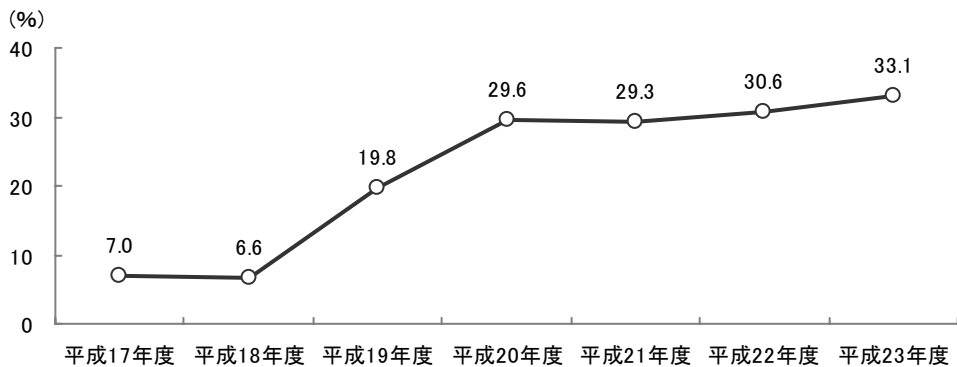
## (2) 妊婦歯科健診の受診状況

妊婦歯科健診の受診率は、医療機関での個別健診を開始した平成19年度から平成20年度にかけて急激に伸びています。その後は横ばいで推移し、平成23年度は33.1%となっています。

表 妊婦歯科健診受診者数の推移

		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
対象者	人	880	910	941	945	830	855	825
受診者	人	62	60	186	280	243	262	273

図 妊婦歯科健診受診率の推移



資料：江南市健康づくり課

### (3) 節目年齢歯科健診の受診状況

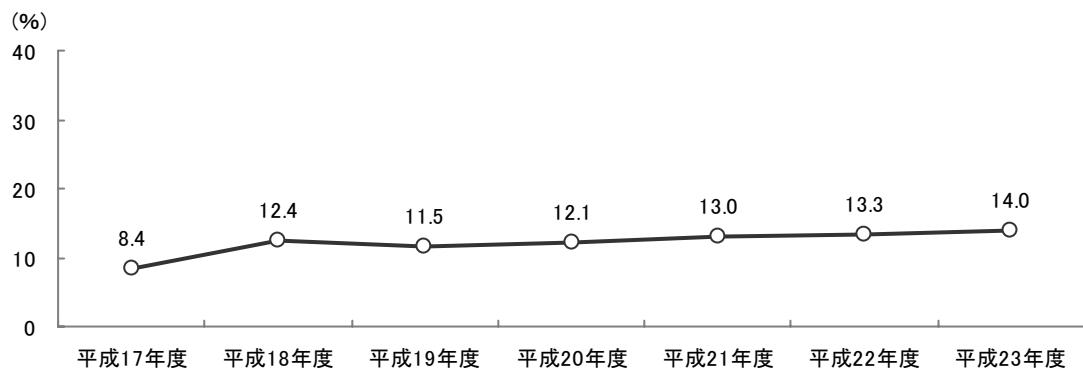
節目年齢歯科健診は、当該年度に40歳、45歳、50歳、55歳、60歳、65歳、70歳、75歳になる方を対象に行っており、受診率は増加傾向にあります。平成23年度はおよそ7人に1人（14.0%）が受診しています。

表 節目年齢歯科健診受診者数の推移

		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
対象者	人	4,831	4,852	5,674	9,778	9,668	9,319	10,705
受診者	人	408	602	651	1,182	1,261	1,235	1,503

※平成17年度は40、50、60、70歳を対象とし、平成20年度に45、55、65歳の対象者を追加拡大、さらに平成23年度に75歳の対象者を追加拡大した。

図 節目年齢歯科健診受診率の推移



資料：江南市健康づくり課

## 4 母子保健の状況

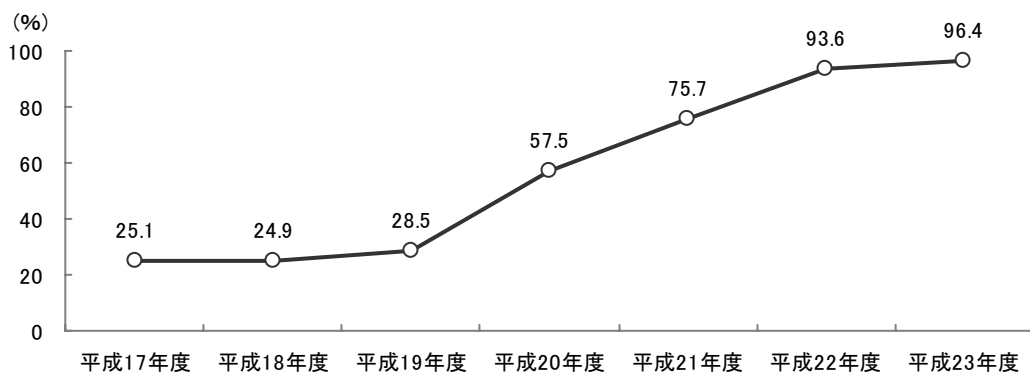
### (1) 妊娠届出時期の状況

妊娠届出書の提出者数は、平成20年度の945人をピークに、その後は800人台となっています。そのうち、満11週以下で提出した人の割合をみると、平成19年度までは2割台で推移していますが、妊婦健康診査公的補助の拡大に伴い増加を続け、平成23年度では96.4%となっています。

表 妊娠届出書を満11週以下に提出した人数の推移

		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
提出者	人	880	910	941	945	830	855	825
満11週以下	人	221	227	268	543	628	800	795

図 妊娠届出書を満11週以下に提出した人の割合



資料：江南市健康づくり課

### (2) 妊娠中の喫煙・飲酒の状況

妊娠中の喫煙者は4%前後、飲酒者は0.7~2.1%の間で推移しており、いずれも0%（0人）ではありません。

表 妊娠中の喫煙者数・飲酒者数等の推移

		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
対象者	人	910	941	945	830	855	825
喫煙者	人	36	33	39	40	36	30
喫煙者の割合	%	4.0	3.5	4.1	4.8	4.2	3.6
飲酒者	人	15	10	7	16	8	17
飲酒者の割合	%	1.6	1.1	0.7	1.9	0.9	2.1

資料：江南市健康づくり課

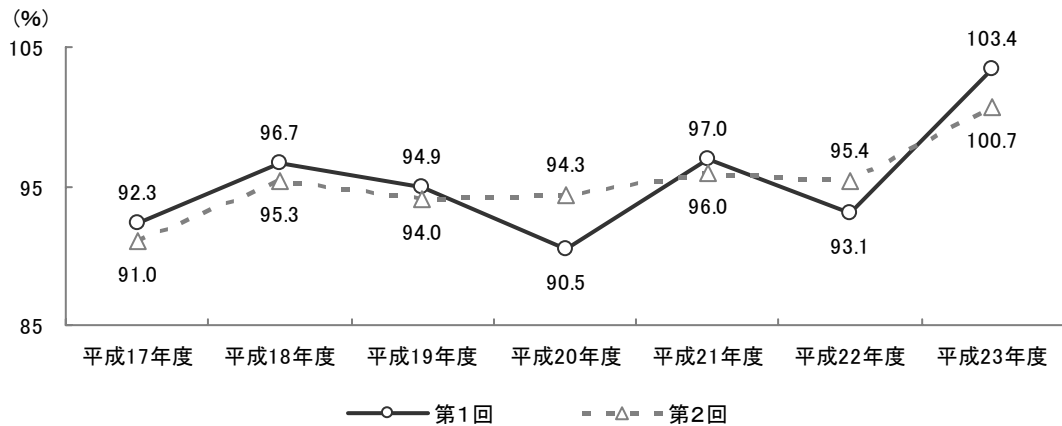
### (3) 妊婦健康診査の受診状況

妊婦健康診査の受診率をみると、第1回、第2回ともに90%以上で推移しています。

表 妊婦健康診査の受診者数の推移

		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
対象者	人	880	910	941	945	830	855	825
第1回受診者	人	812	880	893	855	805	796	853
第2回受診者	人	801	867	885	891	797	816	831

図 妊婦健康診査の受診率の推移



資料：江南市健康づくり課

### (4) フレッシュ・パパママ教室への参加状況

フレッシュ・パパママ教室の参加率は、20%前後で推移しています。

表 フレッシュ・パパママ教室への参加者数等の推移

		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
対象者	人	880	910	941	945	830	855	825
参加者	人	168	187	174	179	170	177	178
参加率	%	19.1	20.5	18.5	18.9	20.5	20.7	21.6

資料：江南市健康づくり課

※参加者は妊婦の人数

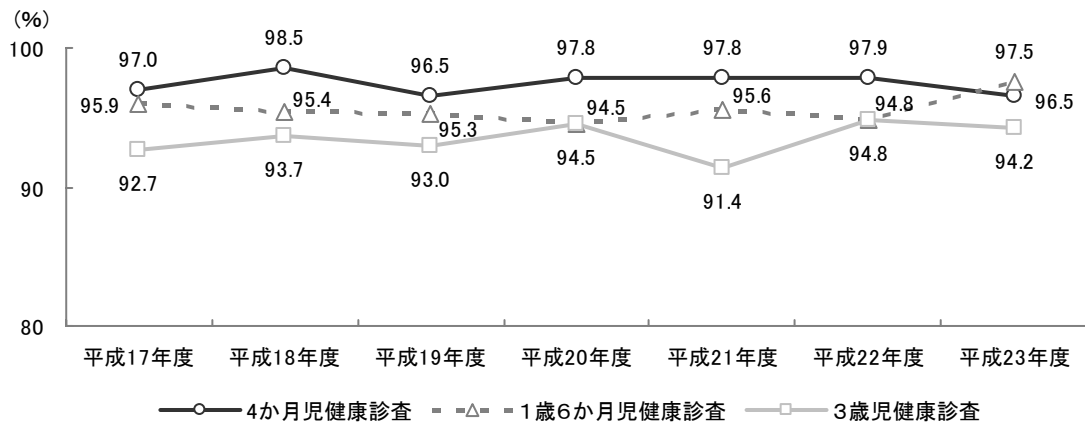
## (5) 乳幼児健康診査の受診状況

乳幼児健康診査の受診率は、いずれも90%以上で推移していますが、3歳児健康診査は、ほとんどの年度で、4か月児、1歳6か月児健康診査に比べ受診率が低くなっています。

表 乳幼児健康診査の受診者数の推移

			平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
4か月児 健康診査	対象者	人	869	908	939	914	898	800	821
	受診者	人	843	894	906	894	878	783	792
1歳6か月児 健康診査	対象者	人	991	940	914	962	932	866	828
	受診者	人	950	897	871	909	891	821	807
3歳児 健康診査	対象者	人	964	970	1,005	919	965	941	927
	受診者	人	894	909	935	868	882	892	873

図 乳幼児健康診査の受診率の推移



資料：江南市健康づくり課

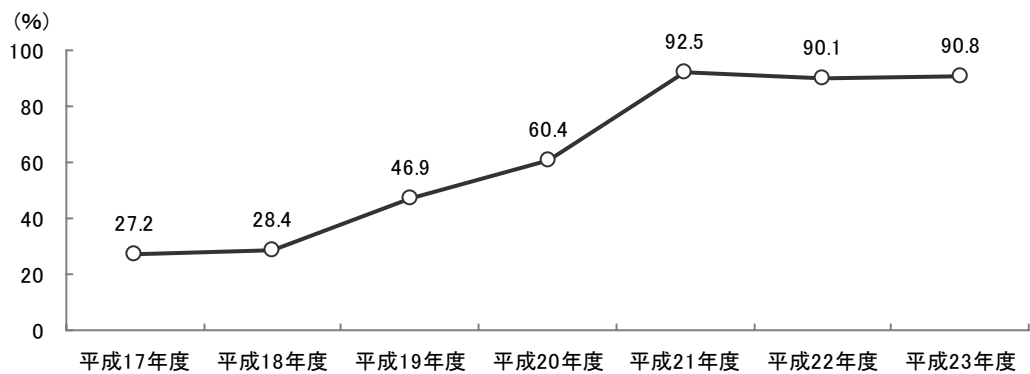
## (6) 赤ちゃん訪問の利用状況

生後4か月未満の赤ちゃんとその保護者の家庭を保健師等が訪問する赤ちゃん訪問の利用率は、平成18年度までは20%台で推移していますが、その後増加し、平成21年度以降は90%台となっています。これは、平成19年度に全戸訪問事業が開始され、平成21年度に完全実施となったためです。

表 赤ちゃん訪問の利用者数の推移

		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
対象者	人	869	908	910	914	839	815	833
利用者	人	236	258	427	552	776	734	756

図 赤ちゃん訪問の利用率の推移



資料：江南市健康づくり課

# 5

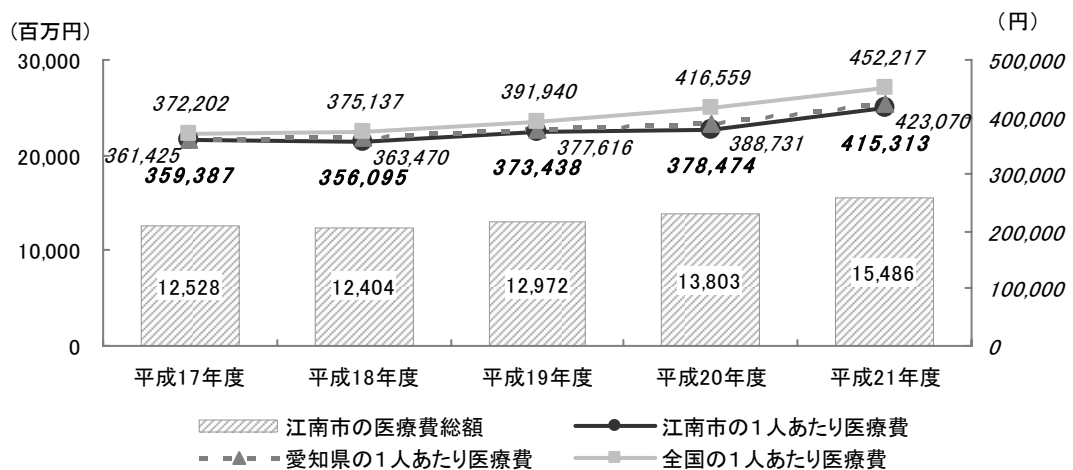
## 医療費・要介護認定者の状況

### (1) 医療費の状況

本市の医療費の総額をみると、平成21年度は154億8,600万円となっており、5年間のうちで最も少ない平成18年度と比べると約1.25倍となっています。

1人あたりの医療費は、愛知県、全国より低い額で推移していますが、平成18年度の約35万6千円から平成21年度の約41万5千円へと増加しています。

図 国民健康保険の医療費の推移（愛知県、全国との比較）



資料：「国民健康保険の実態」「国民健康保険事業年報」「後期高齢者事業年報」「広域連合事業年報」

※平成17～19年は国民健康保険事業及び老人保健事業の合算、平成20～21年は国民健康保険事業及び後期高齢者医療制度に基づく保険事業の合算

## (2) 要介護認定者の状況

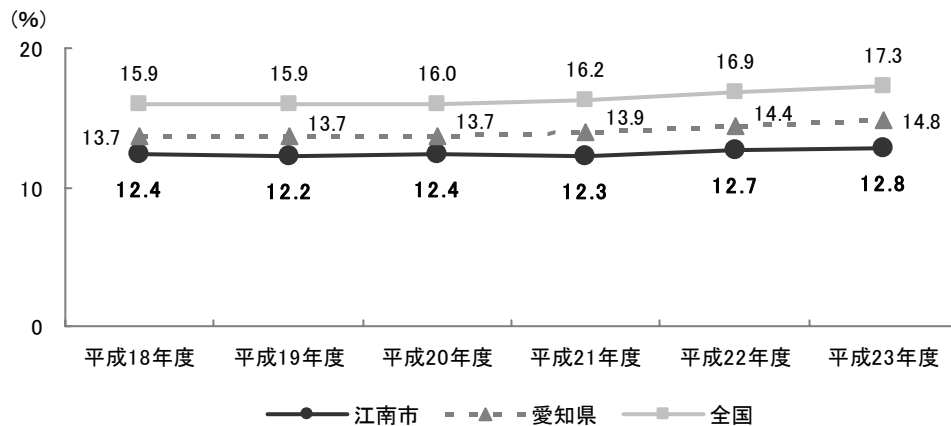
要介護認定者数は、65歳以上人口の増加に伴って増加しており、平成23年度は2,941人と平成18年度から554人増加しています。

要介護認定率は、12%台で推移しており、愛知県、全国と比べて低い値となっています。

表 65歳以上の要介護認定者数の推移

			平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
江南市	65歳以上人口	人	19,281	20,151	21,039	21,891	22,329	23,036
	要介護認定者	人	2,387	2,455	2,611	2,699	2,829	2,941

図 65歳以上の要介護認定率の推移（愛知県、全国との比較）



資料：江南市、愛知県、全国ともに厚生労働省「介護保険事業状況報告」（各年度3月末現在）



# 6

## 第1次計画の評価

平成16年3月に策定した第1次計画では、国の健康日本21の目標を基本とする目標数値を設定しています。

平成23年度に実施したアンケート調査は、計画の目標数値を評価・検証する目的を含んでおり、この節では目標数値と調査結果を比較し、評価・検証しています。

評価は「○ 目標値に達している」「→ 目標値には達していないがH14より改善がみられる」「× H14と同じまたは改善がみられない」で表します。

### (1) 栄養・食生活

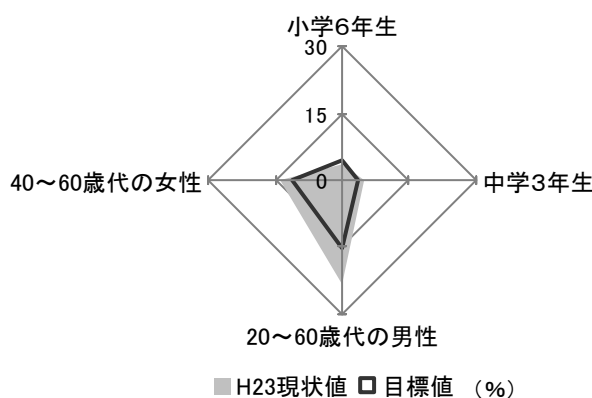
#### ① 肥満（ローレル指数※160以上、BMI※25.0以上）の人の減少

肥満減少の目標指標として、ローレル指数160以上の小学生の減少、BMI 25.0以上の中学生及び成人の減少を掲げてきました。

江南市では、独自の目標としてローレル指数160以上の小学生の減少をめざしてきたところ、今回の調査では目標を達成しています。

中学生以上では、BMI 25.0以上の割合の減少をめざしてきました。20～60歳代男性、40～60歳代女性では、目標には達しないまでも肥満が減少しています。中学生については、やや増加しています。

単位 (%)



対象者	1次計画			2次計画	評価
	H14 現状値	H19 中間値	H24 目標値	H23 現状値	
小学6年生	4.9	4.1	4.4以下	3.6	○
中学3年生	4.2	5.3	3.7以下	5.0	×
20～60歳代の男性	25.0	23.4	15.0以下	23.5	→
40～60歳代の女性	18.3	13.4	11.0以下	14.0	→

評価：○目標達成 →目標未達成だが状態改善 ×悪化傾向

※小学6年生は「太りすぎ（ローレル指数160以上）」の割合

中学3年生、20～60歳代の男性、40～60歳代の女性はBMI判定が「肥満（BMI 25.0以上）」の割合

#### 用語の説明

※ローレル指数は、学童期の発育状態を知る目安として使われています。100以下はやせすぎ、101～115はやせぎみ、116～144は標準、145～159は太りすぎ、160以上は太りすぎとなります。

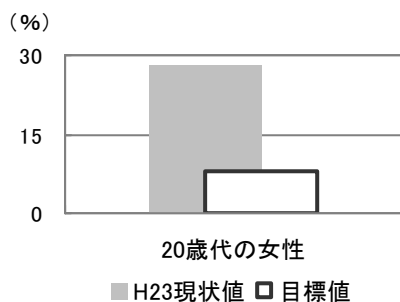
計算式：ローレル指数＝体重（kg）÷身長（cm）<sup>3</sup>×10<sup>7</sup>

※BMI（Body Mass Index）は、以下の計算式で算出される体格指数です。日本肥満学会の判定基準では、22が標準、18.5未満ではやせ、25.0以上では肥満となります。

計算式：BMI＝体重kg／（身長m×身長m）

## ② やせ（BMI 18.5未満）の人の減少

20歳代女性のやせ（BMI 18.5未満）の割合は増加しています。



単位 (%)

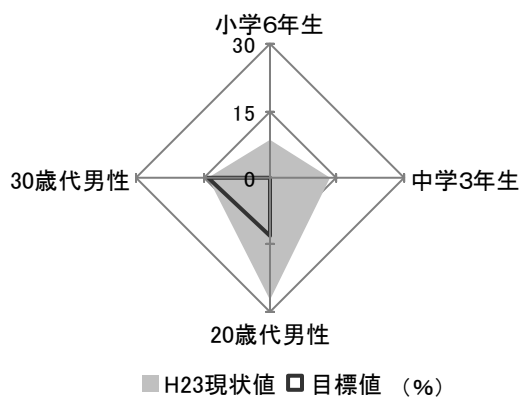
対象者	1次計画			2次計画	評価
	H14 現状値	H19 中間値	H24 目標値	H23 現状値	
20歳代の女性	15.2	22.7	8.0以下	28.1	×

評価：○目標達成 →目標未達成だが状態改善 ×悪化傾向  
※BMI判定が「やせ（18.5未満）」の割合

## ③ 朝食を欠食する人の減少

朝食を食べない日がある人の割合については、30歳代男性では目標を達成しています。小学生や中学生では減少しており、改善に向かっていますが、20歳代男性ではほとんど改善されていません。

単位 (%)

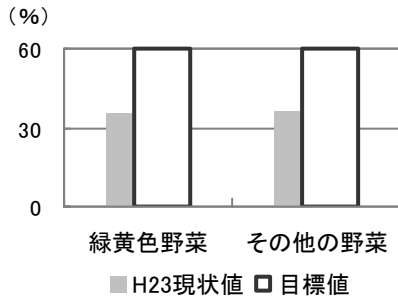


対象者	1次計画			2次計画	評価
	H14 現状値	H19 中間値	H24 目標値	H23 現状値	
小学6年生	12.1	7.9	0.0	8.7	→
中学3年生	18.5	10.5		13.3	→
20歳代男性	25.6	38.2	13.0以下	27.3	×
30歳代男性	27.0	27.6	14.0以下	14.0	○

評価：○目標達成 →目標未達成だが状態改善 ×悪化傾向  
※朝食を週のうち1日でも欠食している人の割合

#### ④ 野菜を毎日摂取する人の増加

野菜を毎日摂取する人の割合は、ほとんど変化していません。



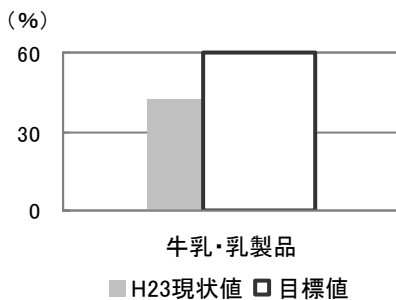
単位 (%)

対象者		1次計画			2次計画	評価
		H14 現状値	H19 中間値	H24 目標値	H23 現状値	
緑黄色野菜	青年～高年期	32.3	34.2	60.0以上	35.4	→
その他の野菜	青年～高年期	33.1	37.2		36.5	→

評価：○目標達成 →目標未達成だが状態改善 ×悪化傾向  
※それぞれ「ほぼ毎日食べる」と回答した人の割合

#### ⑤ カルシウムに富む食品を毎日摂取する人の増加

牛乳・乳製品を毎日摂取する人の割合は、ほとんど変化していません。



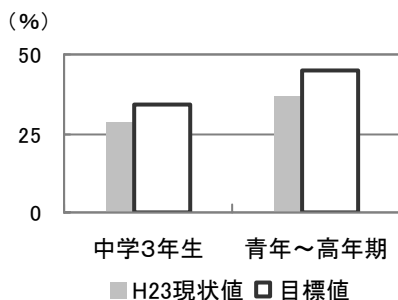
単位 (%)

対象者		1次計画			2次計画	評価
		H14 現状値	H19 中間値	H24 目標値	H23 現状値	
牛乳・乳製品	青年～高年期	41.2	43.9	60.0以上	42.2	→

評価：○目標達成 →目標未達成だが状態改善 ×悪化傾向  
※牛乳・乳製品を「ほぼ毎日食べる」と回答した人の割合

#### ⑥ 外食時に栄養成分表示を参考にする人の増加

外食時に栄養成分表示を参考にする人は、目標には達していませんが増加しています。



単位 (%)

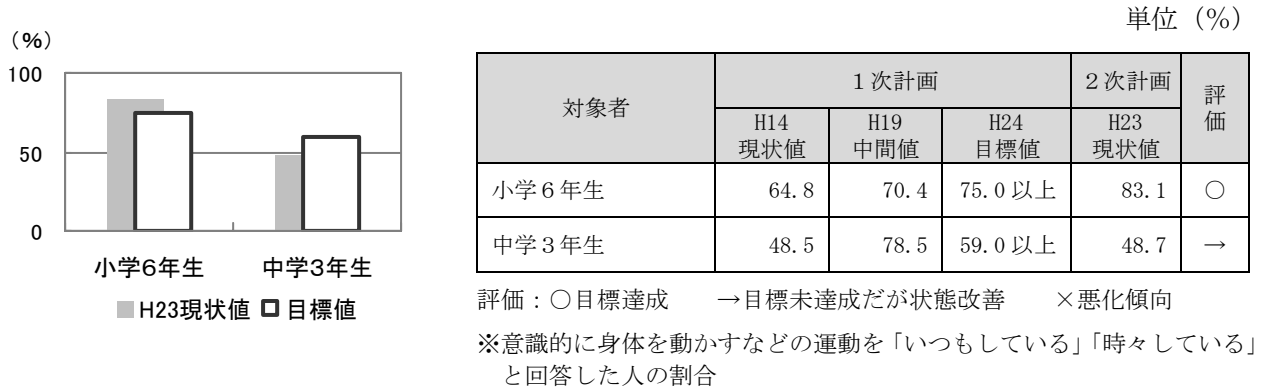
対象者		1次計画			2次計画	評価
		H14 現状値	H19 中間値	H24 目標値	H23 現状値	
中学3年生		17.0	20.0	34.0以上	28.2	→
青年～高年期		22.3	26.7	45.0以上	36.8	→

評価：○目標達成 →目標未達成だが状態改善 ×悪化傾向  
※外食時に栄養成分表示を「参考にした」と回答した人を全体の人数で除した割合

※青年～高年期は16歳以上の対象者（一般市民）です。

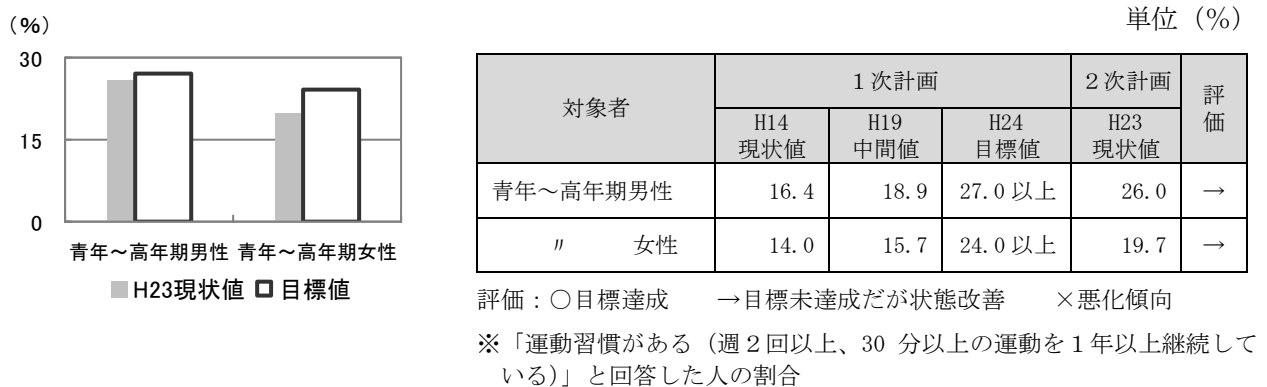
## (2) 身体活動・運動

- ① 学校の授業以外で意識的に身体を動かすなどの運動をする児童・生徒の増加  
小学生では、学校の授業以外で運動している割合が増加し、目標を達成しています。中学生では、ほとんど変化していません。



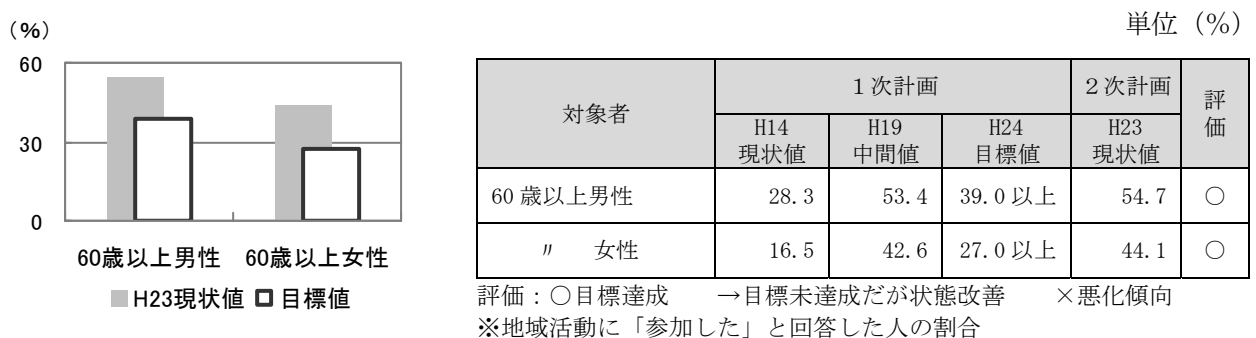
- ② 運動習慣のある人の増加

青年から高年期の一般市民における運動習慣のある人の割合は、目標には達していませんが、男女とも増加しています。



- ③ 地域活動に参加している人の増加

60歳以上で地域活動に参加している人の割合は、男女とも増加しており、目標を達成しています。

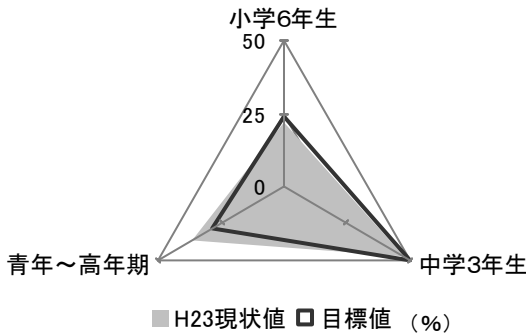


### (3) 休養・こころの健康づくり

#### ① 睡眠による休養が十分にとれていない人の減少

小学生、中学生については、睡眠による休養が十分でない人が減少し、目標を達成しています。青年～高年期の一般市民では、睡眠による休養が十分でない人が増加し、状況が悪化しています。

単位 (%)



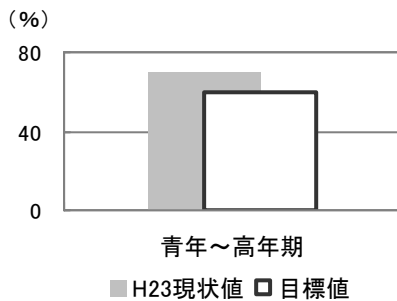
対象者	1次計画			2次計画	評価
	H14 現状値	H19 中間値	H24 目標値	H23 現状値	
小学6年生	26.6	21.7	24.0以下	22.1	○
中学3年生	54.6	56.7	50.0以下	47.5	○
青年～高年期	31.6	33.8	29.0以下	36.5	×

評価：○目標達成 →目標未達成だが状態改善 ×悪化傾向  
※いつもの睡眠時間で休養が「あまり十分でない」「まったく十分でない」と回答した人の割合

#### ② ストレスを感じたことのある人の減少

青年から高年期の一般市民でストレスを感じている人は増加しています。

単位 (%)



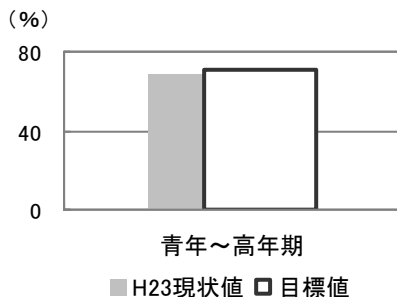
対象者	1次計画			2次計画	評価
	H14 現状値	H19 中間値	H24 目標値	H23 現状値	
青年～高年期	64.5	65.9	60.0以下	70.2	×

評価：○目標達成 →目標未達成だが状態改善 ×悪化傾向  
※最近1か月間に、ストレスを「おおいに感じた」「多少感じた」と回答した人の割合

#### ③ 趣味がある人の増加

青年から高年期の一般市民で趣味がある人は増加しています。

単位 (%)



対象者	1次計画			2次計画	評価
	H14 現状値	H19 中間値	H24 目標値	H23 現状値	
青年～高年期	60.5	60.4	71.0以上	68.8	→

評価：○目標達成 →目標未達成だが状態改善 ×悪化傾向  
※趣味を「もっている」と回答した人の割合

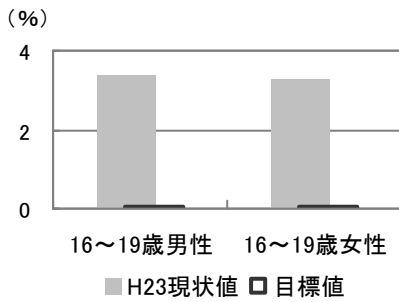
#### ④ 地域活動に参加している人の増加 (★再掲)

(6-(2)-③に同じ)

## (4) たばこ

### ① 未成年の人の喫煙をなくす

未成年（16歳～19歳）の喫煙者は、男女ともに減少していますが、目標値（0%）には達していません。



単位 (%)

対象者	1次計画			2次計画	評価
	H14 現状値	H19 中間値	H24 目標値	H23 現状値	
小学6年生男性	8.0	1.0	0.0		
中学3年生男性	12.0	8.8			
16～19歳男性	13.0	5.6		3.4	→
小学6年生女性	3.9	2.1			
中学3年生女性	9.3	5.8			
16～19歳女性	16.2	6.3		3.3	→

評価：○目標達成 →目標未達成だが状態改善 ×悪化傾向

小学生、中学生のH23年調査では把握していない。

※たばこを「吸っている」「以前吸っていたがやめた」と回答した人の割合

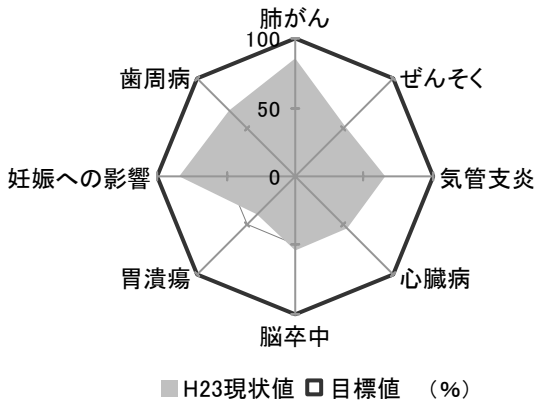


② 喫煙の影響を受ける疾患についての十分な知識の普及

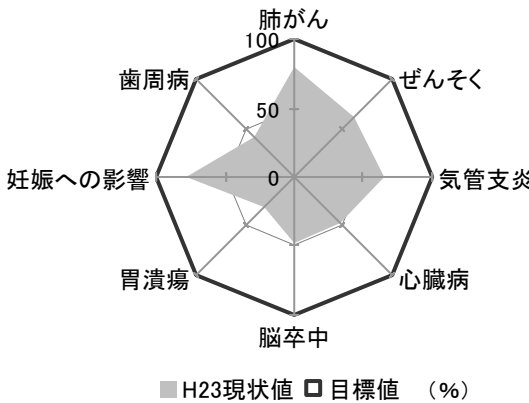
たばこが及ぼす病気への影響については、100%という目標には及ばないものの、全体的に認識が高まっています。

単位 (%)

【中学3年生】



【青年～高年期】



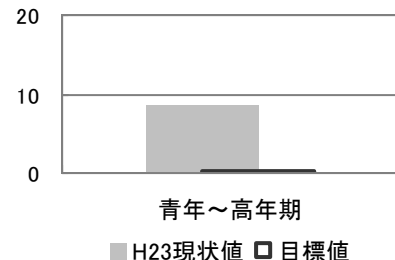
対象者		1次計画			2次計画	評価
		H14 現状値	H19 中間値	H24 目標値	H23 現状値	
肺がん	中学3年生	87.5	83.1	100.0	85.7	×
	青年～高年期	69.7	72.4		79.8	→
ぜんそく	中学3年生	49.3	48.0		50.8	→
	青年～高年期	44.4	49.7		60.4	→
気管支炎	中学3年生	68.4	59.0		65.3	×
	青年～高年期	50.7	54.4		64.9	→
心臓病	中学3年生	41.6	46.1		54.3	→
	青年～高年期	30.2	39.1		45.8	→
脳卒中	中学3年生	46.2	46.7		54.0	→
	青年～高年期	26.5	40.6		48.0	→
胃潰瘍	中学3年生	29.6	37.6		39.8	→
	青年～高年期	18.3	22.7		30.0	→
妊娠への影響、未熟児など	中学3年生	88.5	72.6		84.6	×
	青年～高年期	61.2	66.1		77.7	→
歯周病	中学3年生	50.4	57.4		68.3	→
	青年～高年期	19.8	27.4		40.5	→

評価：○目標達成 →目標未達成だが状態改善 ×悪化傾向  
※それぞれ「喫煙でかかりやすくなる」と回答した人の割合

③ 分煙対策等を行っていない家庭の減少

分煙対策を行っていない家庭は、目標値(0%)には達しませんが、減少しています。

(%)



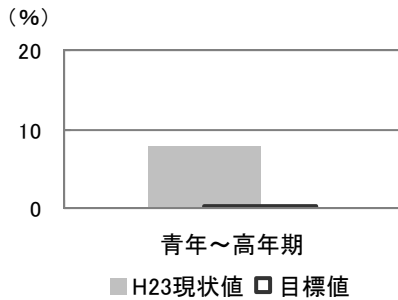
単位 (%)

対象者		1次計画			2次計画	評価
		H14 現状値	H19 中間値	H24 目標値	H23 現状値	
青年～高年期		22.2	15.9	0.0	8.6	→

評価：○目標達成 →目標未達成だが状態改善 ×悪化傾向  
※家庭での分煙対策が「何もしられていない」と回答した人の割合

#### ④ 分煙対策等を行っていない職場の減少

分煙対策を行っていない職場は、目標値（0%）には達しません、減少しています。



単位 (%)

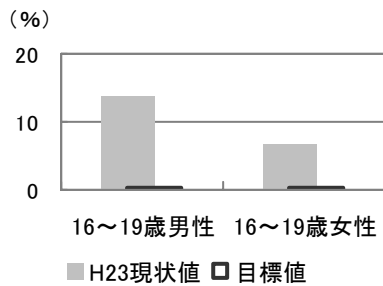
対象者	1次計画			2次計画	評価
	H14 現状値	H19 中間値	H24 目標値	H23 現状値	
青年～高年期	24.5	14.4	0.0	7.9	→

評価：○目標達成 →目標未達成だが状態改善 ×悪化傾向  
※職場での分煙対策が「何もしられていない」と回答した人の割合

### (5) アルコール

#### ① 未成年の人の飲酒をなくす

未成年（16歳～19歳）の飲酒は、男女ともに減少していますが、目標値（0%）には達していません。



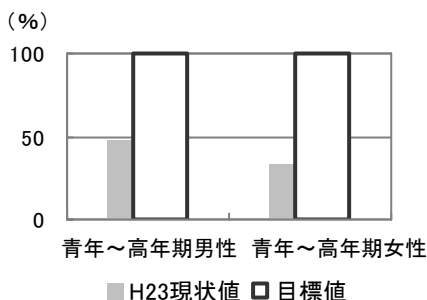
単位 (%)

対象者	1次計画			2次計画	評価
	H14 現状値	H19 中間値	H24 目標値	H23 現状値	
小学6年生男性	51.0	31.3	0.0		
中学3年生男性	62.0	40.3			
16～19歳男性	30.4	33.3		13.8	→
小学6年生女性	46.7	21.1			
中学3年生女性	65.7	37.1			
16～19歳女性	40.5	31.3		6.7	→

評価：○目標達成 →目標未達成だが状態改善 ×悪化傾向  
小学生、中学生のH23年調査では把握していない。  
※16～19歳はお酒を「飲む」「以前飲んでしたがやめた」と回答した人の割合

#### ② 節度ある適度な飲酒量の知識の普及

節度ある適度な飲酒量を知っている人は減少し、周知が進んでいない状況にあります。



単位 (%)

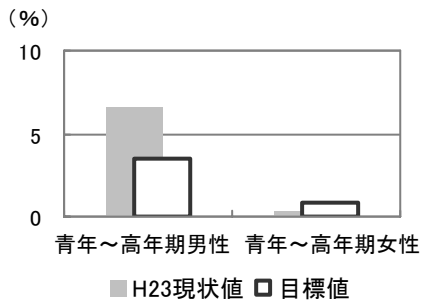
対象者	1次計画			2次計画	評価
	H14 現状値	H19 中間値	H24 目標値	H23 現状値	
青年～高年期男性	50.9	51.8	100.0	48.3	×
” 女性	37.1	30.3		33.5	×

評価：○目標達成 →目標未達成だが状態改善 ×悪化傾向  
※節度ある適度な飲酒について「知っている」と回答した人の割合



### ③ 多量に飲酒する人の減少

多量に飲酒する人は、女性では減少していますが、男性では増加しています。



単位 (%)

対象者	1次計画			2次計画	評価
	H14 現状値	H19 中間値	H24 目標値	H23 現状値	
青年～高年期男性	4.4	4.3	3.5以下	6.6	×
〃 女性	1.2	0.9	0.9以下	0.4	○

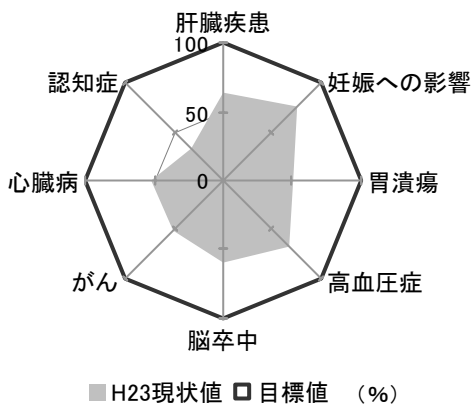
評価：○目標達成 →目標未達成だが状態改善 ×悪化傾向  
※1日の飲酒量が「3合以上」と回答した人の割合

### ④ 多量な飲酒の影響を受ける疾患についての知識の普及

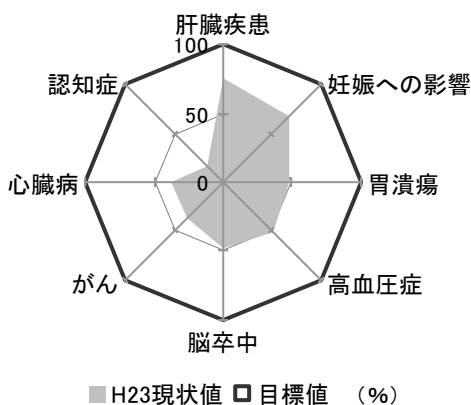
多量な飲酒が及ぼす病気への影響については、100%という目標には及ばないものの、全体的に認識が高まっています。

単位 (%)

【中学3年生】



【青年～高年期】



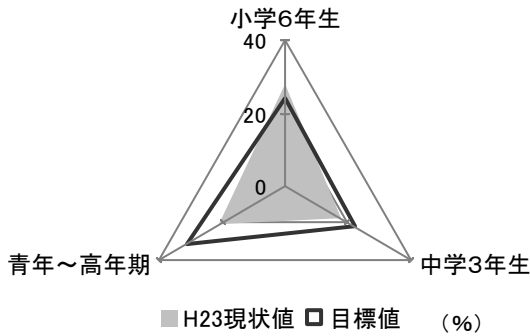
対象者		1次計画			2次計画	評価
		H14 現状値	H19 中間値	H24 目標値	H23 現状値	
肝臓疾患	中学3年生	59.7	61.3	100.0	64.4	→
	青年～高年期	70.6	73.2		75.7	→
妊娠への影響、未熟児など	中学3年生	67.2	59.5		76.0	→
	青年～高年期	52.7	56.3		67.7	→
胃潰瘍	中学3年生	48.5	48.2		50.2	→
	青年～高年期	42.4	39.4		47.6	→
高血圧症	中学3年生	62.2	60.7		68.3	→
	青年～高年期	42.4	43.6		51.9	→
脳卒中	中学3年生	46.4	50.4		59.5	→
	青年～高年期	36.0	38.7		48.5	→
がん	中学3年生	41.1	49.2		51.3	→
	青年～高年期	26.9	29.5		37.2	→
心臓病	中学3年生	40.3	45.2	52.6	→	
	青年～高年期	26.6	30.7	38.1	→	
認知症	中学3年生	22.4	33.1	33.5	→	
	青年～高年期	11.3	13.5	16.8	→	

評価：○目標達成 →目標未達成だが状態改善 ×悪化傾向  
※それぞれ「過度な飲酒でかかりやすくなる」と回答した人の割合

## (6) 歯の健康

### ① 歯みがきを1日3回以上する人の増加

歯みがきを1日3回以上する人は、小学生、中学生、一般市民ともに増加しています。小学生は目標を達成しています。



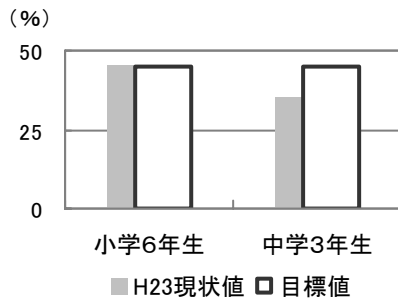
単位 (%)

対象者	1次計画			2次計画	評価
	H14 現状値	H19 中間値	H24 目標値	H23 現状値	
小学6年生	11.8	17.6	24.0以上	27.9	○
中学3年生	10.8	10.4	22.0以上	17.7	→
青年～高年期	15.1	17.2	31.0以上	21.0	→

評価：○目標達成 →目標未達成だが状態改善 ×悪化傾向  
※歯を「3回以上」みがくと回答した人の割合

### ② フッ化物配合の歯みがき剤を使用している児童・生徒の増加

フッ化物配合の歯みがき剤を使用している児童・生徒は増加しています。小学生は目標を達成しています。



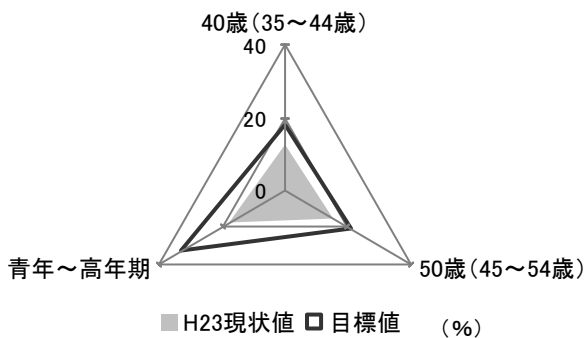
単位 (%)

対象者	1次計画			2次計画	評価
	H14 現状値	H19 中間値	H24 目標値	H23 現状値	
小学6年生	22.4	30.7	45.0以上	45.3	○
中学3年生	22.5	27.8	45.0以上	35.3	→

評価：○目標達成 →目標未達成だが状態改善 ×悪化傾向  
※フッ化物配合の歯みがき剤を「いつも使っている」と回答した人の割合

### ③ 歯間清掃用具を使用している人の増加

歯間清掃用具を使用している人は、目標には達しませんが、わずかに増加しています。



単位 (%)

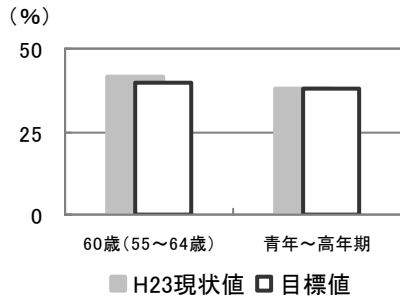
対象者	1次計画			2次計画	評価
	H14 現状値	H19 中間値	H24 目標値	H23 現状値	
40歳(35～44歳)	9.0	14.7	18.0以上	12.5	→
50歳(45～54歳)	10.1	16.9	21.0以上	15.6	→
青年～高年期	16.3	19.4	33.0以上	17.8	→

評価：○目標達成 →目標未達成だが状態改善 ×悪化傾向  
※歯間清掃用具を「毎日使用している」と回答した人の割合

④ 定期的に歯科健診を受けている人の増加

定期的に歯科健診を受けている人は増加し、目標を達成しています。

単位 (%)



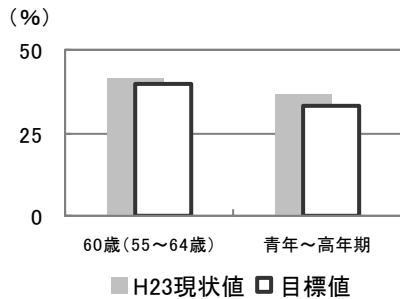
対象者	1次計画			2次計画	評価
	H14 現状値	H19 中間値	H24 目標値	H23 現状値	
60歳(55~64歳)	27.0	33.0	40.0以上	41.7	○
青年~高年期	24.5	31.5	38.0以上	38.2	○

評価：○目標達成 →目標未達成だが状態改善 ×悪化傾向  
※定期的に歯科健診を「受けている」と回答した人の割合

⑤ 定期的に歯石除去等を受けている人の増加

定期的に歯石除去等を受けている人は増加し、目標を達成しています。

単位 (%)



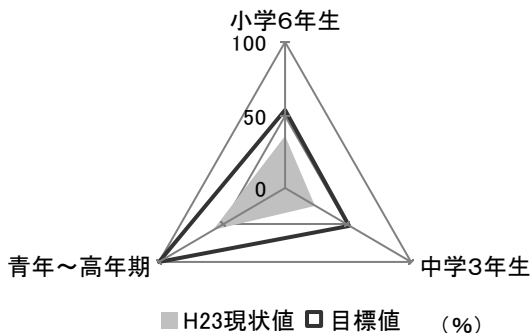
対象者	1次計画			2次計画	評価
	H14 現状値	H19 中間値	H24 目標値	H23 現状値	
60歳(55~64歳)	29.2	30.9	40.0以上	41.7	○
青年~高年期	22.6	30.1	33.0以上	36.5	○

評価：○目標達成 →目標未達成だが状態改善 ×悪化傾向  
※定期的に歯石除去等を「受けている」と回答した人の割合

⑥ 8020運動を知っている人の増加

小学生及び一般市民では、8020運動を知っている人が増加しましたが、中学生ではやや減少しています。いずれも、目標には達していません。

単位 (%)

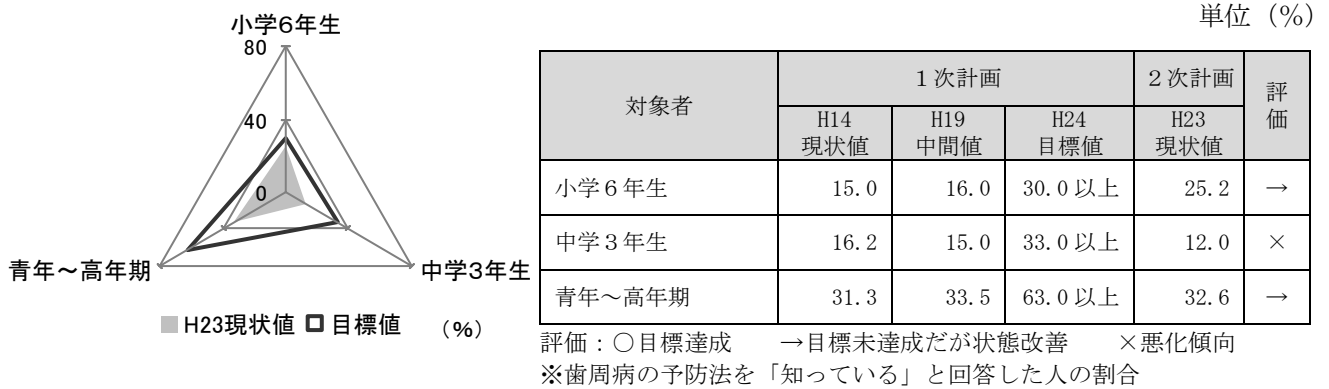


対象者	1次計画			2次計画	評価
	H14 現状値	H19 中間値	H24 目標値	H23 現状値	
小学6年生	26.3	16.2	53.0以上	35.1	→
中学3年生	25.5	16.7	51.0以上	23.7	×
青年~高年期	50.1	50.8	100.0	56.3	→

評価：○目標達成 →目標未達成だが状態改善 ×悪化傾向  
※8020運動を「知っている」と回答した人の割合

⑦ 歯周病の予防法を知っている人の増加

小学生及び一般市民では、歯周病の予防法を知っている人が増加しましたが、中学生ではやや減少しています。いずれも、目標には達していません。



## (7) 生活習慣病（糖尿病、循環器病、がん）

- ① 肥満（BMI 25.0以上）の人の減少（★再掲）  
（6-（1）-①に同じ）
- ② 毎日野菜を摂取する人の増加（★再掲）  
（6-（1）-④に同じ）
- ③ 運動習慣のある人の増加（★再掲）  
（6-（2）-②に同じ）
- ④ 喫煙の影響を受ける疾患についての十分な知識の普及（★再掲）  
（6-（4）-②に同じ）
- ⑤ 多量に飲酒する人の減少（★再掲）  
（6-（5）-③に同じ）
- ⑥ 多量な飲酒の影響を受ける疾患についての知識の普及（★再掲）  
（6-（5）-④に同じ）

## (8) 母子保健

- ① 睡眠による休養が十分でない児童・生徒の減少（★再掲）  
（6-（3）-①に同じ）
- ② 児童・生徒の喫煙をなくす（★再掲）  
（6-（4）-①に同じ）
- ③ 児童・生徒の飲酒をなくす（★再掲）  
（6-（5）-①に同じ）

## 7

# 市の現状のポイント

市の現状からは、以下のようなポイントが整理されます。

### <各種統計データより>

- 人口は減少に転じている。（「江南市戦略計画」における推計よりも早い時期から減少傾向）（5ページ参照）
- 「悪性新生物」や「脳血管疾患」による死亡率が国や県よりも低い。反対に、「老衰」の割合が高い。（8ページ参照）
- むし歯のある幼児や小学生の割合は減少傾向。（13、14ページ参照）
- 妊娠中の飲酒や喫煙がゼロではない。（17ページ参照）
- 医療費は増加傾向。（平成21年度は約154億8,600万円）（21ページ参照）
- 高齢者の基本チェックリストでは、運動器の機能、口腔機能、認知症、うつへの該当が高い。（71ページ参照）

### <アンケート調査より>

- 地域活動への参加の割合が高まっている。（26ページ参照）
- 中学生は、16歳以上と同じくらいのストレスを感じている。（66、67ページ参照）



## 第三章

# 計画の基本的な考え方



江南市マスコットキャラクター  
ふじか  
藤花ちゃん





# 1 市のめざすべき姿

第Ⅱ章にある現状を踏まえて、市の10年後のめざすべき姿を設定します。「江南市戦略計画」では、「健康な生活の確保」について以下のような将来像を記載しています。

## <江南市戦略計画における将来像>

(江南市戦略計画【中期】62ページ「Ⅱ健康、福祉分野」「柱4健康な生活の確保【健康づくり】」参照)

- 日頃から正しい食生活や運動を心がけるとともに、生涯を通じて市民自らが健康づくりを行っている。
- 健康診査を定期的に受診し、疾病の予防・早期発見に取り組むという意識が定着し、各地域で健康づくりの教室などが行われている。
- その結果、寝たきりや生活習慣病になる人が少なくなり、市民は長く健康を保持し安心して暮らしている。

## <めざすべき将来像>

第1次計画では、「健康で思いやりと幸せあふれるまち」を基本理念とし、健康寿命の延伸と生活の質の向上などをめざした取り組みを進めてきました。近年では、それに加えて、個人の努力だけでは解決できない社会環境との関係にも着目した健康づくりが必要とされています。そのため、「すべての市民が協力して」健康づくりに取り組んでいくことが必要となってきています。

江南市の現状、江南市戦略計画における将来像などを踏まえ、この計画の将来像を次のように設定します。

**「すべての市民が協力し、  
健康で思いやりと幸せあふれるまち」**



## 2

## 健康日本 21（第2次）の5つの方向性

国の健康日本 21（第2次）では、10年後のめざすべき姿を「全ての国民が共に支えあい、健やかで心豊かに生活できる活力ある社会」とし、次の5つの基本的な方向を示しています。

## ＜国の健康日本 21（第2次）の5つの基本方向＞

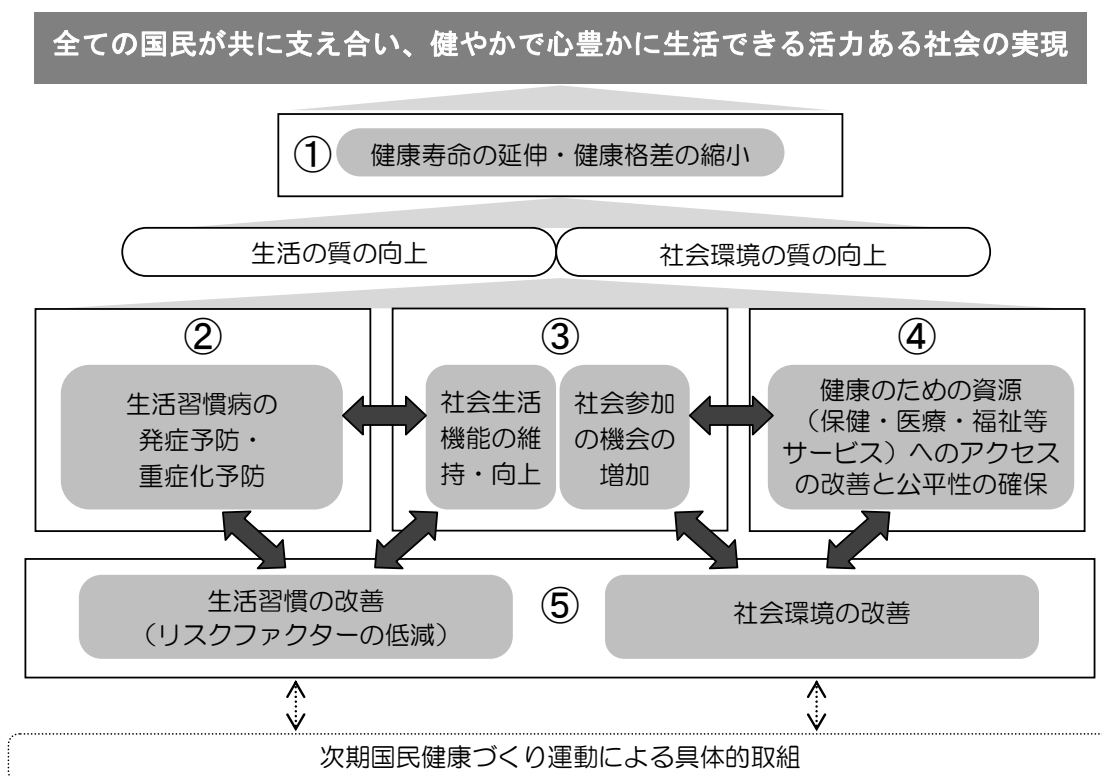
基本的な方向性	内 容
①健康寿命の延伸と健康格差の縮小	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活習慣病の予防及び社会生活機能の維持・向上等による健康寿命の延伸</li> <li>健やかな暮らしを支える社会環境の構築による健康格差の縮小</li> </ul>
②生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>食生活の改善や運動習慣の定着等による一次予防の推進（NCD*対策の推進）</li> <li>重症化の予防</li> </ul>
③社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>働く世代のストレス対策等によるこころの健康づくり</li> <li>子どもの頃からの健康な生活習慣づくり</li> <li>全てのライフステージにおける心身機能の維持・向上</li> </ul>
④健康を支え、守るための社会環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>国民が主体的に行うことのできる健康増進の取り組みを総合的に支援</li> <li>社会が相互に支え合いながら国民の健康を守る環境の整備</li> </ul>
⑤栄養・食生活、身体活動・運動、休養、飲酒、喫煙及び歯・口腔の健康に関する生活習慣及び社会環境の改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康増進の基本要素となる食生活、運動、休養、飲酒、喫煙及び歯・口腔の健康に関する生活習慣の改善</li> </ul>

## 用語の説明

※NCD（非感染性疾患）とは、糖尿病、がん、慢性呼吸器疾患、心臓疾患、脳血管疾患など感染しない病気で、食生活、運動、喫煙、飲酒などの生活習慣が深く関係する病気のことです。

国の健康日本 21（第2次）は、個人の生活習慣の改善及び個人をとりまく社会環境の改善・整備を通じて、生活習慣病の発症と重症化の予防を図るとともに、社会生活を営むために必要な機能の維持・向上による生活の質の向上、健康のための資源へのアクセスの改善と公平性の確保、社会参加の機会の増加による社会環境の質の向上を図り、健康寿命の延伸と健康格差の縮小をめざす計画となっています。

<国の健康日本 21（第2次）の概念図>



出典：健康日本 21（第2次）の推進に関する参考資料

### 3

## 計画の全体イメージと体系

### (1) 国の方向性を踏まえた本計画の全体イメージ

この計画では、国の方向性を踏まえ、市民「個人の生活習慣の改善」と、市民をとりまく「社会環境の改善」、社会に参加・参画するための「社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上」、健診や相談等による「生活習慣病の発症と重症化の予防」の4つを柱としていきます。

#### ① 個人の生活習慣の改善

1つめの柱である「個人の生活習慣の改善」では、これまで同様、生活習慣の改善による「1次予防」を重視した健康づくりを推進します。「栄養・食生活」「身体活動・運動」「休養」「喫煙」「飲酒」「歯と口腔の健康」の6つのテーマを掲げ、市民のライフステージを踏まえた施策と行動指針を示します。

#### ② 社会環境の改善

2つめの柱である「社会環境の改善」では、社会環境が市民個人の健康に影響を与える諸要因の改善をめざします。子どもにとっての家庭環境、働く世代にとっての職場環境などは、日常生活を通じて個人の健康にも大きな影響を及ぼします。また、妊娠している女性、病気等で医療サービスを必要としている人などは、地域のサービス資源の量や質の影響を受けると考えられます。さらに、主体的な健康活動機会や有効な健康情報に日常的に触れることができる地域とそうでない地域との格差の問題も、個人の健康に影響すると考えられます。こうした社会的要因は、個人にとっては「健康格差」の問題となります。この健康格差を解消することも、この計画における重要な課題です。

社会環境が個人の健康に与える影響について、国は、ソーシャルキャピタル<sup>※</sup>と呼ばれる社会の絆や結束から生み出される資源の効能に着目しています。人々が信頼しあって協力している社会では健康レベルが高いことが多くの研究で確認されており、そうした社会を実現することが求められています。市民が「社会環境の改善」に積極的に参加・参画していくことを通じて、健康になれるような社会をめざします。

#### 用語の説明

※ソーシャルキャピタルとは、人々の協調行動を活発にすることによってもたらされる、「信頼」「規範」「ネットワーク」などの社会組織の特徴のことです。

### ③ 社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上

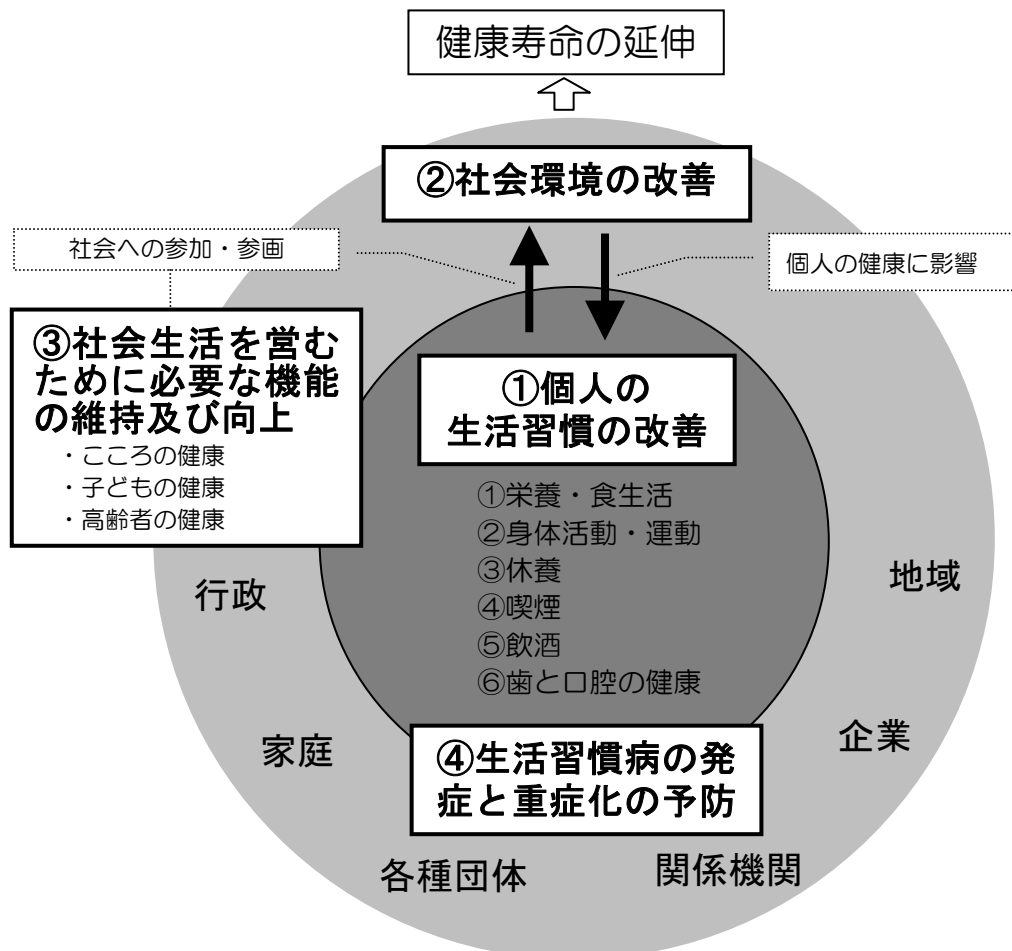
3つめの柱である「社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上」では、多様な社会参加を可能にする「こころの健康」、「子どもの健康」、「高齢者の健康」をめざします。特に、現役世代や高齢者などの「こころの健康」は、自殺の予防にもつながる重要な課題です。また、「高齢者の健康」では、介護予防や認知症予防などを進めていく必要があります。さらに、次世代の担い手である子どもたちが、早い時期から健康な生活習慣を身につけられる施策を進めていきます。

### ④ 生活習慣病の発症と重症化の予防

4つめの柱である「生活習慣病の発症と重症化の予防」では、健診等による生活習慣病予防や情報提供など、市民の健康を支える公的な支援ネットワークの強化を図ります。

江南市では、以上の4つの柱を中心に健康づくりを進めていきます。

図 計画の全体イメージ（4つの柱）



## (2) 計画の体系

前項の“4つの柱”に沿って、この計画では以下の4つの「基本目標」と13の「施策の方向」を整理して施策を推進します。

＜「4つの柱」⇒「4つの基本目標」との関係＞

①個人の生活習慣の改善 ⇒ 「1 健康な生活習慣を実践しよう！」

②社会環境の改善 ⇒ 「2 健康な社会環境を実現しよう！」

③社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上 ⇒ 「3 社会生活を送るために必要な健康づくり！」

④生活習慣病の発症と重症化の予防 ⇒ 「4 生活習慣病を予防しよう！」

めざすべき将来像

基本目標

施策の方向

健康すべての市民が協力し、思いやりと幸せあふれるまち

1

健康な生活習慣を実践しよう！

(1) 栄養・食生活

(2) 身体活動・運動

(3) 休養

(4) 喫煙

(5) 飲酒

(6) 歯と口腔の健康

2

健康な社会環境を実現しよう！

(1) 地域活動の活発化と参加の促進

(2) 健康意識を高めるネットワークの強化

3

社会生活を送るために必要な健康づくり！

(1) こころの健康づくり

(2) 子どもの健康づくり

(3) 高齢者の健康づくり

4

生活習慣病を予防しよう！

(1) 生活習慣病予防対策の推進

(2) 健康に関する正しい理解の促進

## 第IV章

# 健康づくり施策の方向性



江南市マスコットキャラクター  
ふじか  
藤花ちゃん





# 1 健康な生活習慣を実践しよう！

## (1) 栄養・食生活

### ●● 現状と課題 ●●

健康の基本は食事であり、特に、朝食をしっかりと食べることはとても重要なことです。アンケート調査結果では、朝食を欠食する人は、男性の16～19歳、20歳代及び女性の20歳代で2割以上と高くなっています。いつもより少し早く起き、朝食をとる生活習慣を身につける必要があります。

やせの割合は20歳代の男女で高く、肥満の割合は男性の30～60歳代で高くなっています。無理なダイエットなどをせず、まず、自分の適正体重を知り、自分に合った適切な食事量やバランスに配慮した食事がとれるよう支援する必要があります。

また、外食時に栄養成分表示を参考にする人は全ての年代で男性より女性の割合が高く、栄養バランスやカロリーへの意識が高いと言えます。栄養バランスの偏りは、生活習慣病発症の引き金となります。食と健康の関連について、男性も興味をもてるような啓発及び教育が必要です。

家族と食卓を囲むことは、食事を楽しく食べること以外に、栄養や旬の野菜などの知識、食事のマナーなどを学ぶことができる貴重な機会です。アンケート調査結果では、夕食を家族と「よくいっしょに食べる」子は小学生では83.3%であるのに対し、中学生は65.3%と低くなっています。部活動や塾などでいっしょに食べられない日には、子どもが食べている時にそばにいるようにするなど親への啓発も含めて、孤食<sup>\*</sup>をなくす取り組みが必要です。

### 用語の説明

<sup>\*</sup>孤食とは、同居家族がいながら1人で食べること、また、1人暮らしの人が1人で食べることです。

図 朝食を欠食する人の割合

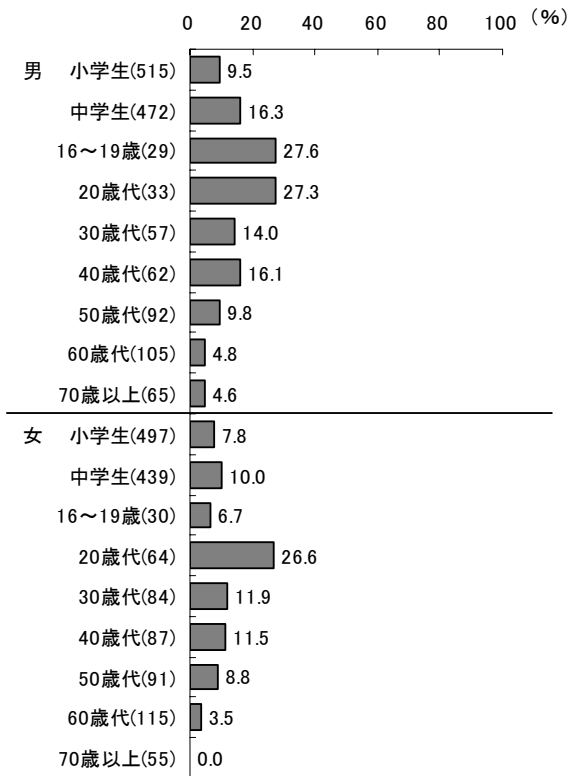
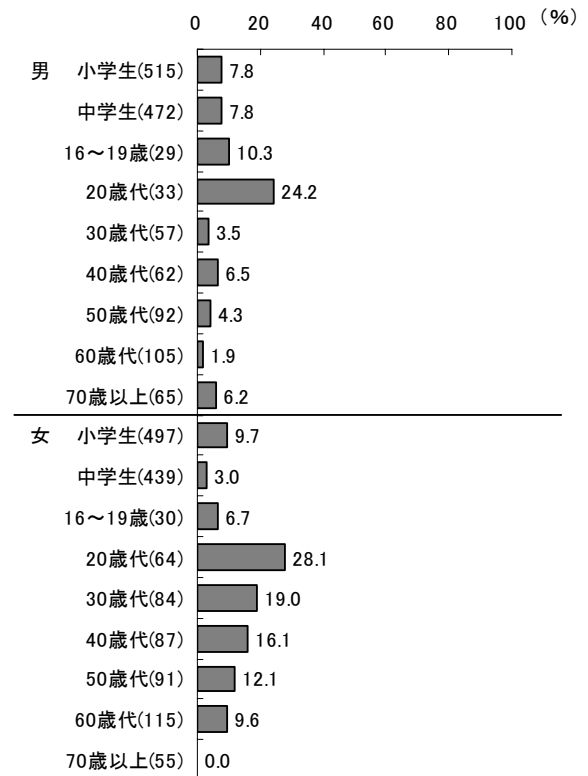


図 やせの割合



※小中学生は「やせすぎ」の割合

図 肥満の割合

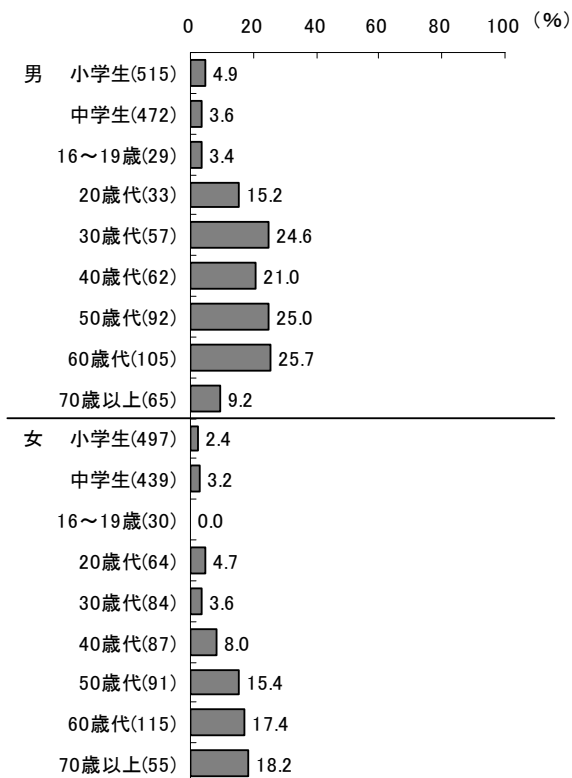
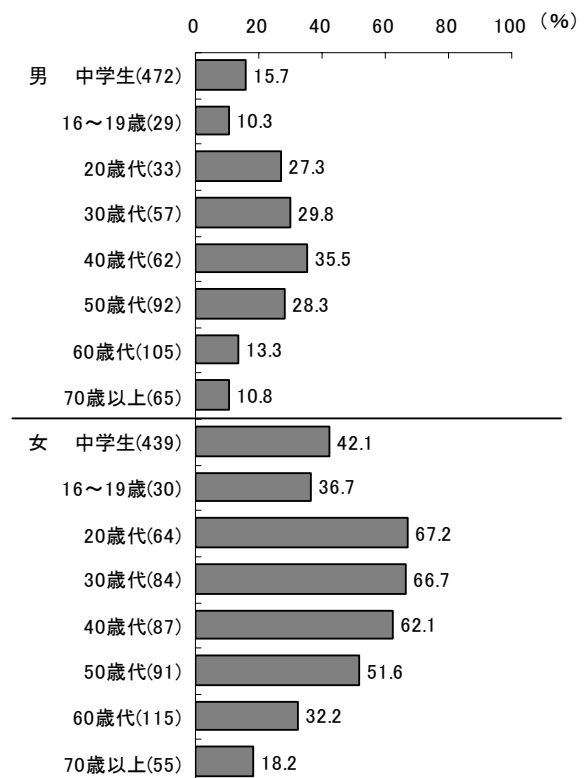


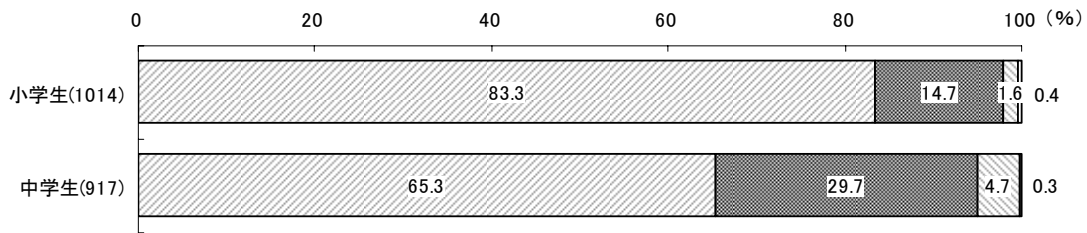
図 外食時に栄養成分表示を参考にする人の割合



資料：江南市健康に関する市民アンケート調査（平成23年度）

※小中学生は「太りすぎ」の割合。（ ）内は回答者数

図 子どもの孤食の状況（夕食を家族と一緒に食べる頻度）



■ よくいっしょに食べる   ■ たまにいっしょに食べる   ■ まったくいっしょに食べない   □ 無回答

資料：江南市健康に関する市民アンケート調査（平成 23 年度）

※（ ）内は回答者数

<課題のポイント>

- ①朝食を食べる習慣を身につける
- ②適切な食事で、やせや肥満を予防する
- ③栄養バランスへの関心を高める
- ④孤食の解消



取り組み

	市民の取り組み	行政等の取り組み
考えよう！ 健康のこと	○自分の適正体重を知ろう	○栄養や食生活についての正しい知識を身につけるための栄養教室などの学習機会や情報提供、栄養士等による相談・指導等の機会を提供します
行動しよう！ 健康のために	<ul style="list-style-type: none"> <li>●毎日朝食を食べよう</li> <li>●主食・主菜・副菜のそろった食事をとろう</li> <li>●毎食、野菜を食べよう</li> <li>●よく噛んで食べよう</li> <li>●家族と一緒に食事をする回数を増やそう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●朝食の欠食防止、食事の内容の改善、孤食の解消など、食事を通じて健康づくりに取り組む機会やきっかけをつくります</li> </ul>



江南市マスコットキャラクター  
ふじか  
藤花ちゃん



## 目標指標

目標指標		現状値 H23	目標値 H34	
①肥満児（ローレル指数 160 以上）の減少	小学6年生	3.6%	3%以下	
	中学3年生	3.4%	3%以下	
②肥満の人（BMI 25.0 以上）の減少	20～60 歳代の男性	23.5%	15%以下	
	40～60 歳代の女性	14.0%	11%以下	
③やせ（BMI 18.5 未満）の人の減少	20 歳代の女性	28.1%	8%以下	
④朝食を欠食する人の減少	小学6年生	8.7%	0%	
	中学3年生	13.3%		
	20 歳代	26.8%		
⑤野菜を毎日摂取する人の増加	緑黄色野菜	一般	35.4%	
	その他の野菜	一般		36.5%
⑥カルシウムに富む食品を毎日摂取する人の増加	牛乳・乳製品	一般	42.2%	60%以上
⑦外食時に栄養成分表示を参考にする人の増加	中学3年生	28.2%	34%以上	
	一般	36.8%	45%以上	
⑧夕食を家族とまったく一緒に食べない児童・生徒をなくす	小学6年生	1.6%	0%	
	中学3年生	4.7%		

### <目標値の考え方>

- ①の小学生は、第1次計画では0.5%減をめざしてきた。第2次計画では3%以下を目標とする。中学生は、第1次計画ではBMIで肥満度を算出していた。第2次計画ではローレル指数とし、小学生同様3%以下を目標とする。
- ②・③・⑤・⑥・⑦は、第1次計画と同様の目標とした。
- ④の小中学生は、第1次計画と同様とした。20歳代については、第1次計画と同様の考え方で、現状の半減を目標とした。
- ⑧は、孤食を解消する考えから、目標を0%とした。

## (2) 身体活動・運動

### ●● 現状と課題 ●●

運動は体力の向上もさることながら、ストレス解消にも効果があります。アンケート調査結果では、中学生と20～50歳代の男女で運動する人が少なくなっています。運動をしない理由は、小中学生、16歳以上いずれも「めんどうだから」「運動する時間がないから」が3位以内に入っており、運動と健康の関連を子どもの頃から周知し、日常生活の中で簡単な運動を実施できるような取り組みが必要です。また、16歳以上では「いっしょに運動する仲間がないから」が3位に入っており、1人でも参加しやすい運動の機会や運動を通じた仲間づくりの機会を提供することが必要です。

市には、「いきいき並木コース」「円空・曼陀羅寺コース」「五条川・歴史散策コース」の3つの「健康の道」がありますが、その認知度は3割未満となっています。効果的に筋力をつけ、寝たきりになることを防ぐための健康体操「ウォー筋グ運動」の認知度は、60歳代以上の女性では2割を超えていますが、若年層には全く知られていない状況です。こうした市の事業を周知していくとともに、公園、遊歩道・サイクリングロード及び体育施設など、市内にある様々な運動の場を周知し、市民の日常的な運動に活用されるようにしていくことも大切です。

図 運動をしている人の割合

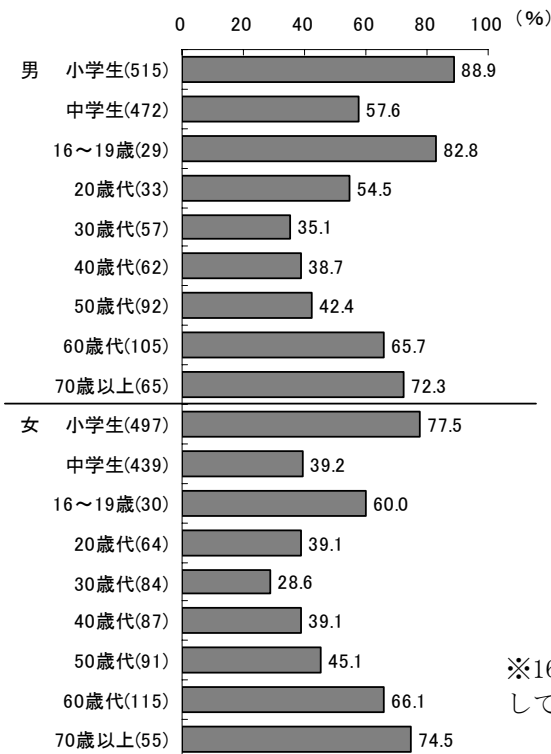


表 運動をしない理由（上位3項目）

	小学生(160)	中学生(457)	16歳以上(391)
1位	めんどうだから 46.3%	部活を引退したから 67.2%	運動する時間がないから 48.8%
2位	運動する時間がないから 32.5%	運動する時間がないから 51.0%	めんどうだから 38.9%
3位	からだを動かすことがいやだから 23.1%	めんどうだから 37.4%	いっしょに運動する仲間がないから 18.2%

※16歳以上は「週1回以上」の割合、小中学生は「いつもしている」と「時々している」を足した割合

資料：江南市健康に関する市民アンケート調査（平成23年度）

※（ ）内は回答者数

図 健康の道を知っている人の割合

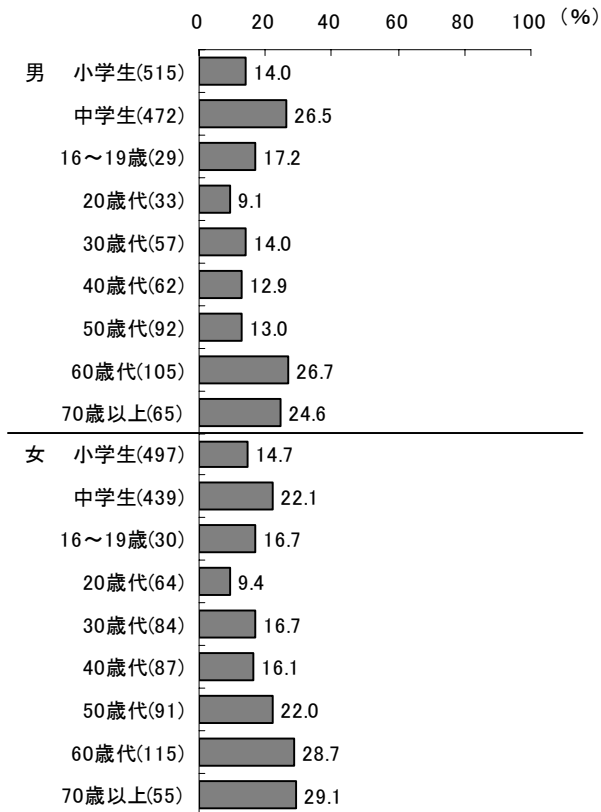
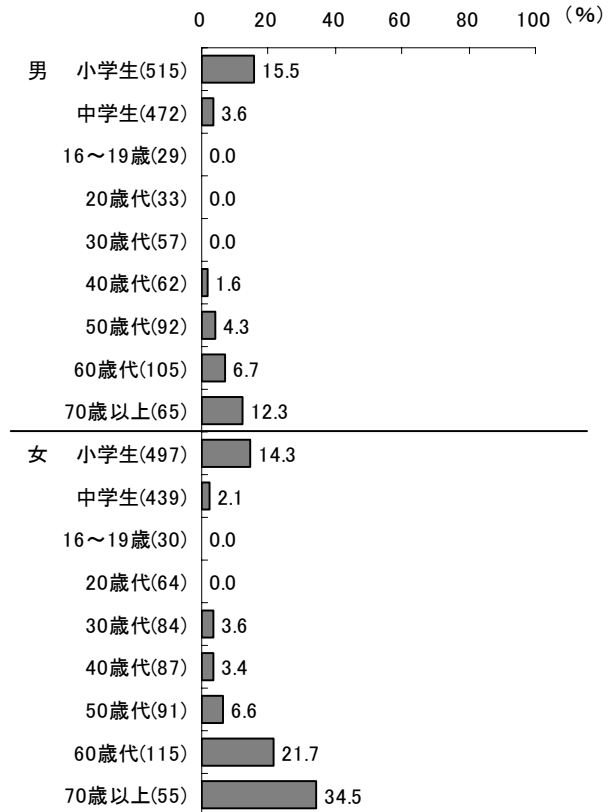


図 ウォー筋グ運動を知っている人の割合



資料：江南市健康に関する市民アンケート調査（平成23年度）

※（ ）内は回答者数



江南市マスコットキャラクター  
ふじか  
藤花ちゃん

<課題のポイント>

- ①運動と健康との関係を周知・啓発
- ②日常生活での簡単な運動の促進
- ③取り組みやすい運動機会づくり
- ④市の事業等の周知と参加の促進
- ⑤運動の場の周知



取り組み

	市民の取り組み	行政等の取り組み
考えよう！ 健康のこと	○自分に合った適度な運動を知ろう	○運動と健康の関係を理解するための講座やセミナー等の学習機会づくりや情報提供を行います
行動しよう！ 健康のために	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生活の中で、体を動かすことを心がけよう</li> <li>●自分に合った運動習慣をもとう</li> <li>●一緒に運動する仲間をもとう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●健康の道マップの配布やウォーキング、各種スポーツ教室や大会の開催など、気軽に参加できる運動機会を提供します</li> <li>●運動に関するボランティアや各種グループの活動を支援します</li> </ul>



目標指標

目標指標		現状値 H23	目標値 H34
①学校の授業以外で意識的に身体を動かすなどの運動をする児童・生徒の増加	小学6年生	83.1%	95%以上
	中学3年生	48.7%	59%以上
②運動習慣のある人の増加	16～64歳男性	21.0%	31%以上
	16～64歳女性	17.3%	28%以上
	65歳以上男性	40.0%	50%以上
	65歳以上女性	29.4%	40%以上

<目標値の考え方>

- ①・②は、第1次計画と同様の考え方で、現状から10%程度の増加を目標とした。

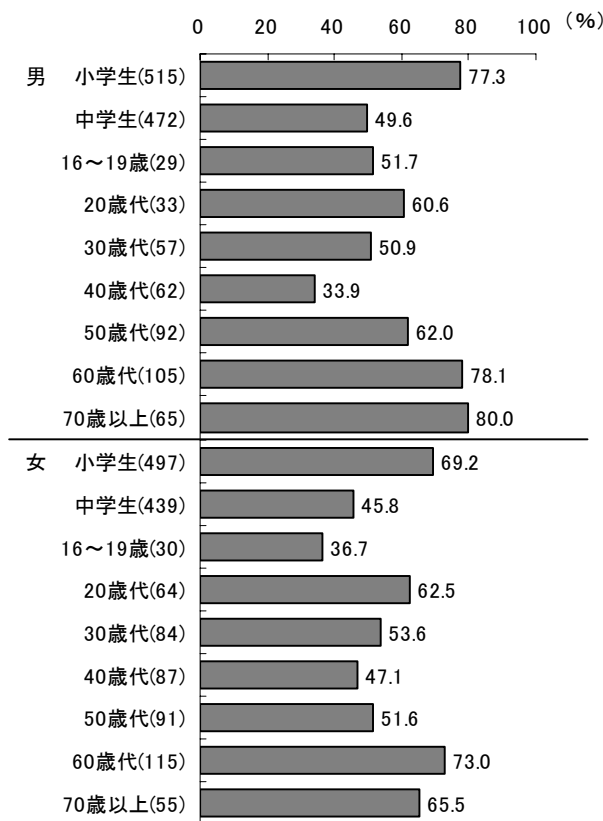
### (3) 休養

#### ●● 現状と課題 ●●

休養は身体的、精神的な健康を保つ上で、重要な役割をもっています。アンケート調査結果では、小学生、20歳代、60歳代以上では睡眠による休養が十分だと答えている人が多いですが、中学生を含めた他の年代層では十分ではないと答える人が多くなっています。

睡眠不足は、疲労感をもたらし、精神的にも悪影響を及ぼします。また、適切な判断力を鈍らせ、事故などのリスクも高めます。一人ひとりの生活習慣の改善を啓発するだけでなく、仕事と休養との関係のように環境が及ぼす影響が大きい場合には、社会環境の改善も含めて休養を十分にとることの大切さを啓発していく必要があります。

図 睡眠による休養が十分な人の割合



資料：江南市健康に関する市民アンケート調査（平成23年度）

※（ ）内は回答者数



<課題のポイント>

- ①休養の大切さへの理解の促進
- ②休養を十分にとる生活習慣及び社会環境の実現に向けての啓発



取り組み

	市民の取り組み	行政等の取り組み
考えよう！ 健康のこと	○休養の大切さを知り、理解しよう	○健康フェスティバルや各種講座等による学習機会や情報の提供を通じて、休養の大切さへの理解を深めます
行動しよう！ 健康のために	●十分な睡眠で休養をとれる日を増やそう	●保健師等による相談・指導等の機会を通じて、休養を大切にす生活習慣及び社会環境の改善を支援します



目標指標

目標指標		現状値 H23	目標値 H34
①睡眠による休養が十分にとれていない人の減少	小学6年生	22.1%	20%以下
	中学3年生	47.5%	43%以下
	一般	36.5%	29%以下

<目標値の考え方>

- ①の小中学生については、第1次計画と同様の考え方で、現状から1割減を目標とした。  
一般については、第1次計画と同様の目標とした。



江南市マスコットキャラクター  
ふじか  
藤花ちゃん

## (4) 喫煙

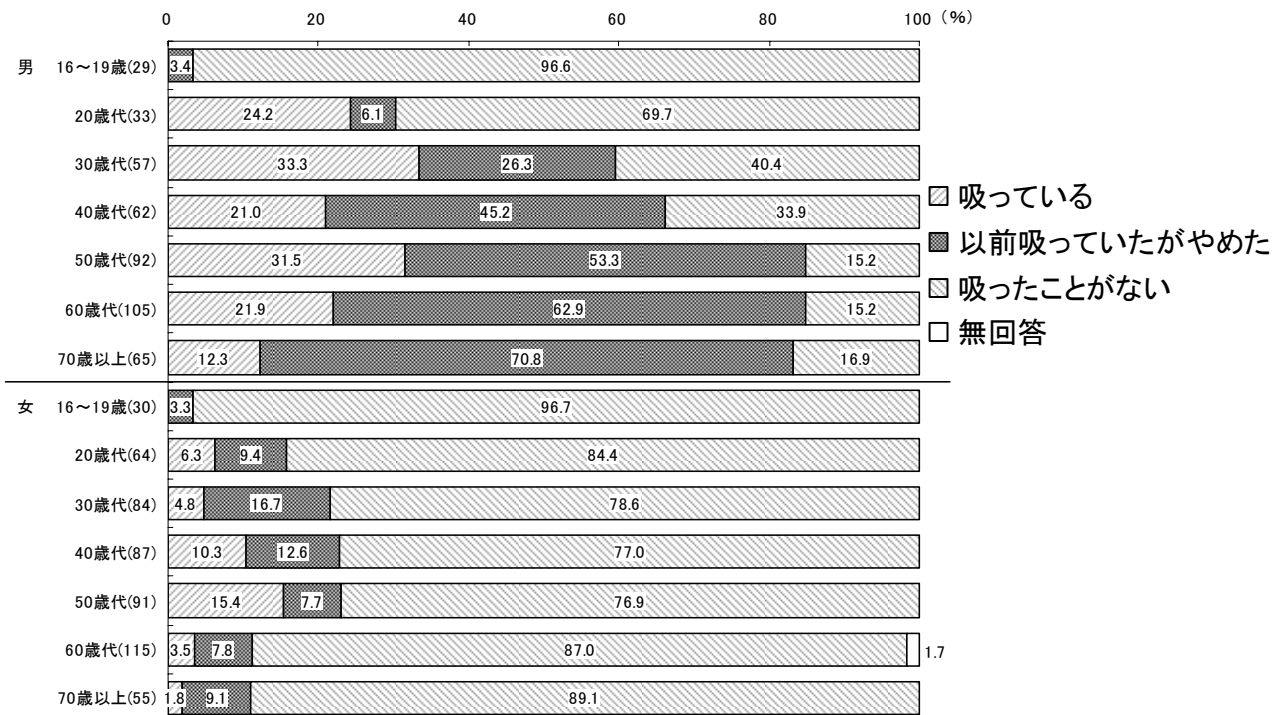
### ●● 現状と課題 ●●

たばこの煙は、がんや呼吸器疾患など様々な病気につながります。アンケート調査結果をみると、男性では「以前吸っていたがやめた」人が多くみられますが、現在「吸っている」人は、特に20～60歳代で2割以上と多くみられます。たばこの健康への影響を理解できるよう啓発し、可能な限り禁煙を推奨し、支援していく必要があります。

また、未成年の喫煙は、健康に大きな影響を及ぼします。社会全体で、未成年に喫煙させない環境づくりに取り組む必要があります。同時に、胎児の健康にも影響する妊婦の喫煙防止に取り組む必要があります。

たばこは、喫煙者本人だけでなく、まわりの人の受動喫煙にも注意が必要です。アンケート調査結果では、職場では「喫煙場所が指定してある」が58.8%を占めているように、分煙対策は多くの職場でとられており、「何もなされていない」職場は7.9%となっています。家庭では「吸う人がいない」が半数以上を占めているものの、「何もなされていない」家庭が8.6%みられます。小中学生のアンケート調査結果をみると、父親が吸う家庭が3割、母親が吸う家庭も1割ある中、家庭内喫煙者の半数以上が子どものいる場所で喫煙しています。家庭における、子どもや妊婦、家族の受動喫煙に配慮する意識づくりに取り組む必要があります。

図 喫煙状況



資料：江南市健康に関する市民アンケート調査（平成23年度）

※（ ）内は回答者数。小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

図 職場での分煙対策

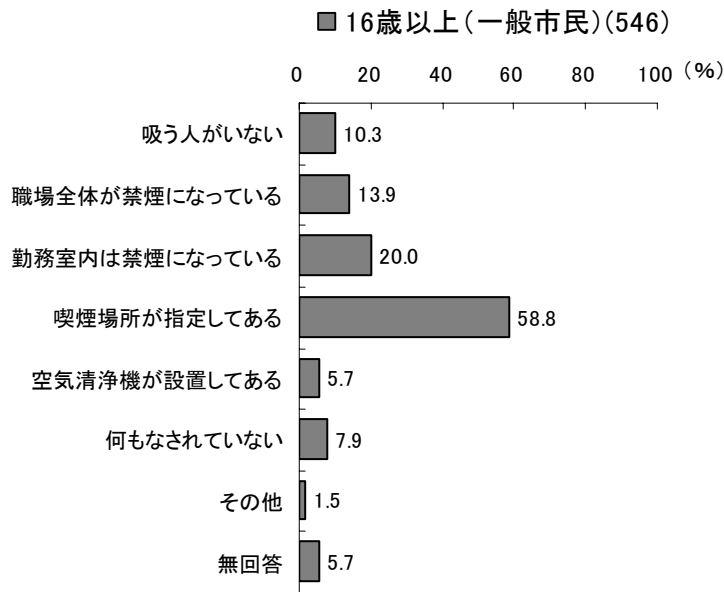


図 家での分煙対策

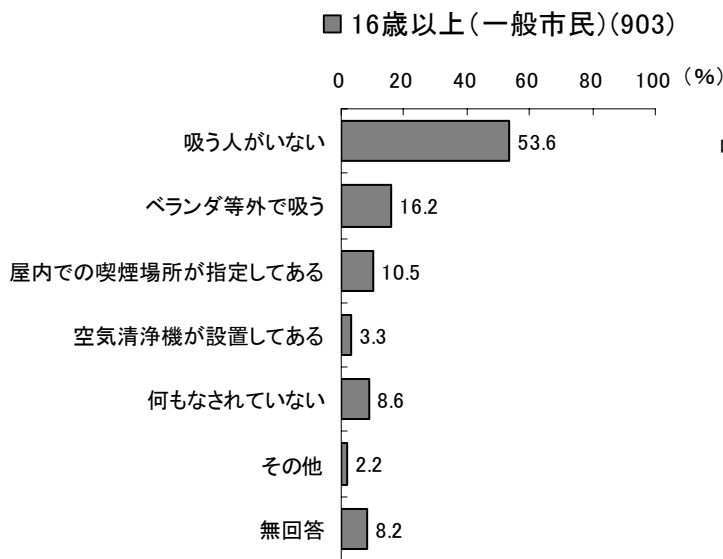


図 家庭内喫煙者の有無

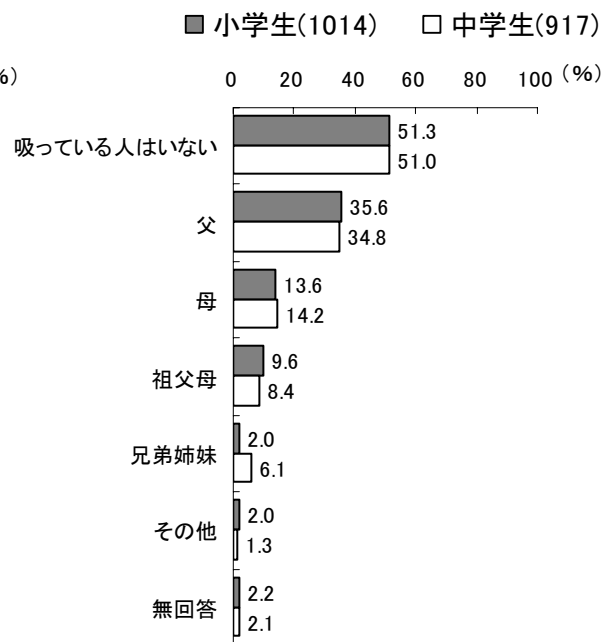
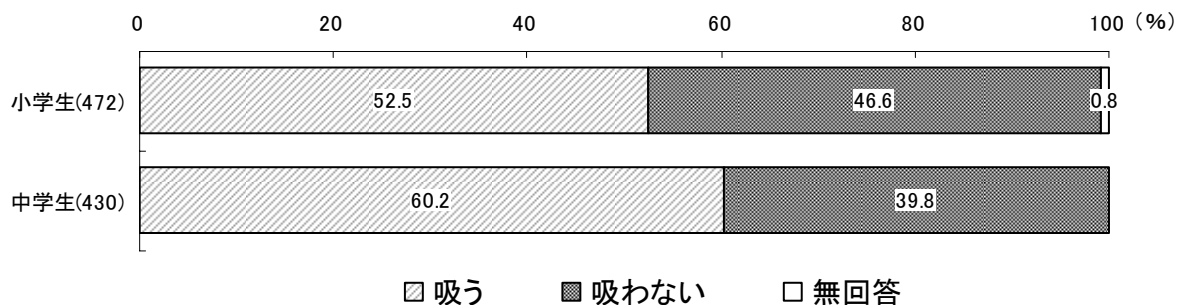


図 子どもがいる場所での喫煙状況

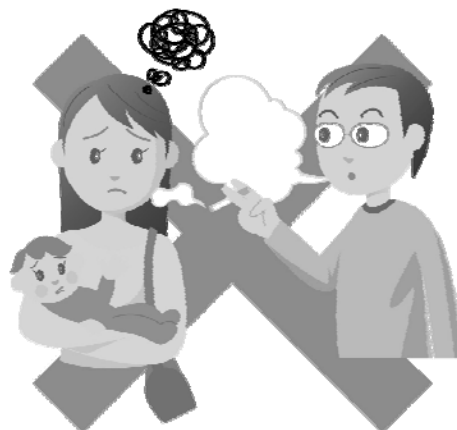


資料：江南市健康に関する市民アンケート調査（平成 23 年度）

※（ ）内は回答者数。小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合があります。

<課題のポイント>

- ①禁煙の啓発と推奨
- ②禁煙への支援
- ③未成年者の喫煙防止
- ④妊婦の喫煙防止
- ⑤受動喫煙に配慮する意識づくり



 取り組み

	市民の取り組み	行政等の取り組み
考えよう！ 健康のこと	○たばこの影響を理解しよう	○「世界禁煙デー」や「禁煙週間」のPR等をはじめ、様々な機会を通じて、禁煙を勧める啓発や情報提供を行います ○喫煙マナーや受動喫煙の影響などについて啓発します ○妊婦や未成年者の喫煙が及ぼす健康への影響を啓発し、禁煙を徹底します
行動しよう！ 健康のために	●喫煙者は禁煙にチャレンジしよう ●喫煙者は周りの人に配慮しよう ●未成年や妊婦の喫煙をなくそう	●市関係施設の分煙や受動喫煙防止対策実施施設の認定、喫煙者への啓発等を通じて、受動喫煙の機会を減らす取り組みを推進します ●禁煙を希望する人が、専門的な治療や支援を受けられるよう支援します



目標指標

目標指標		現状値 H23	目標値 H34	
①成人の喫煙率の減少	20歳以上	13.8%	8%以下	
②未成年の人の喫煙をなくす	16～19歳男性	3.4%	0%	
	16～19歳女性	3.3%		
③喫煙の影響を受ける疾患についての十分な知識の普及	肺がん	中学3年生	85.7%	100%
		一般	79.8%	
	ぜんそく	中学3年生	50.8%	
		一般	60.4%	
	気管支炎	中学3年生	65.3%	
		一般	64.9%	
	心臓病	中学3年生	54.3%	
		一般	45.8%	
	脳卒中	中学3年生	54.0%	
		一般	48.0%	
	胃潰瘍	中学3年生	39.8%	
		一般	30.0%	
妊娠への影響、未熟児など	中学3年生	84.6%		
	一般	77.7%		
歯周病	中学3年生	68.3%		
	一般	40.5%		
④分煙対策等を行っていない家庭の減少	一般	8.6%	0%	
⑤分煙対策等を行っていない職場の減少	一般	7.9%	0%	

<目標値の考え方>

- ①は、国（第2次）の目標値の考え方に準じ、成人の喫煙率から禁煙希望者が禁煙した場合の割合を減じた値を目標とした。
- ②は、第1次計画及び国（第2次）と同様の目標とした。
- ③・④・⑤は、第1次計画と同様の目標とした。

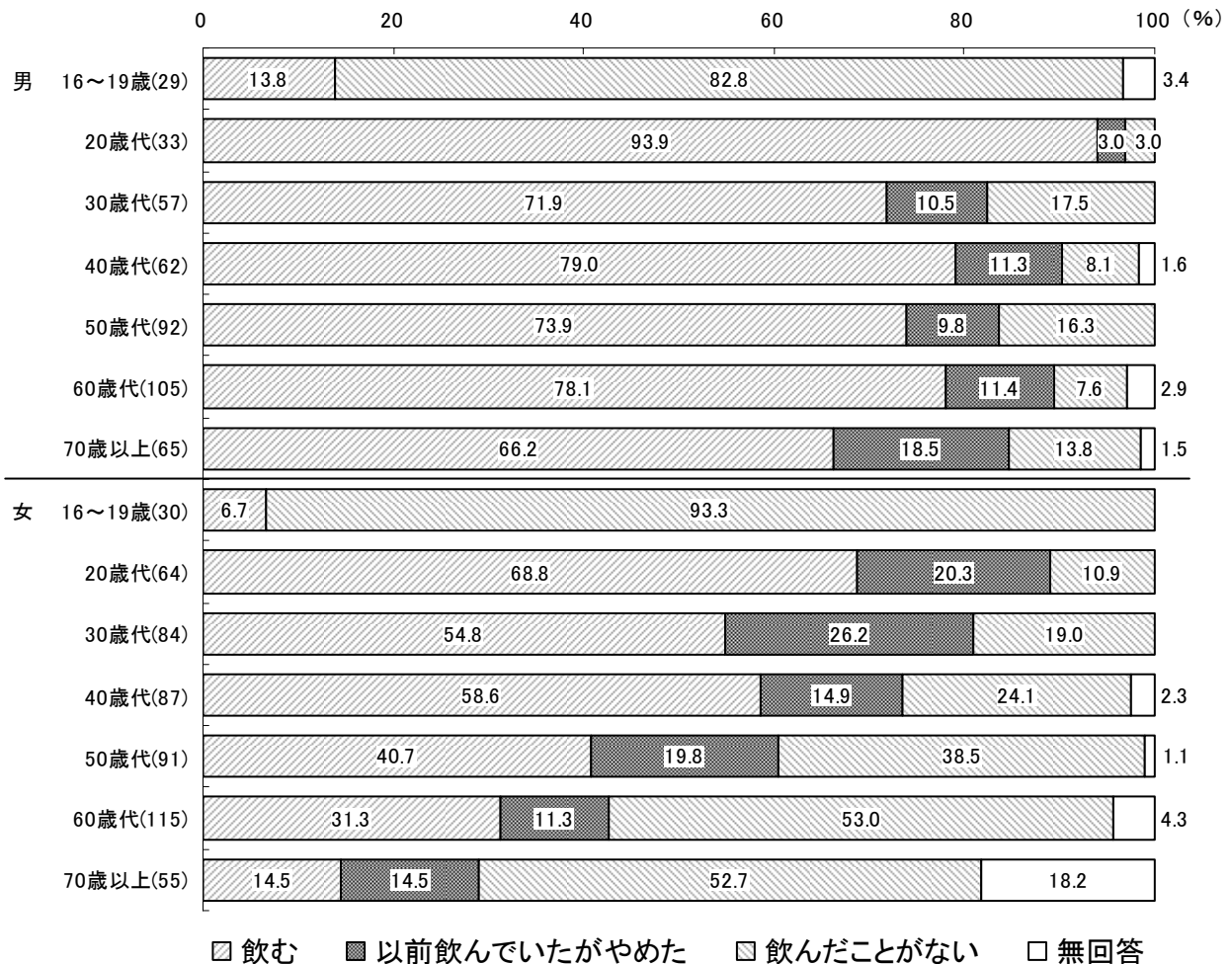
## (5) 飲酒

### ●● 現状と課題 ●●

お酒は、少量であれば心身へ好影響がありますが、過度な飲酒は肝臓疾患や胃潰瘍など60以上もの病気を引き起こすと言われていています。アンケート調査結果では、20歳代の男女や30～60歳代男性で飲酒者が多くみられます。飲酒者のうち、毎日飲む人が30.5%、1回に3合以上飲む人が4.0%となっています。生活習慣病のリスクを高める量の飲酒の防止を啓発していく必要があります。

また、未成年（16～19歳）での飲酒は、男性で13.8%、女性で6.7%みられます。未成年の飲酒の危険性を社会全体で理解し、未成年に飲酒させない環境づくりに取り組む必要があります。同時に、胎児の健康にも影響する妊婦の飲酒を防止する取り組みが必要です。

図 飲酒状況



資料：江南市健康に関する市民アンケート調査（平成23年度）

※（ ）内は回答者数。小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

図 飲酒頻度

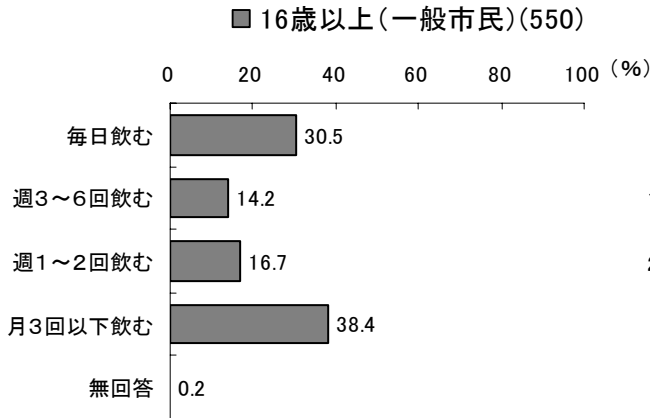


図 飲酒量

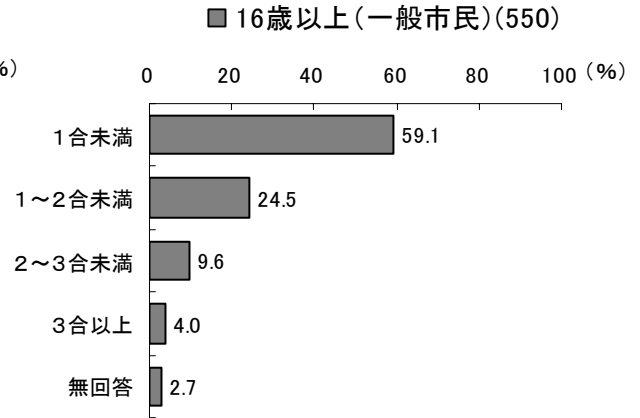
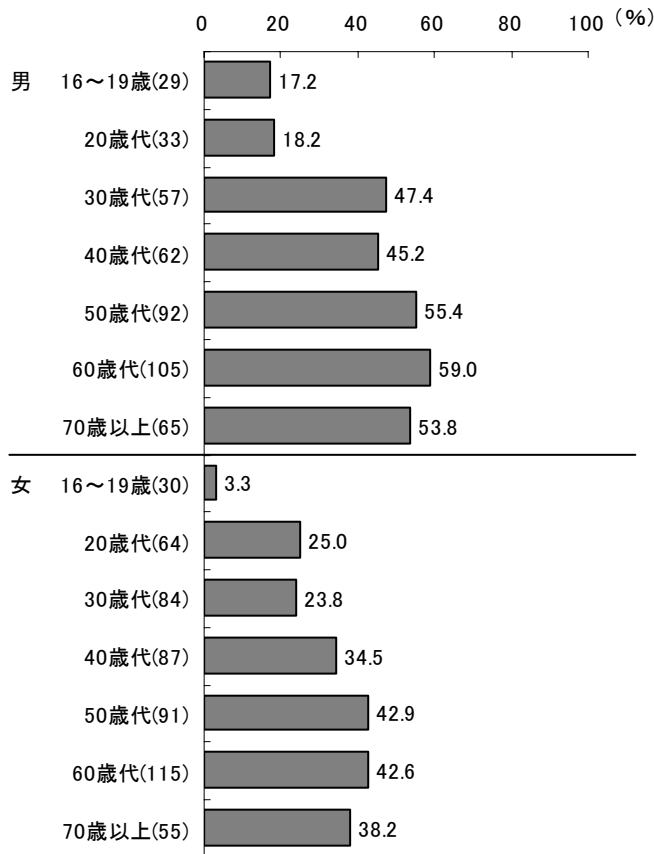


図 「節度ある適度な飲酒※」を知っている人の割合



用語の説明

※節度ある適度な飲酒とは、1日平均純アルコールで約20g程度の飲酒のことをいいます。  
 《主な酒類の換算の目安》

お酒の種類	ビール (中瓶1本500ml)	清酒 (1合180ml)	ウイスキー・ ブランデー (ダブル60ml)	焼酎(35度) (1合180ml)	ワイン (1杯120ml)
純アルコール量	20g	22g	20g	50g	12g

資料：江南市健康に関する市民アンケート調査（平成23年度）

※（ ）内は回答者数

<課題のポイント>

- ①高リスク飲酒の危険性の啓発
- ②未成年者の飲酒防止
- ③妊婦の飲酒防止



	市民の取り組み	行政等の取り組み
考えよう！ 健康のこと	○過度な飲酒の影響を理解しよう	○健康フェスティバルをはじめ、多様な機会を通じて「生活習慣病のリスクを高める飲酒量」についての啓発や情報提供を行います ○妊婦や未成年者の飲酒が及ぼす健康への影響を啓発し、飲酒防止を徹底します
行動しよう！ 健康のために	●多量飲酒を減らそう ●休肝日（お酒を飲まない日）をつくろう ●未成年や妊婦には飲酒させないようにしよう	●啓発や情報提供などを通じて、多量飲酒の防止、妊婦や未成年の飲酒防止の意識を高め、市民の取り組みを促します





## 目標指標

目標指標		現状値 H23	目標値 H34	
①未成年の人の飲酒をなくす	16～19歳男性	13.8%	0%	
	16～19歳女性	6.7%		
②多量に飲酒する人の減少	一般	4.0%	3.2%以下	
③多量な飲酒の影響を受ける疾患についての知識の普及	肝臓疾患	中学3年生	64.4%	100%
		一般	75.7%	
	妊娠への影響、未熟児など	中学3年生	76.0%	
		一般	67.7%	
	胃潰瘍	中学3年生	50.2%	
		一般	47.6%	
	高血圧症	中学3年生	68.3%	
		一般	51.9%	
	脳卒中	中学3年生	59.5%	
		一般	48.5%	
	がん	中学3年生	51.3%	
		一般	37.2%	
	心臓病	中学3年生	52.6%	
		一般	38.1%	
認知症	中学3年生	33.5%		
	一般	16.8%		

### <目標値の考え方>

- ①は、第1次計画及び国（第2次）と同様の目標とした。
- ②は、第1次計画と同様の考え方で、現状から2割減を目標とした。
- ③は、第1次計画と同様の目標とした。



江南市マスコットキャラクター  
ふじか  
藤花ちゃん

## (6) 歯と口腔の健康

### ●● 現状と課題 ●●

歯と口腔の健康は、食事や会話を楽しむ上で大切な要素です。歯と口腔の健康を損なうことは、生活の質を低下させ、糖尿病や認知症など全身の健康にも大きく影響します。しかし、アンケート調査結果では、歯や口腔の健康と全身の健康との関連性についてはあまり知られていない様子が読み取れます。健康における重要な課題として、歯と口腔の健康を考える啓発が必要です。

また、よくかむことを心がけている人は、多くの年齢層で5割未満となっており、若いうちから歯の健康に関心を持ち、よくかむことの重要性や適切な口腔ケアを身につけられる取り組みが必要です。

「8020 運動（80 歳になっても自分の歯を 20 本以上保とうという運動）」の認知度は、小中学生で低くなっており、啓発が必要です。

図 歯の健康が全身の健康に影響  
していることを知っている人の割合

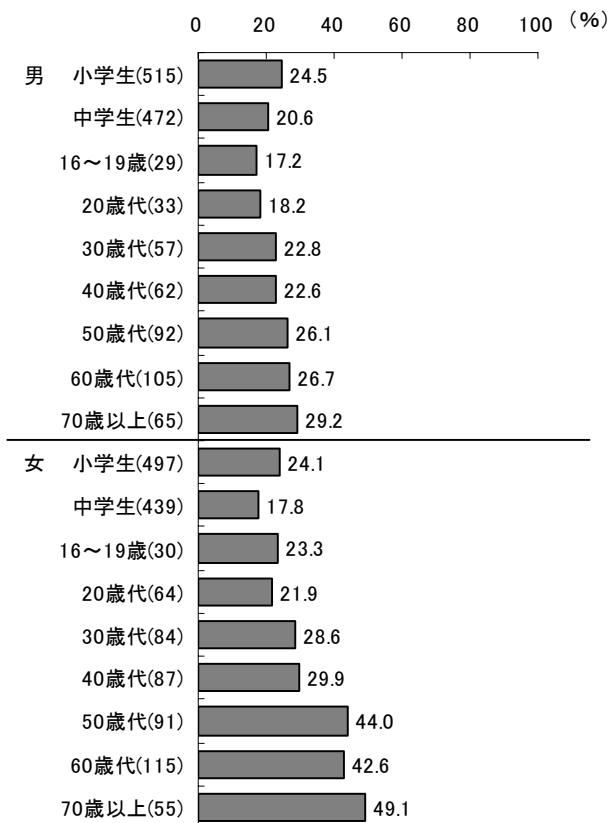
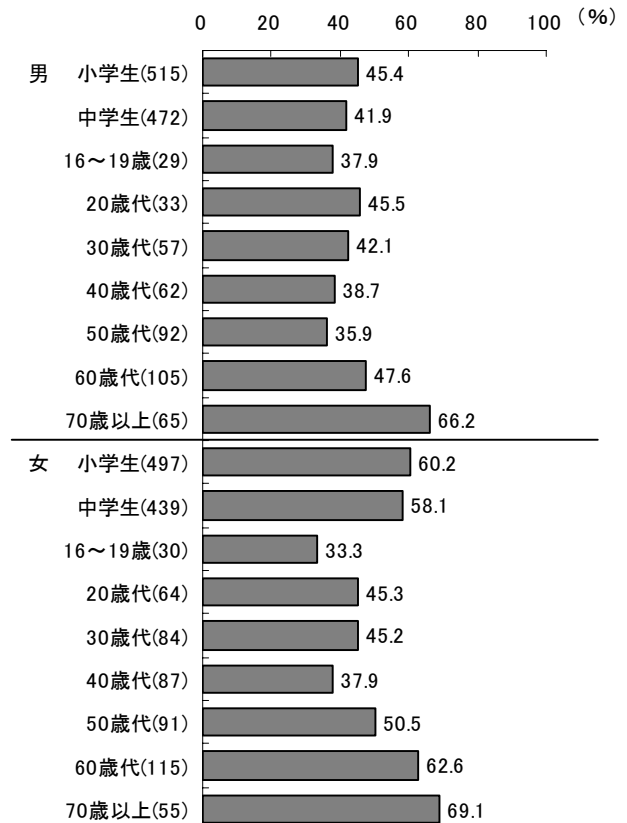


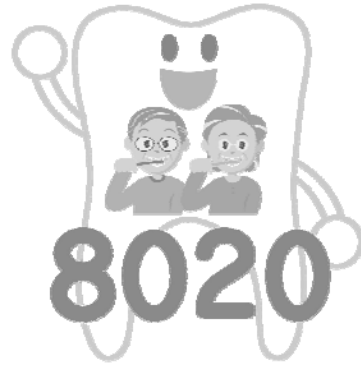
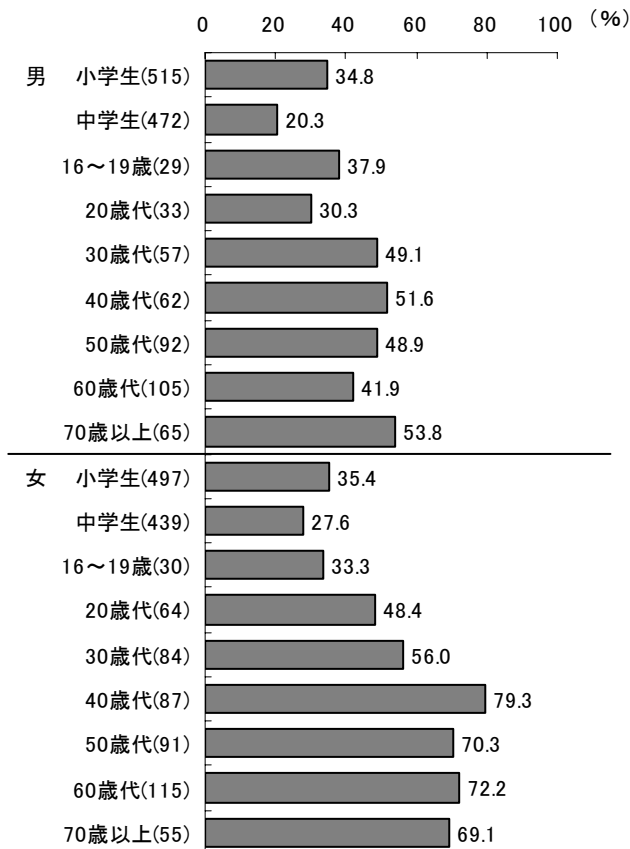
図 よくかむことを心がけている人の割合



資料：江南市健康に関する市民アンケート調査（平成 23 年度）

※（ ）内は回答者数

図 8020 運動を知っている人の割合



資料：江南市健康に関する市民アンケート調査（平成 23 年度）

※（ ）内は回答者数

<課題のポイント>

- ①歯・口腔の健康の啓発
- ②よくかむことの啓発
- ③8020 運動の周知



江南市マスコットキャラクター  
ふしか  
藤花ちゃん



	市民の取り組み	行政等の取り組み
考えよう！ 健康のこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>○適切な歯と歯肉のお手入れ方法を知ろう</li> <li>○歯の健康と全身の健康との関係を知ろう</li> <li>○8020 運動を理解しよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○歯の健康について学ぶ各種教室や 8020・9018 運動の推進などを通じて、歯の健康づくりに関する正しい知識を普及します</li> </ul>
行動しよう！ 健康のために	<ul style="list-style-type: none"> <li>●よくかんで食べよう</li> <li>●定期的に歯科健診を受けよう</li> <li>●ていねいに歯をみがこう</li> <li>●デンタルフロスや歯間ブラシを使おう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●歯の健康を守るため、年代に応じた各種歯科健診等の機会を提供します</li> </ul>



## 目標指標

目標指標		現状値 H23	目標値 H34
①むし歯のない幼児・児童の増加	3歳児	86.7%	90%以上
	小学1年～6年生	86.5%	90%以上
②歯みがきを1日3回以上する人の増加	小学6年生	27.9%	38%以上
	中学3年生	17.7%	22%以上
	一般	21.0%	31%以上
③歯間清掃用具を使用している人の増加	35～44歳	12.5%	18%以上
	45～54歳	15.6%	21%以上
	一般	17.8%	33%以上
④定期的に歯科健診を受けている人の増加	55～64歳	41.7%	52%以上
	一般	38.2%	49%以上
⑤定期的に歯石除去等を受けている人の増加	55～64歳	41.7%	52%以上
	一般	36.5%	47%以上
⑥8020運動を知っている人の増加	小学6年生	35.1%	53%以上
	中学3年生	23.7%	51%以上
	一般	56.3%	100%
⑦歯周病の予防法を知っている人の増加	小学6年生	25.2%	30%以上
	中学3年生	12.0%	33%以上
	一般	32.6%	63%以上
⑧歯肉に炎症所見を有する人の減少	20歳代	15.5%	減少傾向へ

### <目標値の考え方>

- ①の3歳児については、第1次計画と同様の目標とした。小学生も3歳児と同様の目標値とした。
- ②の小学6年生は、現状から10%増を目標とした。中学生及び一般は第1次計画と同様の目標とした。
- ③・⑥・⑦は、第1次計画と同様の目標とした。
- ④は、現状から10%増を目標とした。
- ⑤は、第1次計画と同様の考え方で、現状から10%増を目標とした。
- ⑧は、国（第2次）と同様の考え方から「減少傾向へ」とした。

## 2 健康な社会環境を実現しよう！

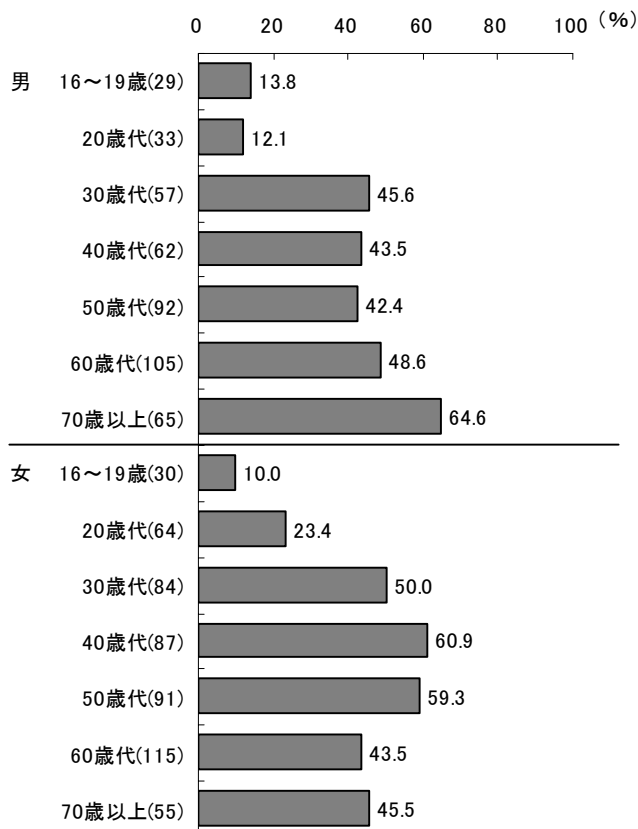
### (1) 地域活動の活発化と参加の促進

#### ●● 現状と課題 ●●

地域とのつながりをもつことは、健康に良い影響を及ぼすとされています。アンケート調査結果では、地域活動に参加している人は30歳以上に多くみられますが、「良いコミュニティづくり」につながるような地域参加を推進していく必要があります。

また、企業等の退職者が地域参加するきっかけが難しいという問題も指摘されています。勤めている時から地域活動に参加することで、退職後の活躍の場への参加がスムーズになるような取り組みや啓発を検討していく必要があります。

図 地域活動へ参加した人の割合



資料：江南市健康に関する市民アンケート調査（平成23年度）

※（ ）内は回答者数

<課題のポイント>

- ①地域への参加の促進
- ②退職者の地域参加への支援



取り組み

	市民の取り組み	行政等の取り組み
考えよう！ 健康のこと	○地域の人と交流し、様々な活動に参加することの大切さを知ろう	○地域活動等への参加の大切さを伝え、多様な活動等に参加する意識を啓発します
行動しよう！ 健康のために	●地域の人と交流し、地域の様々な活動に積極的に参加しよう	●ボランティア活動やサロン活動など、地域で行われている多様な活動への参加機会について情報提供します



目標指標

目標指標		現状値 H23	目標値 H34
①地域活動に参加している人の増加	16～64 歳男性	37.5%	48%以上
	16～64 歳女性	46.5%	57%以上
	65 歳以上男性	60.9%	71%以上
	65 歳以上女性	44.0%	54%以上

<目標値の考え方>

- ①は、第1次計画と同様の考え方で、現状から10%増を目標とした。

## (2) 健康意識を高めるネットワークの強化

### ●● 現状と課題 ●●

国の健康日本21（第2次）では、健康への意識があっても取り組めない人や健康づくりに関心のない人なども含めて、社会全体が相互に支え合いながら健康を守るための環境をつくっていく必要があるとしています。市民を中心に、行政や学校、保育園、医療機関などの様々な機関によるネットワークを強め、市民一人ひとりの健康づくりを支える環境をつくる必要があります。

また、市と企業等との連携の重要性についても指摘されています。健康づくりに関する活動に取り組む企業が増えることは、その企業に属する従業員の健康につながるだけでなく、地域全体への波及効果も期待されるため、企業の取り組みを促すことが必要です。

#### <課題のポイント>

- ①多機関とのネットワーク強化
- ②健康に関する企業の取り組みの促進



### 🌿 取り組み

	市民の取り組み	行政等の取り組み
考えよう！ 健康のこと	○健康と社会環境について、みんなで考えよう	○健康と社会環境の関係について情報提供します ○健康に関する企業の取り組みについて情報提供します
行動しよう！ 健康のために	●組織や企業として、健康づくりに積極的に取り組みよう	●学校、保育園、医療機関など、様々な機関とのネットワークを強化します ●企業等の取り組みの活発化をめざし、食育や禁煙・分煙等の取り組み状況の登録や情報提供を行います

### 🌿 目標指標

目標指標	現状値 H23	目標値 H34
①食育推進協力店登録数の増加	46 施設	増加傾向へ
②受動喫煙防止対策実施施設数の増加	113 施設	増加傾向へ
③健康チェック（食品衛生協会会員対象）利用者数の増加	124 人	増加傾向へ

#### <目標値の考え方>

①・②・③は、新たに設定した独自の目標である。現状からの増加をめざす。

## 3 社会生活を送るために必要な健康づくり！

### (1) こころの健康づくり

#### ●● 現状と課題 ●●

ストレスが多いとされる今日の社会では、こころの健康に問題を抱えている人が増えています。こころの健康を保つことは、自分らしくいきいきと生きるための重要な条件であり、生活の質にも大きく影響します。こころの健康を保つには、適度な運動、バランスのとれた栄養・食生活などのほか、十分な睡眠をとり、ストレスと上手につきあうことが大切な要素です。

こころの病気の代表的なものであるうつ病は、多くの人がかかる可能性をもつ病気です。また、うつ病は、わが国で年間3万人にのぼる自殺との関連性も指摘されている病気であり、早期に適切な治療が必要です。しかし、アンケート調査結果では、こころの不調が続いた時の対応として、「受診も相談もしない」人が58.1%と多くみられ、その理由として「自然に治るだろうから」

(65.9%)が多くみられました。また、ストレスを感じる人は男性よりも女性に多くみられますが、女性に比べて男性は相談相手がいる人が少なく、適切に対処できていない可能性が高いといえます。1人で抱え込まず相談機関をうまく利用できるよう支援することで、うつを予防し、早期に対応することで自殺を予防していく必要があります。

こころの病気は、本人が気付かない場合もあり、家族などまわりの人の気づきが早期発見・早期治療につながることもあります。こころの病気への正しい知識の普及と理解を啓発し、社会全体で取り組んでいく必要があります。

また、アンケート調査結果では、中学生でも6割以上がストレスを感じているという結果が出ています。これは、一般市民とあまり変わらない数値です。若年期から自分なりのストレス解消法をもち、ストレスと上手につき合っていく方法を身につけられるよう支援していく必要があります。



図 こころの不調が続いた時の対応

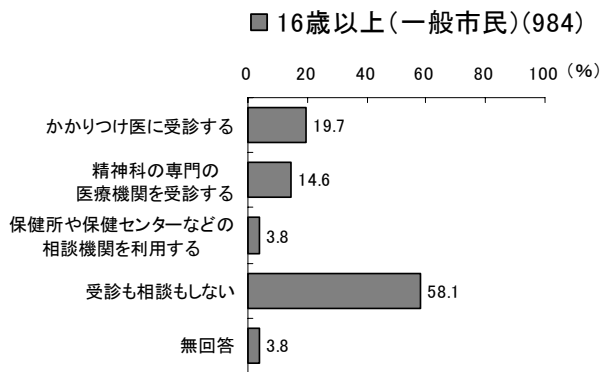


図 受診も相談もしない理由

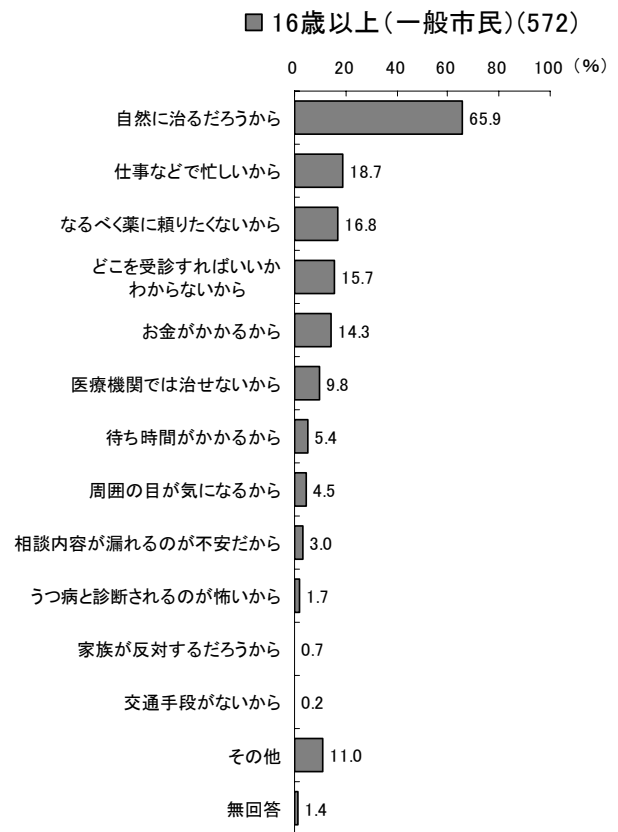


図 ストレス（不安や悩み）を感じた人の割合

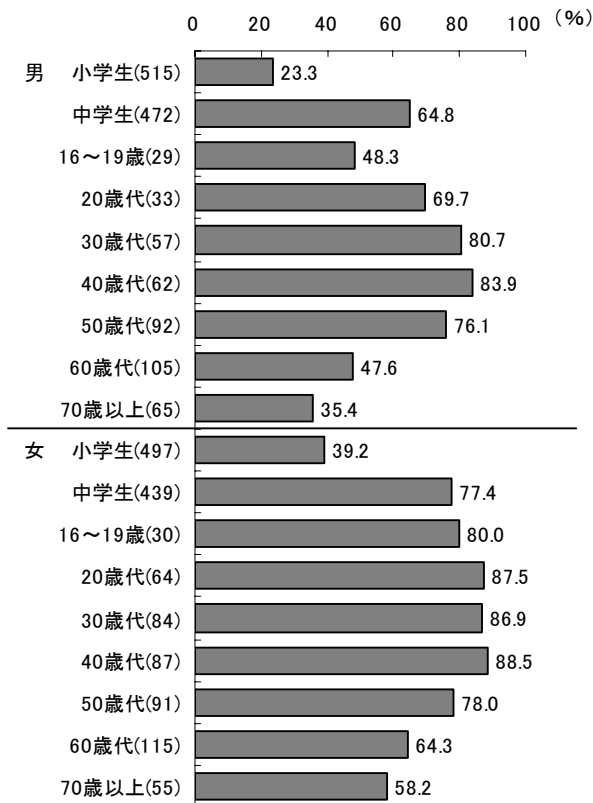
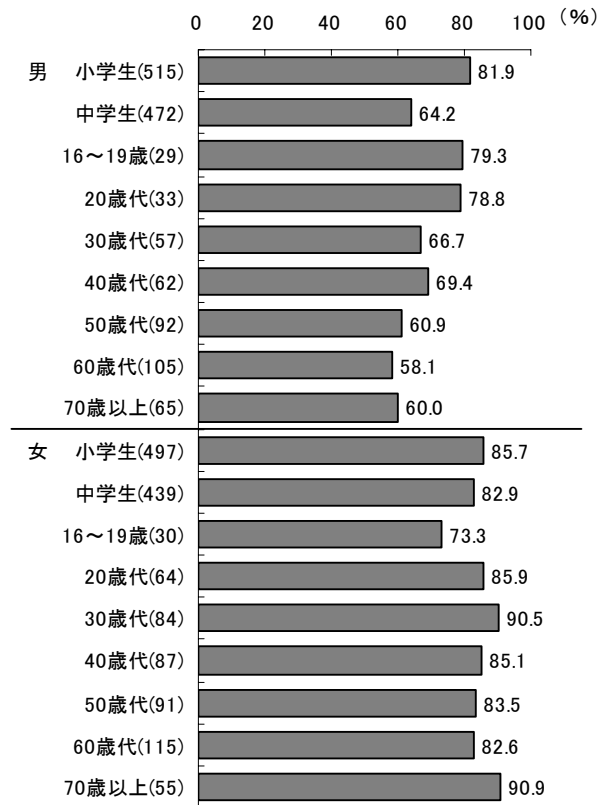


図 相談相手がいる人の割合



資料：江南市健康に関する市民アンケート調査（平成23年度）

※（ ）内は回答者数

<課題のポイント>

- ①ストレス解消法をもつ（上手につきあう）
- ②うつ予防と自殺予防の推進
- ③相談機会の利用促進
- ④こころの病気への理解、正しい知識の普及



取り組み

	市民の取り組み	行政等の取り組み
考えよう！ 健康のこと	○こころの病気を知り、正しく理解しよう	○各種啓発事業や講座等を通じて、こころの健康についての正しい知識を普及します
行動しよう！ 健康のために	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自分なりのストレス解消法をもとう</li> <li>●相談を利用し、学習の場に参加しよう</li> <li>●まわりの人のこころの不調に関心をもとう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●こころの健康について、家庭、学校、職場など、対象者の状況を踏まえた多様な形での相談機会を充実します</li> <li>●こころの健康についての啓発や相談、自殺予防の啓発等により、自殺予防対策を推進します</li> </ul>



目標指標

目標指標		現状値 H23	目標値 H34
①自殺者の減少（人口 10万人あたり）		22.6 (H22)	減少傾向へ
②ストレス解消法をもっている人の増加	一般	70.1%	80%以上
③こころの不調が続いた時に医療機関等を受診する人の増加	一般	38.1%	50%以上

<目標値の考え方>

- ①は、現状からの減少をめざすことを目標とした。
- ②・③は、新たに設定した独自の目標である。現状値から 10%程度の増加を目標とした。

## (2) 子どもの健康づくり

### ●● 現状と課題 ●●

子どもの健やかな成長のために、子どもの健康を守ることは重要な課題です。妊娠期や乳幼児期などは、子ども自身が健康を守ることはできず、周囲や社会環境の影響を大きく受ける時期といえます。子ども自身の健康を守る視点から、各種サービスの充実や保護者への情報提供や啓発等を行う必要があります。

また、子どもの時期に健康な生活習慣を身につけることは、その後の長い人生における健康習慣にもつながります。食事を3食食べること、健康な運動習慣を身につけることなどを推進していく必要があります。

#### <課題のポイント>

- ①胎児の健康
- ②子どもの健康な生活習慣の体得



#### 取り組み

	市民の取り組み	行政等の取り組み
考えよう！ 健康のこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>○妊娠中の喫煙、飲酒の影響を知ろう</li> <li>○胎児や子どもの健康に必要な事柄を知ろう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各種啓発事業や講座、子育て支援事業などの場において、胎児や子どもの健康に必要な情報を提供します</li> </ul>
行動しよう！ 健康のために	<ul style="list-style-type: none"> <li>●妊娠中は喫煙、飲酒をやめよう</li> <li>●妊婦のまわりでは、たばこを吸わないようにしよう</li> <li>●胎児や乳幼児の健康を守る生活をしよう</li> <li>●子どもたちが、健康な生活習慣を身につけられるよう支援しよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●親などが、胎児や乳幼児の健康を守る生活習慣を学ぶための講座等の機会を提供します</li> <li>●保育園や学校等での教育等を通じて、子どもが健康な生活習慣を身につけられる教育等の機会をつくります</li> </ul>



## 目標指標

目標指標		現状値 H23	目標値 H34	
①低出生体重児の割合の減少		10.5%	減少傾向へ	
②妊娠 11 週以下での妊娠の届出率の増加		96.4%	100%	
③妊婦歯科健康診査を受診する人の増加		33.1%	増加傾向へ	
④妊婦の喫煙をなくす		3.6%	0%	
⑤妊婦の飲酒をなくす		2.1%	0%	
⑥フレッシュ・パパママ教室に 参加する人の増加	妊婦	21.6%	27%以上	
⑦乳幼児健康診査を受診する 人の増加	4か月児	96.5%	100%	
	1歳6か月児	97.5%		
	3歳児	94.2%		
⑧予防接種を受け る人の増加	BCG	3か月～4歳未満児	99.2%	100%
	三種混合	3か月～7歳6か月 未満児	97.7%	

### <目標値の考え方>

- ①は、国（第2次）と同様の考え方から「減少傾向へ」とした。
- ②は、新たに設定した独自の目標である。100%を目標とした。
- ③は、現状からの受診の増加を目標とした。
- ④・⑤は、第1次計画及び国（第2次）と同様の目標とした。
- ⑥は、第1次計画と同様の考え方で、現状から5%増を目標とした。
- ⑦は、江南市戦略計画において、4か月児健康診査の受診率のH29の目標値を100%としていることから、受診率100%を目標とした。
- ⑧は、江南市戦略計画において、H29の目標値を100%としていることから、予防接種100%を目標とした。

### (3) 高齢者の健康づくり

#### ●● 現状と課題 ●●

国の健康日本21（第2次）では、やせや低栄養傾向の高齢者の減少、ロコモティブ・シンドローム（運動器症候群）※という概念の浸透と該当者の減少、足腰に痛みのある高齢者の減少、就業または何らかの地域活動をしている高齢者の増加などが必要であるとされています。高齢者の生活の質を高め、介護予防のための取り組みを推進する必要があります。

高齢化の進展に伴い、寝たきりや認知症高齢者は確実に増加するとされています。基本チェックリストを用いた二次予防事業対象者※の該当割合からは、運動器の機能、口腔機能、認知症、うつが高い割合となっており、これらを予防することは健康寿命の延伸に直結する取り組みといえます。

#### 用語の説明

※ロコモティブ・シンドローム（運動器症候群）とは、骨、関節、筋肉などの運動器の障害のために、要介護になったり、要介護になる危険の高い状態をいいます。運動器の働きが衰えると、暮らしの中の自立度が低下し、介護が必要になったり、寝たきりになる可能性が高くなります。

※二次予防事業対象者とは、要介護（支援）状態になるおそれの高い高齢者をいいます。

表 二次予防事業対象者の該当割合

	運動器の機能	栄養状態	口腔機能	閉じこもり	認知症	うつ	基本チェックリスト実施者数
人数(人)	3,099	251	2,609	647	2,625	2,228	13,353人
割合(%)	23.2	1.9	19.5	4.8	19.7	16.7	

資料：平成23年度基本チェックリスト実施結果（江南市）

※二次予防事業対象者の割合は、基本チェックリスト実施者に占める該当項目の割合。人数は、リスクが重なる場合があるため延べ人数となっています。

#### <課題のポイント>

- ①介護予防施策の推進
- ②ロコモティブ・シンドロームという概念の普及
- ③認知症高齢者の減少





## 取り組み

	市民の取り組み	行政等の取り組み
考えよう！ 健康のこと	○高齢者の健康づくりが介護予防につながることを理解しよう	○高齢者が取り組みやすいような介護予防についての情報を提供します
行動しよう！ 健康のために	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日常生活の中で介護予防を取り入れた健康づくりを実践しよう</li> <li>①転ばない体づくりを心がけよう</li> <li>②おいしく食べられる口腔の機能を保とう</li> <li>③1日3食しっかり食べよう</li> <li>④老人クラブや地域の催し物などに積極的に参加しよう</li> </ul>	●関係機関と連携して介護予防事業を充実します



## 目標指標

目標指標		現状値 H23	目標値 H34
①ロコモティブ・シンドローム（運動器症候群）を知っている人の増加	一般	—	80%以上

### <目標値の考え方>

①は、国（第2次）と同様の目標とした。

### <参考>江南市戦略計画より

目標指標		現状値 H23	目標値 H29
②高齢者人口に占める要介護者の割合の増加の抑制	65歳以上	12.8%	17.6%以下

## 4 生活習慣病を予防しよう！

### (1) 生活習慣病予防対策の推進

#### ●● 現状と課題 ●●

生活習慣病の予防には、食生活の改善や運動習慣の定着などが重要です。市民一人ひとりの生活習慣の改善による一次予防策を重視し、がん、循環器疾患による死亡率の減少をめざすとともに、健（検）診等の受診率向上による疾病の早期発見を図ることが大切です。

また、糖尿病をはじめとする生活習慣病の予防と、合併症の減少をめざすため、メタボリック・シンドローム\*該当者や予備群の減少、特定健診や特定保健指導の受診率向上をめざすことが必要です。

#### 用語の説明

※メタボリック・シンドローム（内臓脂肪症候群）とは、内臓脂肪が蓄積することによって、高血圧、高血糖、脂質異常を伴い、心臓病、脳卒中、糖尿病などの生活習慣病を発症しやすい状態をいいます。

#### <課題のポイント>

- ①各種健（検）診の受診率向上
- ②メタボリック・シンドローム予備群や該当者の減少



#### 取り組み

	市民の取り組み	行政等の取り組み
考えよう！ 健康のこと	○健（検）診の大切さを知ろう	○各種啓発事業等を通じて、生活習慣病予防のための情報を提供します
行動しよう！ 健康のために	●定期的に健（検）診を受けよう	●各種健（検）診等の機会を提供します



## 目標指標

目標指標			現状値 H23	目標値 H34
①がん検診を受ける人の増加	胃がん	男性	13.6%	30%以上
		女性	16.0%	30%以上
	肺がん	男性	18.3%	40%以上
		女性	22.3%	40%以上
	大腸がん	男性	16.5%	40%以上
		女性	20.6%	40%以上
	乳がん (超音波)	女性	15.0%	20%以上
	乳がん (X線)	女性	10.9%	30%以上
	子宮がん	女性	11.6%	30%以上
前立腺がん	男性	1.7%	20%以上	
②がんの標準化死亡比*の減少	胃がん	男性	101.5	減少傾向へ
		女性	116.6	
	肺がん	男性	116.1	
		女性	98.8	
	大腸がん	男性	80.3	
		女性	106.2	
	乳がん	女性	70.7	
	子宮がん	女性	97.6	
前立腺がん	男性	114.1		

### <目標値の考え方>

- ①は、現状からの受診率向上を目標とした。
- ②は、現状からの死亡率減少を目標とした。

### 用語の説明

※標準化死亡比（SMR）とは、基準死亡率（人口10万人あたりの死亡数）から計算により求められる死亡数と実際に観察された死亡数とを比較した指標です。国を100をとし、標準化死亡比が100以上の場合は平均よりも死亡率が高いと判断されます。



<参考> 江南市国民健康保険の現状と目標

目標指標		現状値 H23	目標値 H29
①特定健康診査を受ける人の増加	40歳～74歳の国民健康保険加入者	44.6%	60%
②特定保健指導を受ける人の増加	40歳～74歳の国民健康保険加入者	16.8%	60%
③高血圧の改善：高血圧有病率（140/90mmHg以上の割合）の減少	男性	14.8%	減少傾向
	女性	19.1%	減少傾向
④脂質異常症の減少：LDLコレステロール160mg/dl以上の人の割合の減少	男性	3.1%	減少傾向
	女性	9.1%	減少傾向
⑤メタボリック・シンドロームの該当者及び予備群の減少		29.0%	減少傾向
⑥治療継続者の割合の増加：HbA1c（JDS）6.1%以上の人のうち治療中と回答した人の割合の増加		54.8%	増加傾向
⑦糖尿病有病者の割合の増加の抑制：糖尿病治療薬内服中またはHbA1c（JDS）6.1%以上の人の割合の増加の抑制		12.6%	増加の抑制
⑧血糖コントロール指標におけるコントロール不良者の割合の減少（HbA1cが8.0%以上の人の割合の減少）		1.1%	減少傾向

(注) 上表の目標値は、「特定健康診査等実施計画（仮称）」において設定されるため、同計画の目標年度である平成29年度までの目標値を<参考>として掲載した。

## (2) 健康に関する正しい理解の促進

### ●● 現状と課題 ●●

日常生活を通じた健康づくりへの取り組みが適切で効果的なものとなるためには、市民が健康に関する正しい知識をもつ必要があります。病気のリスクや予防についての正しい知識を普及します。また、国が主要な生活習慣病に位置付けた慢性閉塞性肺疾患（COPD）※の認知度を高めるための情報提供を行う必要があります。

#### 用語の説明

※慢性閉塞性肺疾患（COPD）とは、有毒な粒子やガス（主にたばこの煙）の吸入による進行性の疾患であり、運動時の呼吸困難や慢性的な咳・痰などの症状があります。

#### <課題のポイント>

①病気のリスクや予防についての正しい知識の普及



#### 取り組み

	市民の取り組み	行政等の取り組み
考えよう！ 健康のこと	○病気のリスクや予防について理解しよう	○正しい知識を身につけるための学習機会や情報の提供を行います
行動しよう！ 健康のために	●健康に関する情報に関心を持ち、積極的に学習しよう	●健康について学習する意識を啓発します



#### 目標指標

目標指標		現状値 H23	目標値 H34
①COPDを知っている人の増加	一般	—	80%以上

#### <目標値の考え方>

①は、国（第2次）と同様の目標とした。

# 資料編



江南市マスコットキャラクター  
ふじか  
藤花ちゃん



# 1 市民の声の概要

## (1) 「健康に関する市民アンケート調査」の概要

計画づくりに役立つ資料を得るために、アンケート調査（健康に関する市民アンケート調査）を以下のように実施しました。

### □■ 実施概要 ■□

調査名	健康に関する市民アンケート調査
調査対象	一般：市内在住の16歳以上 中学生：市内中学校の3年生 小学生：市内小学校の6年生
サンプル	一般：2,000件（有効回収数 984件 有効回収率 49.2%） 中学生：985件（有効回収数 917件 有効回収率 93.1%） 小学生：1,031件（有効回収数 1,014件 有効回収率 98.4%）
調査方法	一般：郵送配布・郵送回収 中学生：学校を通じて配布・回収 小学生：学校を通じて配布・回収
調査時期	平成23年11月

## (2) 「健康を考える市民ワークショップ」の概要

市民の声をいかした計画とするため、「健康を考える市民ワークショップ」を開催しました。

### □■ 実施概要 ■□

開催日時	ワークショップ・プログラム
第1回 平成24年5月14日	<input type="checkbox"/> 健康のために行うとよいと思うことを考えよう！ <input type="checkbox"/> 行動指針を考えよう！
第2回 平成24年5月29日	<input type="checkbox"/> より大切だと思う行動指針を考えよう！ <input type="checkbox"/> 行動指針を実行可能とするための、家族・職場・地域・各種グループや団体・行政などの取り組みを考えよう！

□■ ワークショップの意見のまとめ（健康のために取り組むべきこと） ■□

	個人	家族
全体		
食事・栄養	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ つくることがも食べることも楽しむ</li> <li>○ 料理番組を見てつくってみる</li> <li>○ 3食しっかり食べる</li> <li>○ バランスのよい食事をとる</li> <li>○ 旬の野菜を食べる</li> <li>○ なるべく同じ時間にご飯を食べる</li> <li>○ 余分な間食はしない</li> <li>○ 野菜を食べてから主食（米）を食べる</li> <li>○ 腹八分目に抑える</li> <li>○ よくかんで食べる</li> <li>○ 水分をたくさんとる</li> <li>○ 快食快便をこころがける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 皆で食事をつくる</li> <li>○ バランスのよい食事をつくる</li> <li>○ 食べる人の年代に応じて食事をつくる</li> <li>○ 旬の野菜を使った料理を食卓に出す</li> <li>○ 家族そろって食事をする</li> <li>○ 食事のバランスや旬の野菜について話し合う</li> <li>○ 子どもが料理に関心をもつようにする</li> </ul>
身体活動・運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 有酸素運動をする</li> <li>○ ウォーキング、ラジオ体操など手軽な運動をする</li> <li>○ 近い場所へは歩いて行く</li> <li>○ フットケア、ウォーキング運動をする</li> <li>○ 団体に参加して運動をする</li> <li>○ 姿勢をチェックする</li> <li>○ 丹田（へその下）を意識して呼吸する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 家族で歩く</li> <li>○ 子ども、親、祖父母一緒に遊ぶ</li> <li>○ 運動を勧めたり、行事への参加を促す</li> <li>○ フットケアをしあう</li> </ul>
休養・こころの健康づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 睡眠をしっかり取る</li> <li>○ 早寝、早起きをする</li> <li>○ 適度なストレスをもつ</li> <li>○ ストレスをためないようにする</li> <li>○ 1人で悩まない</li> <li>○ 前向きに考える</li> <li>○ こころにゆとりある生活をする</li> <li>○ いつも笑顔をこころがける</li> <li>○ 1日1度は外出する</li> <li>○ 1日1回は声を出して笑う</li> <li>○ 家族や友人と会話をする</li> <li>○ 趣味を楽しむ</li> <li>○ グループ活動に参加するなどして仲間づくりをする</li> </ul>	
健康管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 年に1回健（検）診、人間ドックを受ける</li> <li>○ 健診の結果説明を受ける</li> <li>○ 定期的に歯科健診を受ける</li> </ul>	

地域	行政
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 団体同士が連携して取り組む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 市民と協働で活動を進める</li> <li>○ リーダーを育成する</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 一皿運動をすすめる</li> <li>○ 食事づくりの手伝いをする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 季節の献立を広報などに載せる</li> <li>○ 学校を通して食育をPRする</li> <li>○ 身近な場所で料理講習を実施する</li> <li>○ 男性の料理講習を実施する</li> <li>○ 個々の健診結果に基づいて、栄養、運動などの大切さを周知する</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 町内で何か運動を決めて実施する</li> <li>○ 町内でラジオ体操をする</li> <li>○ 運動できる機会へ誘う</li> <li>○ 運動指導や手伝いをする</li> <li>○ 運動の大切さを周知する</li> <li>○ 企業がフィットネスに力を入れる（投資する）</li> <li>○ 朝・昼に体操をする職場にする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校や園などの施設を開放して運動場所を提供する</li> <li>○ 体操やウォーキングなど運動する機会を提供する</li> <li>○ 親子で参加できるウォーキング＋芋煮会を開催する</li> <li>○ フットケアやウォー筋グ運動を周知する</li> <li>○ 運動場所や行事を回覧板等で周知する</li> <li>○ 運動サークルの立ち上げを支援する</li> <li>○ ラジオ体操を身につけられるよう学校へ指導する</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 挨拶や声かけをする</li> <li>○ 老人クラブや趣味の集まりなどの場をつくる</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 定期健診の費用補助を継続する</li> <li>○ 相談窓口を設置する</li> <li>○ 機会あるごとに健診の大切さを周知する</li> </ul>

## 2

## 計画の全体像

基本理念	施策の方向	課題のポイント	市民の取り組み（概要） ※
1 健康な生活習慣を実践しよう！	(1) 栄養・食生活	①朝食を食べる習慣を身につける ②適切な食事で、やせや肥満を予防する ③栄養バランスへの関心を高める ④孤食の解消	○ 自分の適正体重を知ろう ● 毎日朝食を食べよう ● 主食・主菜・副菜のそろった食事をとろう ● 毎食、野菜を食べよう ● よく噛んで食べよう ● 家族と一緒に食事をする回数を増やそう
	(2) 身体活動・運動	①運動と健康の関係を周知・啓発 ②日常生活での簡単な運動の促進 ③取り組みやすい運動機会づくり ④市の事業等の周知と参加の促進 ⑤運動の場の周知	○ 自分に合った適度な運動を知ろう ● 生活の中で体を動かすことを心がけよう ● 自分に合った運動習慣をもとう ● 一緒に運動する仲間をもとう
	(3) 休養	①休養の大切さへの理解の促進 ②休養を十分にとる生活習慣及び社会環境の実現に向けての啓発	○ 休養の大切さを知り、理解しよう ● 十分な睡眠で休養をとれる日を増やそう
	(4) 喫煙	①禁煙の啓発と推奨 ②禁煙への支援 ③未成年者の喫煙防止 ④妊婦の喫煙防止 ⑤受動喫煙に配慮する意識づくり	○ たばこの影響を理解しよう ● 喫煙者は禁煙にチャレンジしよう ● 喫煙者は周りの人に配慮しよう ● 未成年や妊婦の喫煙をなくそう
	(5) 飲酒	①高リスク飲酒の危険性の啓発 ②未成年者の飲酒防止 ③妊婦の飲酒防止	○ 過度な飲酒の影響を理解しよう ● 多量飲酒を減らそう ● 休肝日（お酒を飲まない日）をつくろう ● 未成年や妊婦には飲酒させないようにしよう
	(6) 歯と口腔の健康	①歯・口腔の健康の啓発 ②よくかむことの啓発 ③8020 運動の周知	○ 適切な歯と歯肉の手入れ方法を知ろう ○ 歯の健康と全身の健康との関係を知ろう ○ 8020 運動を理解しよう ● よくかんで食べよう ● 定期的に歯科健診を受けよう ● ていねいに歯をみがこう ● デンタルフロスや歯間ブラシを使おう
2 健康な社会環境を実現しよう！	(1) 地域活動の活性化と参加の促進	①地域への参加の促進 ②退職者の地域参加への支援	○ 地域活動に参加することの大切さを理解しよう ● 地域活動に積極的に参加しよう
	(2) 健康意識を高めるネットワークの強化	①多機関とのネットワーク強化 ②健康に関する企業の取り組みの促進	○ 健康と社会環境について、みんなで考えよう ● 組織や企業として、健康づくりに積極的に取り組
3 社会生活を送るために必要な健康づくり！	(1) こころの健康づくり	①ストレス解消法をもつ（上手につきあう） ②うつ予防と自殺予防の推進 ③相談機会の利用促進 ④こころの病気への理解、正しい知識の普及	○ こころの病気を知り、正しく理解しよう ● 自分なりのストレス解消法をもとう ● 相談を利用し、学習の場に参加しよう ● まわりの人のこころの不調に関心をもとう
	(2) 子どもの健康づくり	①胎児の健康 ②子どもの健康な生活習慣の体得	○ 妊娠中の喫煙、飲酒の影響を知ろう ○ 胎児や子どもの健康に必要な事柄を知ろう ● 妊娠中は喫煙、飲酒をやめよう ● 妊婦のまわりではたばこを吸わないようにしよう ● 胎児や乳幼児の健康を守る生活をしよう ● 子どもたちが、健康な生活習慣を身につけられる
	(3) 高齢者の健康づくり	①介護予防施策の推進 ②ロコモティブ・シンドロームという概念の普及 ③認知症高齢者の減少	○ 高齢者の健康づくりが介護予防につながることを ● 日常生活の中で介護予防を取り入れた健康づくり ①転ばない体づくりを心がけよう ②おいしく食べられる口腔の機能を保とう ③1日3食しっかり食べよう ④老人クラブや地域の催し物などに積極的に参加
4 生活習慣病を予防しよう！	(1) 生活習慣病予防対策の推進	①各種健（検）診の受診率向上 ②メタボリック・シンドローム予備群や該当者の減少	○ 健（検）診の大切さを知ろう ● 定期的に健（検）診を受けよう
	(2) 健康に関する正しい理解の促進	①病気のリスクや予防についての正しい知識の普及	○ 病気のリスクや予防について理解しよう ● 健康に関する情報に関心を持ち、積極的に学習し



	行政等の取り組み ※	目標指標
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 正しい知識を身につけるための学習機会や情報の提供を行います</li> <li>● 健康づくりに取り組む機会やきっかけを提供します</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 肥満、やせの減少</li> <li>・ 朝食を欠食する人の減少</li> <li>・ 野菜を毎日摂取する人の増加</li> <li>・ カルシウムを毎日摂取する人の増加</li> <li>・ 栄養成分表示を参考にする人の増加</li> <li>・ 夕食を家族と食べない子どもをなくす</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 運動と健康の関係を理解するための学習機会づくりや情報提供を行います</li> <li>● 気軽に参加できる多様な運動機会を提供します</li> <li>● 運動に関するボランティアや各種グループの活動を支援します</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校の授業以外で意識的に身体を動かす児童・生徒の増加</li> <li>・ 運動習慣のある人の増加</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 休養の大切さを理解する学習機会づくりや情報提供を行います</li> <li>● 休養を大切にする生活習慣及び社会環境の改善を支援します</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 睡眠による休養が十分にとれていない人の減少</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 禁煙を勧める啓発や情報提供を行います</li> <li>○ 喫煙マナーや受動喫煙の影響などについて啓発します</li> <li>○ 妊婦や未成年者の禁煙を徹底します</li> <li>● 受動喫煙の機会を減らす取り組みを推進します</li> <li>● 禁煙を希望する人を支援します</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 成人の喫煙率の減少</li> <li>・ 未成年者の喫煙をなくす</li> <li>・ 喫煙の影響についての知識の普及</li> <li>・ 分煙対策等を行っていない家庭の減少</li> <li>・ 分煙対策等を行っていない職場の減少</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生活習慣病のリスクを高める飲酒量について啓発や情報提供を行います</li> <li>○ 妊婦や未成年者の飲酒防止を徹底します</li> <li>● 多量飲酒の防止、妊婦や未成年の飲酒防止の意識を高めます</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 未成年者の飲酒をなくす</li> <li>・ 多量飲酒する人の減少</li> <li>・ 多量飲酒の影響についての知識の普及</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 歯の健康づくりに関する正しい知識を普及します</li> <li>● 歯の健康を守るための健診等の機会を提供します</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ むし歯のない幼児・児童の増加</li> <li>・ 歯みがきを1日3回以上する人の増加</li> <li>・ 定期的に歯科健診を受ける人の増加</li> <li>・ 8020運動を知っている人の増加</li> <li>・ 歯肉に炎症所見を有する人の減少 など</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 多様な活動等に参加する意識を啓発します</li> <li>● 多様な活動への参加機会について情報提供します</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域活動に参加している人の増加</li> </ul>
もう	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 健康と社会環境の関係について情報提供します</li> <li>○ 健康に関する企業の取り組みについて情報提供します</li> <li>● 様々な機関とのネットワークを強化します</li> <li>● 企業等の取り組みの活発化をめざします</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食育推進協力店登録数の増加</li> <li>・ 受動喫煙防止対策実施施設数の増加</li> <li>・ 健康チェック利用者数の増加</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ こころの健康についての正しい知識を普及します</li> <li>● こころの健康に関する多様な相談機会を充実します</li> <li>● 自殺予防対策を推進します</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自殺者の減少</li> <li>・ ストレス解消法をもっている人の増加</li> <li>・ こころの不調が続いた時に医療機関等を受診する人の増加</li> </ul>
よう支援しよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 胎児や子どもの健康に必要な情報を提供します</li> <li>● 親などが、胎児や乳幼児の健康を守る生活習慣を学ぶ機会を提供します</li> <li>● 子どもが、健康な生活習慣を身につけられる教育等の機会をつくりま</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 低出生体重児の減少</li> <li>・ 妊婦歯科健康診査の受診率向上</li> <li>・ 妊婦の喫煙・飲酒をなくす</li> <li>・ 乳幼児健康診査の受診率向上 など</li> </ul>
理解しよう を実践しよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高齢者が取り組みやすいような介護予防についての情報を提供します</li> <li>● 関係機関と連携して介護予防事業を充実します</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ロコモティブ・シンドロームを知っている人の増加</li> </ul>
しよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生活習慣病予防のための情報を提供します</li> <li>● 各種健（検）診等の機会を提供します</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ がん検診受診率の向上</li> <li>・ がんの標準化死亡比の減少</li> </ul>
よう	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 正しい知識を身につけるための学習機会や情報の提供を行います</li> <li>● 健康について学習する意識を啓発します</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ COPDを知っている人の増加</li> </ul>

※ ○「考えよう！健康のこと」に関する項目      ●「行動しよう！健康のために」に関する項目

## 3

## 計画策定経過

日 程	事 項
平成 23 年 10 月 21 日	第 1 回 健康日本 21 こうなん計画策定委員会開催 ・健康に関する市民アンケート調査票案について
11 月	健康に関する市民アンケート調査実施 (概要は 77 ページ参照)
平成 24 年 2 月 22 日	第 2 回 健康日本 21 こうなん計画策定委員会開催 ・健康に関する市民アンケート調査結果、第 1 次計画の評価について
5 月 14 日	第 1 回 健康を考える市民ワークショップ開催 (概要は 77～79 ページ参照)
25 日	第 1 回 健康日本 21 こうなん計画懇談会開催 ・計画の概要、スケジュールについて
29 日	第 2 回 健康を考える市民ワークショップ開催
6 月 29 日	第 3 回 健康日本 21 こうなん計画策定委員会開催 ・第 2 次健康日本 21 こうなん計画骨子案について
7 月 20 日	第 4 回 健康日本 21 こうなん計画策定委員会開催 ・第 2 次健康日本 21 こうなん計画骨子案について
8 月 24 日	第 2 回 健康日本 21 こうなん計画懇談会開催 ・第 2 次健康日本 21 こうなん計画骨子案について
9 月 28 日	第 5 回 健康日本 21 こうなん計画策定委員会開催 ・第 2 次健康日本 21 こうなん計画案について
10 月 17 日	第 6 回 健康日本 21 こうなん計画策定委員会開催 ・第 2 次健康日本 21 こうなん計画案について
31 日	第 3 回 健康日本 21 こうなん計画懇談会開催 ・第 2 次健康日本 21 こうなん計画案について
11 月 15 日 ～ 12 月 17 日	パブリックコメント実施
平成 25 年 1 月 18 日	第 7 回 健康日本 21 こうなん計画策定委員会開催 ・パブリックコメント結果について ・第 2 次健康日本 21 こうなん計画概要版の検討
1 月 31 日	第 4 回 健康日本 21 こうなん計画懇談会開催 ・パブリックコメント結果について ・第 2 次健康日本 21 こうなん計画概要版の検討

## 4

# 第2期健康日本21 こうなん計画懇談会設置要綱

(設置)

**第1条** 市民の健康の増進を目的とした第2期健康日本21 こうなん計画（以下「計画」という。）の策定に資するため、第2期健康日本21 こうなん計画懇談会（以下「懇談会」という。）を置く。

(所掌事務)

**第2条** 懇談会は、計画の策定に向けて意見を述べ、計画の策定に関し必要な事項を研究及び検討する。

(組織)

**第3条** 懇談会は、委員16名以内で組織する。

2 委員は、優れた識見を有する者のうちから市長が委嘱する。

(会長及び副会長)

**第4条** 懇談会に会長及び副会長を置き、その選出は、委員の互選によって定める。

2 会長は、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(委員)

**第5条** 委員の任期は、第2条に規定する計画の策定に関する研究及び検討の終了までとする。

(会議)

**第6条** 懇談会の会議は、会長が招集する。

2 懇談会は、必要に応じて関係者の出席を求め、説明又は意見を聞くことができる。

(庶務)

**第7条** 懇談会の庶務は、健康福祉部健康づくり課において処理する。

(雑則)

**第8条** この要綱に定めるもののほか、懇談会の運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成24年4月1日より施行する。

## 第2期健康日本21こうなん計画懇談会委員名簿

氏 名	所属（職名）等
会 長	住 井 久 子 愛知江南短期大学教授
副 会 長	陸 浦 歳 之 社会福祉法人江南市社会福祉協議会会長
委 員	沓 名 珠 子 公募委員
委 員	久 間 美 智 子 江南保健所地域支援課課長補佐
委 員	鈴 木 浩 樹 公募委員
委 員	関 谷 稻 代 公募委員
委 員	棚 橋 克 己 江南労働基準監督署安全専門官
委 員	津 田 共 久 江南市PTA連合会会長
委 員	中 川 昭 人 江南市体育協会理事長
委 員	中 島 仁 尾北歯科医師会会長
委 員	新 藏 浩 美 江南市養護教諭代表(草井小学校教諭)
委 員	丹 羽 加 代 子 健康ボランティアフットケア代表
委 員	平 松 克 之 江南薬剤師会会員
委 員	前 川 晶 布袋病院ケースワーカー
委 員	村 瀬 範 高 尾北医師会会員
委 員	吉 田 守 江南市老人クラブ連合会副会長

（委員 50音順）

## 5

# 健康日本 21 こうなん計画策定委員会設置要綱

(設置)

**第1条** 市民の健康増進を目的とした、健康日本21 こうなん計画（以下「計画」という。）を策定するため、健康日本21 こうなん計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

**第2条** 委員会は、次の各号に掲げる事項を所掌する。

- (1) 現行計画の最終評価に関すること。
- (2) 計画立案のための調査及び研究に関すること。
- (3) 計画原案の検討及び調整に関すること。
- (4) その他計画策定に必要な事項の調査及び研究に関すること。

(組織)

**第3条** 委員会は、健康日本21 こうなん計画推進委員会委員をもって組織する。

(委員長及び副委員長)

**第4条** 委員会に、委員長及び副委員長を置く。

- 2 委員長は、健康日本21 こうなん計画推進委員会委員長を充てる。
- 3 副委員長は、健康日本21 こうなん計画推進委員会副委員長を充てる。
- 4 委員長は、委員会の会務を総理する。
- 5 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき又は欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

**第5条** 委員会は、委員長が招集し、議長を務める。

- 2 委員会は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。
- 3 委員長は、必要があると認めるときは、委員会に委員以外の者の出席を求め、意見を聞くことができる。

(庶務)

**第6条** 委員会の庶務は、健康福祉部健康づくり課において処理する。

(雑則)

**第7条** この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が定める。

附 則

この要綱は、平成23年8月1日から施行する。

## 健康日本21こうなん計画策定委員会委員名簿

	構 成 員
委 員 長	副市長
副委員長	健康福祉部 部長
委 員	生活産業部 市民サービス課長
委 員	生活産業部 産業振興課長
委 員	健康福祉部 高齢者生きがい課長
委 員	健康福祉部 子育て支援課長
委 員	健康福祉部 福祉課長
委 員	健康福祉部 健康づくり課長
委 員	健康福祉部 保険年金課長
委 員	都市整備部 まちづくり課長
委 員	経営企画部 地域協働課長
委 員	経営企画部 行政経営課長
委 員	教育部 教育課長
委 員	教育部 生涯学習課長





## 江南市民憲章

わたしたちの江南市は、木曽の清流にはぐくまれた広やかな濃尾平野の北部にあり、伝統にかがやく産業と文化のまちです。

わたしたちは、この江南市を愛し、市民であることに誇りと責任をもっています。

このまちを、さらに明るく住みよい豊かなまちへの願いをこめてこの憲章を定めます。

わたしたち、江南市民は

1. 自然を愛し、美しいまちにしましょう
  1. 心のかよう、温かいまちにしましょう
  1. 健康につとめ、明るい豊かなまちにしましょう
  1. きまりを守り、住みよいまちにしましょう
  1. 教養を深め、文化の高いまちにしましょう
- 
- 

### 第2次 健康日本21 こうなん計画

平成25年3月

発行 愛知県江南市

編集 健康福祉部 健康づくり課

〒483-8701 江南市赤童子町大堀 90 番地

電話 (0587)54-1111 (代)